## () 鳥類

現地調査により確認された鳥類のうち、表 8-1-4-62 に示すとおり 33 種の鳥類が重要な種に選定された。重要な種の確認状況は表 8-1-4-63 に、確認位置 (一般鳥類調査) は図 8-1-4-8 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-62 現地調査による重要な種(鳥類)

				対	象事							重要種選定基	.準		
No.		科名			実施区域										
	目名		種名	内 改変区域		I	П	Ш	IV	V	<b>人</b> 胆	地帯別評価		VII	
				内	外	外						全県評価		台地・ 丘陵帯	
1	カモ	カモ	オシドリ			•					DD	EN(繁)・ VU(越)	EN(繁)・ VU(越)	VU(越)	
2	ハト	ハト	アオバト	•	•							RT(繁)	LP(繁)		
3	ペリカン	サギ	ミゾゴイ			•					VU	EN(繁)	EN(繁)	CR(繁)	
4	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	•	•							LP(繁)	LP(繁)		
5			ホトトギス	•		•						RT(繁)	LP(繁)		
6			ツツドリ			•						LP(繁)	LP(繁)		
7	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			•					NT	VU(繁)	VU(繁)	VU(繁)	
8	タカ	タカ	ハチクマ	•		•						EN(繁)	DD(繁)	DD(繁)	
9			トビ	•		•						DD(繁)	(1.1.)	DD(繁)	
10			ツミ	•	•	•						NT2(繁)	DD(繁)	NT2(繁)	<u> </u>
11			ハイタカ	•	•	•					NT	DD(繁)・ NT2(越)	DD (繁・越)	NT2(越)	
12			オオタカ	•	•	•					NT	VU(繁・越)	VU(繁)	VU(繁)・ NT2(越)	
13			サシバ	•	•	•					VU	CR(繁)	VU(繁)	CR(繁)	
14			ノスリ	•	•	•						NT2(繁· 越)	NT2(繁)	DD(繁)・ NT2(越)	
15	フクロウ	フクロウ	フクロウ	•		•						RT(繁)・ NT2(越)	DD(繁)	VU(繁)・ NT2(越)	
16			アオバズク			•						NT2 (繁)	DD(繁)	NT2(繁)	
	ブ゛ッホ゜ ウソウ	カワセミ	カワセミ			•						RT (繁)	12117	(2)117	
18	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	•	•	•						RT(繁)			
19	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	•						国内	VU	VU(越)		VU(越)	
20	スズメ	カササキ゛ヒタキ	サンコウチョウ	•	•	•						EN(繁)	EN(繁)	CR(繁)	
21		シシ゛ュウカラ	ヤマガラ	•	•	•						RT(繁)		NT2(繁)	
22			ヒガラ		•	•						RT(繁)		VU(繁)	
23		ウグイス	ウグイス	•	•	•						RT(繁)	NT2(繁)		
24			ヤブサメ	•		•						NT2(繁)	NT2(繁)	VU(繁)	
25		ムシクイ	オオムシクイ	•		•					DD				
26		ヒタキ	トラツグミ			•						NT2(繁)	NT2(繁)	VU(繁)	
27			ルリビタキ	•		•						RT(越)			
28			キビタキ	•	•	•						RT (繁)		NT1(繁)	
29		-, , .,	オオルリ	<u> </u>		•						RT (繁)		CR(繁)	<u> </u>
30		アトリ	ベニマシコ	•	•	_						RT(越)		NT2(越)	
31		ホオジロ	ホオジロ	•	•	•						RT (繁)		NT2(繁)	<u> </u>
32			アオジ		•	•						DD(繁)		Armo (44)	<u> </u>
33			クロジ	00	0.1	00						RT(越)		NT2(越)	<u> </u>
合計	11 目	17 科	33 種	23 種	21 種	29 種	0種	0種	0種	1種	8種	32 種	19 種	23 種	0種

注1:分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年、日本鳥学会)に準拠した。

注2:重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I「文化財保護法」(昭和25年5月30日公布、同日施行)

特天:特別天然記念物、天:天然記念物

Ⅱ「埼玉県文化財保護条例」(1955年10月1日公布、同日施行)に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天:特別天然記念物、天:天然記念物

Ⅲ「小川町文化財保護条例」(1961年2月28日公布、同日施行)に基づく天然記念物 天:天然記念物

IV「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行) 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、国内I:特定第一種国内希少野生動植物種、 国内II:特定第二種国内希少野生動植物種

V「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省)における選定種

EX: 絶滅、EW、野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧 I 類、CR: 絶滅危惧 I A 類、EN: 絶滅危惧 I B 類、

VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

VI「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) における記載種

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、

VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、NT1: 準絶滅危惧1型、NT2: 準絶滅危惧2型、DD:情報不足、

LP:絶滅のおそれのある地域個体群、RT:地帯別危惧

(繁):繁殖期 (越):越冬期

VII「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(2000 年、埼玉県) に基づく希少野生動植物種

●:希少野生動植物種

## 表 8-1-4-63(1) 重要な種の確認状況 (鳥類)

	対象事業実施区域							
種名	内 改変区域 内 外		外	確認状況				
オシドリ			•	・春季調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された(目撃)。 確認環境は、開放水域(止水)であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。				
アオバト	•	•		・秋季、冬季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域内で6例(改変区域内で3例)が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.05であった。				
ミゾゴイ		•	•	・春季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で1例、合計3例が確認された(囀り)。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・「生態系」において実施した営巣地確認調査(令和2年12月)において、合計4つの巣(古巣含む)が確認された。 (「8-1-6生態系(1)地域を特徴づける生態系1)調査結果の概要②複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息若しくは生育環境の状況(b)注目種に係る調査結果の概要c)特殊性注目種(ミゾゴイ)(ウ)現地調査」参照)				
ジュウイチ	•	•		・春季調査において、対象事業実施区域内で2例(改変区域内で1例)が 確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。				
ホトトギス	•	•	•	・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で3例、対象事業実施区域内で7例(改変区域内で4例)、合計10例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.08であった。				
ツツドリ			•	・春季調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された(囀り)。 確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。				
ヨタカ			•	・春季調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された(目撃)。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。				

表 8-1-4-63(2) 重要な種の確認状況(鳥類)

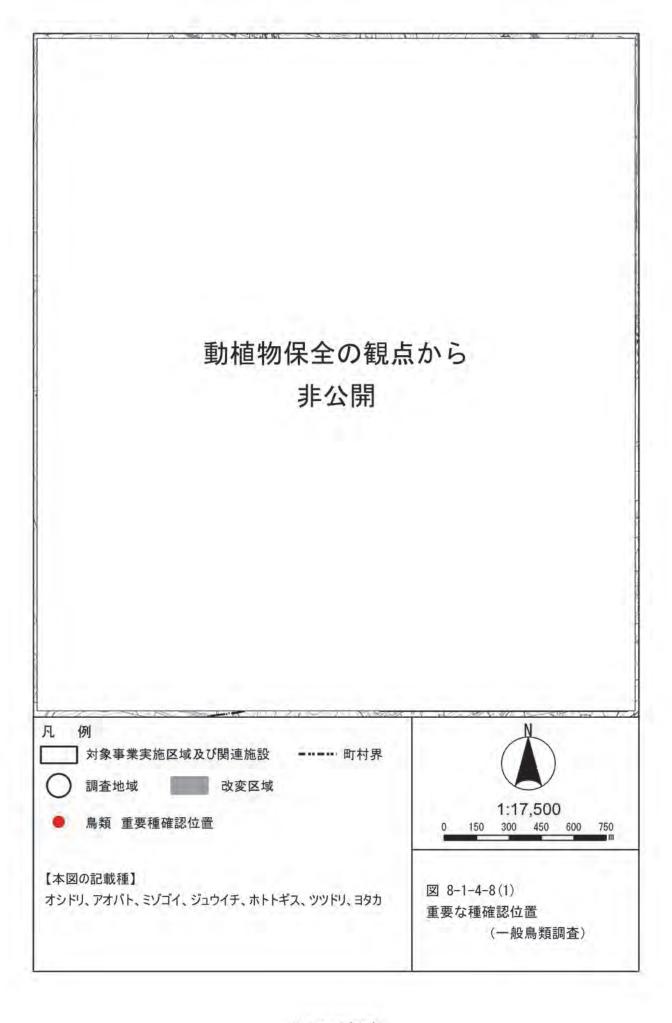
	나 본 -		4-1-0	03 (Z) 里安な性の唯能仏が(局規) 
	対象事業実施区域			
種名	P	•		確認状況
1至7日	改変区域		外	作用
	内	外		
				・猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計 57 例が確認された。
ハチクマ	•	•	•	・1ペアの繁殖が確認され、巣立ち後の幼鳥が確認されたことから、繁殖に成功した。繁殖期には本種の営巣地が確認され
				なかったものの、その後非繁殖期(落葉期)に対象事業実施 区域内(改変区域内)に本種が利用した可能性がある巣が確 認された。
トビ	•	•	•	・秋季調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計35例が確認された。
				・繁殖に係る行動は確認されなかった。 ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で3例が
ツミ	•	•	•	確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計44例が確認された。 ・対象事業実施区域外で1ペアの繁殖が確認された。巣立ち後
				の幼鳥は確認されなかったものの、繁殖に成功したと考えられた。
ハイタカ	•	•	•	・冬季調査において、対象実施区域内で1例(改変区域内で1例)が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業 実施区域内外で合計13例が確認された。
オオタカ	•	•	•	・繁殖に係る行動は確認されなかった。 ・猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計 6 例が確認された。 ・繁殖に係る行動(ディスプレイ飛翔)が確認されたが、繁殖
サシバ	•	•	•	は確認されなかった。 ・繁殖期調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計359例が確認された。
,				・対象事業実施区域内で2ペア、対象事業実施区域外で1ペア、合計3ペアの繁殖が確認され、いずれのペアも巣立ち後の幼鳥が確認されたことから、繁殖に成功した。
ノスリ	•	•	•	・秋季、冬季及び春季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で3例(改変区域内で1例)、合計5例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計139例が確認された。 ・対象事業実施区域内で1ペアの繁殖が確認されたものの、幼島の確認はなく、繁殖に途中失敗したと考えられた
フクロウ	•		•	鳥の確認はなく、繁殖に途中失敗したと考えられた。 ・冬季及び春季調査において、対象事業実施区域外で16例、 対象事業実施区域内で1例(改変区域内で1例)、合計17例 が確認された(目撃及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び 針葉樹林であった。 ・対象事業実施区域外で合計1ペアの繁殖が確認された。
アオバズク			•	・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が 確認された(轉り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林で あった。

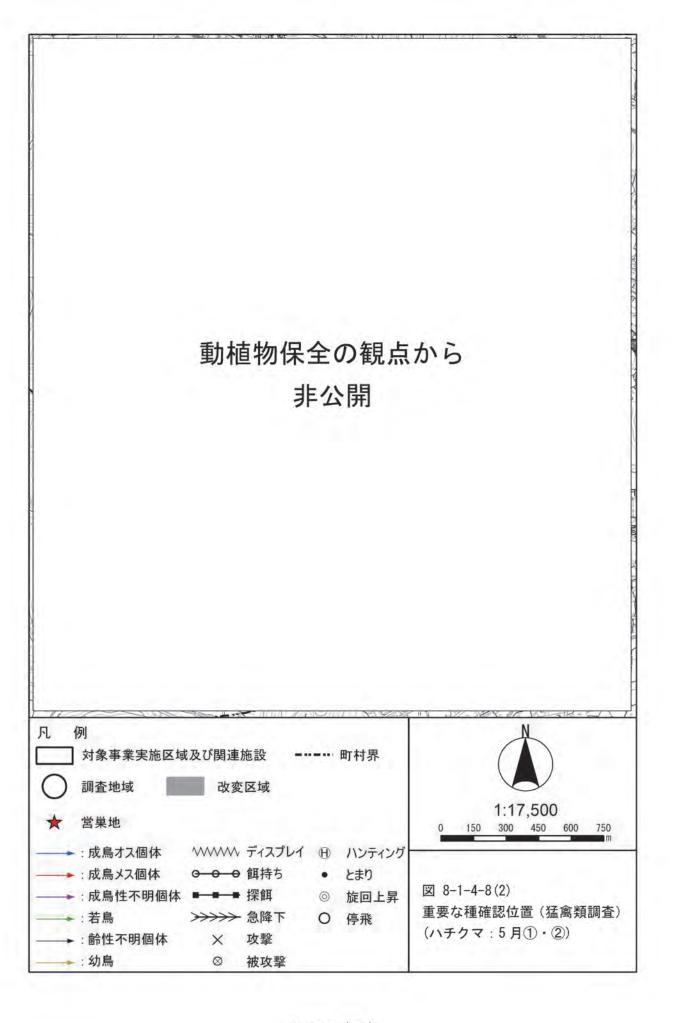
## 表 8-1-4-63(3) 重要な種の確認状況(鳥類)

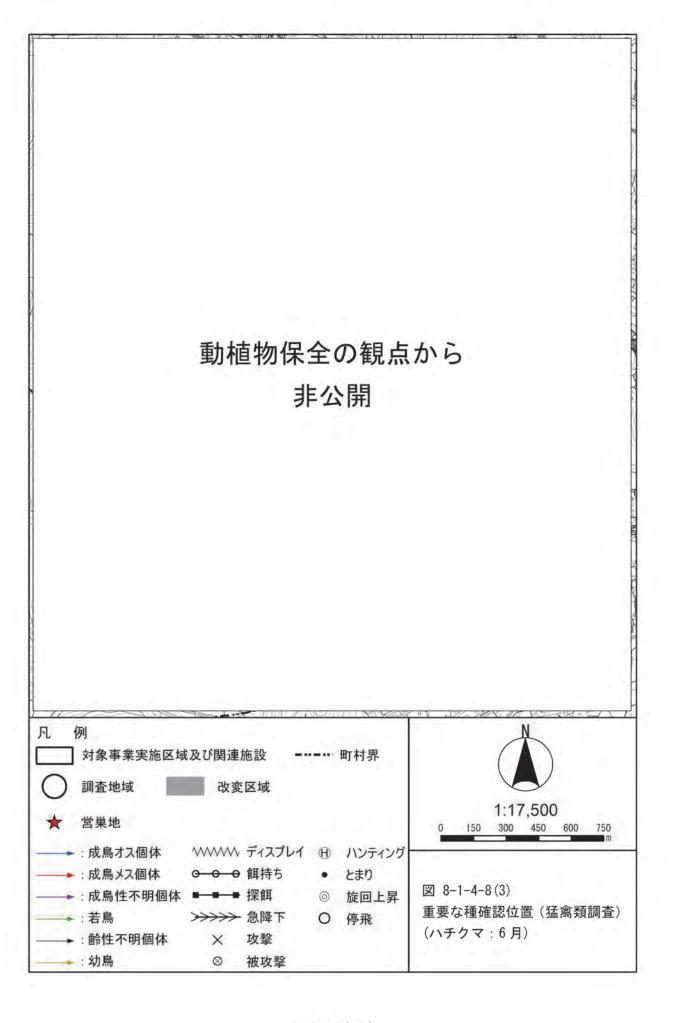
	対象事業実施区域		区域				
種名	Þ			確認状況			
124	改変区域		外	Plant VVD			
カワセミ	内	外	•	・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された。確認環境は、開放水域(流水)であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。 ・対象事業実施区域外で1つの巣及び繁殖が確認された。			
アオゲラ	•	•	•	・秋季、春季、繁殖期及び夏季調査において、対象事業実施区域外で5例、対象事業実施区域内で15例(改変区域内で7例)、合計20例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.05、針葉樹林で0.10であった。			
ハヤブサ	•			・猛禽類の調査において、対象事業実施区域内で3例が確認された。 ・繁殖に係る行動は確認されなかった。 ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で8例、対象事業実			
サンコウチョウ	•	•	•	・春学及び繁殖期調査において、対象事業美地区域外で8例、対象事業美施区域内で7例(改変区域内で3例)、合計15例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.04であった。			
ヤマガラ	•	•	•	・全調査において、対象事業実施区域外で44例、対象事業実施区域内で88例(改変区域内で55例)、合計132例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及びそれらの低木林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.79、針葉樹林で0.89であった。			
ヒガラ		•	•	・冬季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で2例、合計3例が確認された(鳴き声)。確認環境は、針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は針葉樹林で0.07であった。			
ウグイス	•	•	•	・全調査において、対象事業実施区域外で27例、対象事業実施区域内で76例(改変区域内48例)、合計103例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低木林、高茎草地、笹原及び竹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.91、針葉樹林で0.27、伐採跡地・竹林で1.59、草地で0.48であった。			
ヤブサメ	•	•	•	・春季、繁殖期及び夏季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象 事業実施区域内で10例(改変区域内で7例)、合計12例が確認された (地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及び竹林であっ た。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.04、針葉樹 林で0.21、伐採跡地・竹林で0.53であった。			
オオムシクイ	•		•	・春季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例(改変区域内で1例)、合計2例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。			
トラツグミ			•	・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された (囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。			
ルリビタキ	•		•	・冬季調査において、対象事業実施区域外で3例、対象事業実施区域内で5例(改変区域内で5例)、合計8例が確認された(目撃及び地鳴き)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及びその低木林であった。・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.18、針葉樹林で0.12であった。			

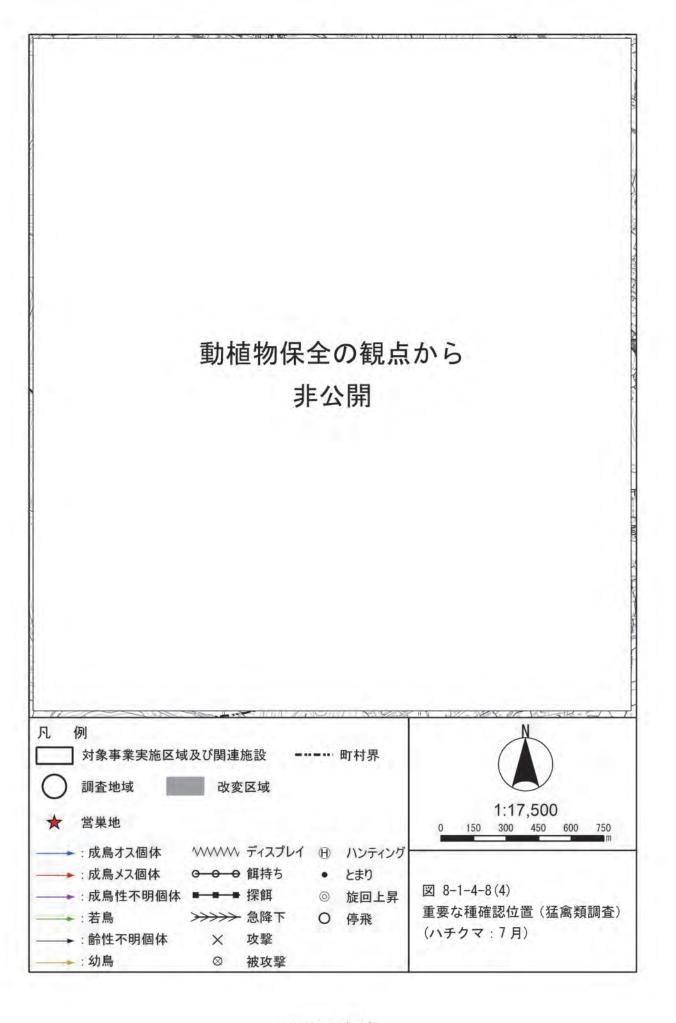
## 表 8-1-4-63(4) 重要な種の確認状況(鳥類)

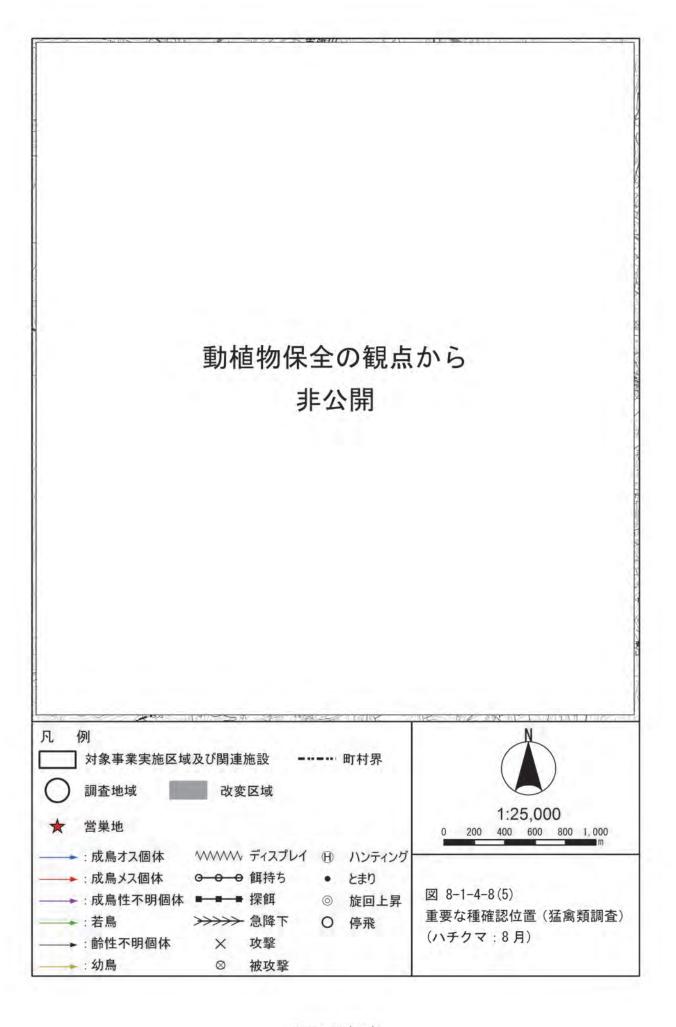
	対象事業実施区域							
種名	内			##÷#1√\\\\				
(里石	改変区域		外	確認状況				
	内	外						
キビタキ	•	•	•	・秋季、春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で16 例、対象事業実施区域内で27 例(改変区域内で13 例)、合計43 例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.27、針葉樹林で0.20 であった。				
オオルリ			•	・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された (轉り)。確認環境は、針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は針葉樹林で0.04であっ た。				
ベニマシコ	•	•		・冬季調査において、対象事業実施区域内で8例(改変区域内で6例)が確認された(目撃及び地鳴き)。確認環境は、広葉樹林の低木林及び高茎草地であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は伐採跡地・竹林で0.80、草地で0.30であった。				
ホオジロ	•	•	•	・全調査において、対象事業実施区域外で27例、対象事業実施区域内で60例(改変区域内で44例)、合計87例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低木林、高茎草地、低茎草地、耕作地、果樹園及び人工構造物であった。・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.12、伐採跡地・竹林で1.27、草地で1.52であった。				
アオジ	•	•	•	・秋季及び冬季調査において、対象事業実施区域外で26例、対象事業実施区域内で47例(改変区域内で35例)、合計73例が確認された(目撃及び地鳴き)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低木林、高茎草地、低茎草地、笹原及び竹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.61、針葉樹林で0.19、伐採跡地・竹林で5.58、草地で1.50であった。				
クロジ			•	・冬季調査において、対象事業実施区域外で12例が確認された(目撃及び地鳴き)。確認環境は、針葉樹林の低木林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度は針葉樹林で0.74個体/haであった。				









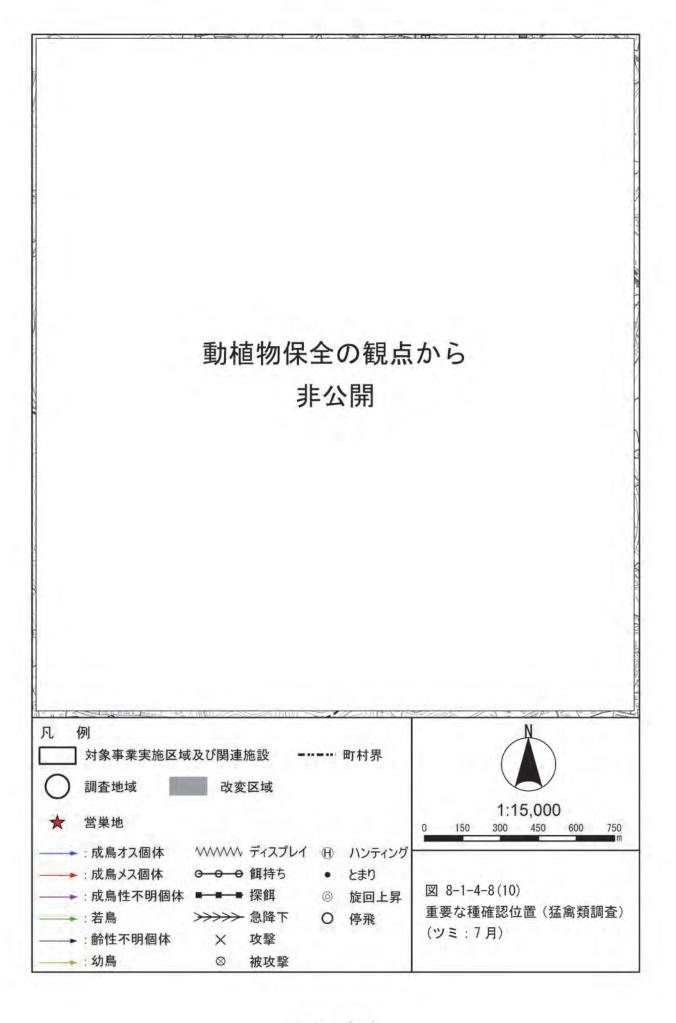


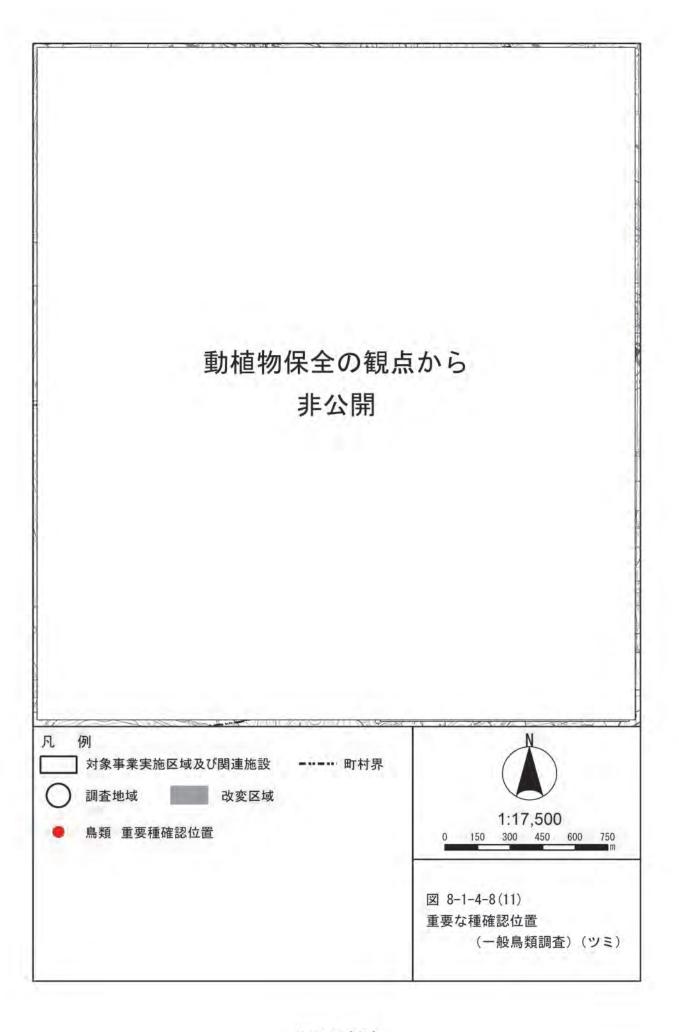








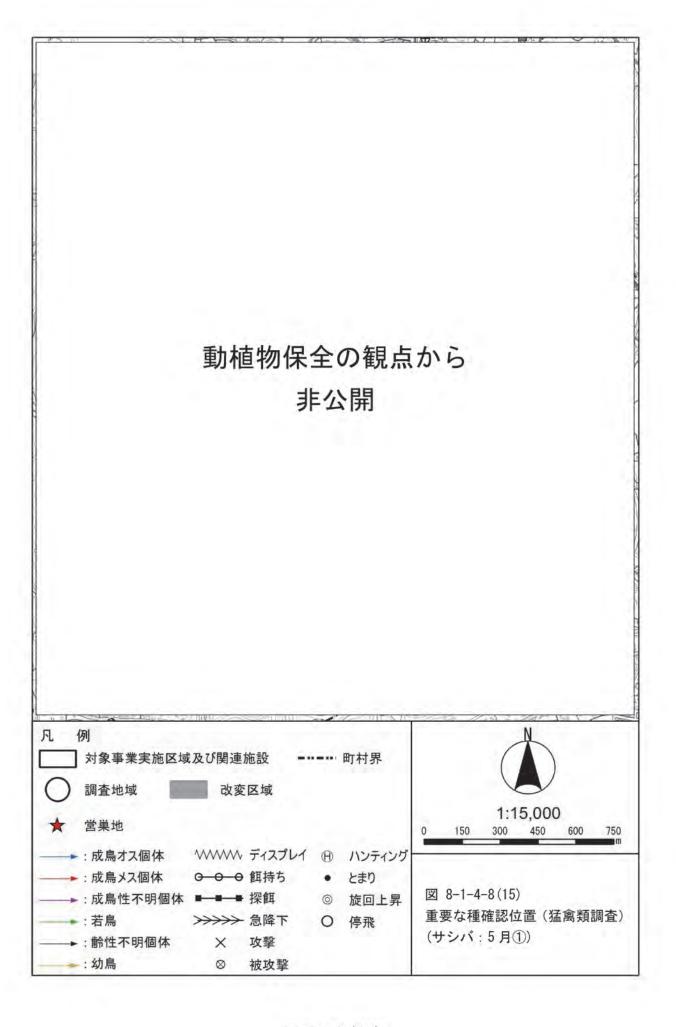




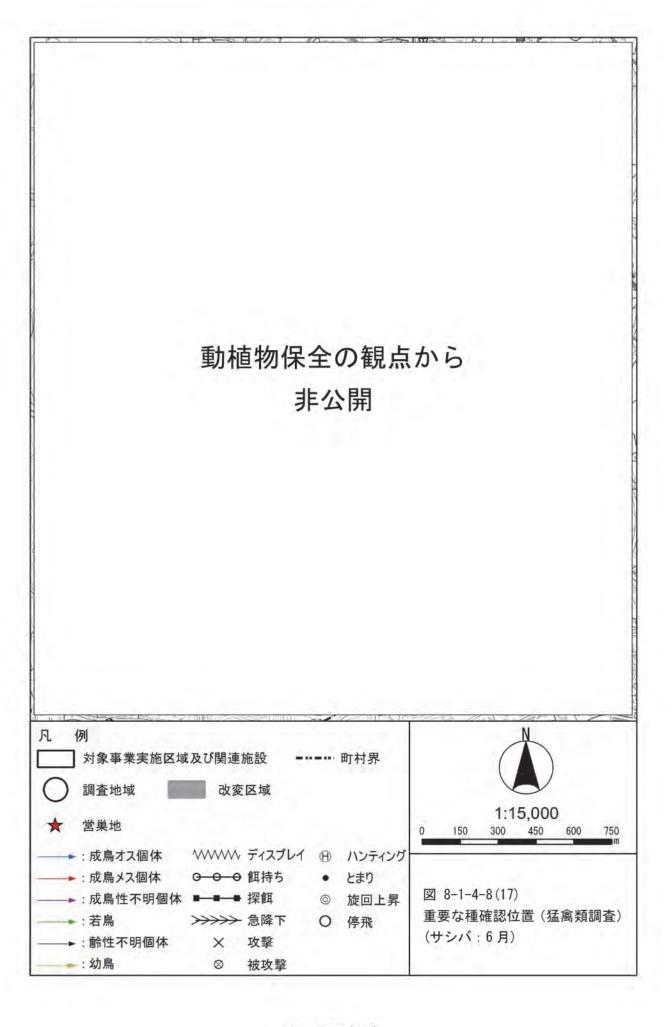








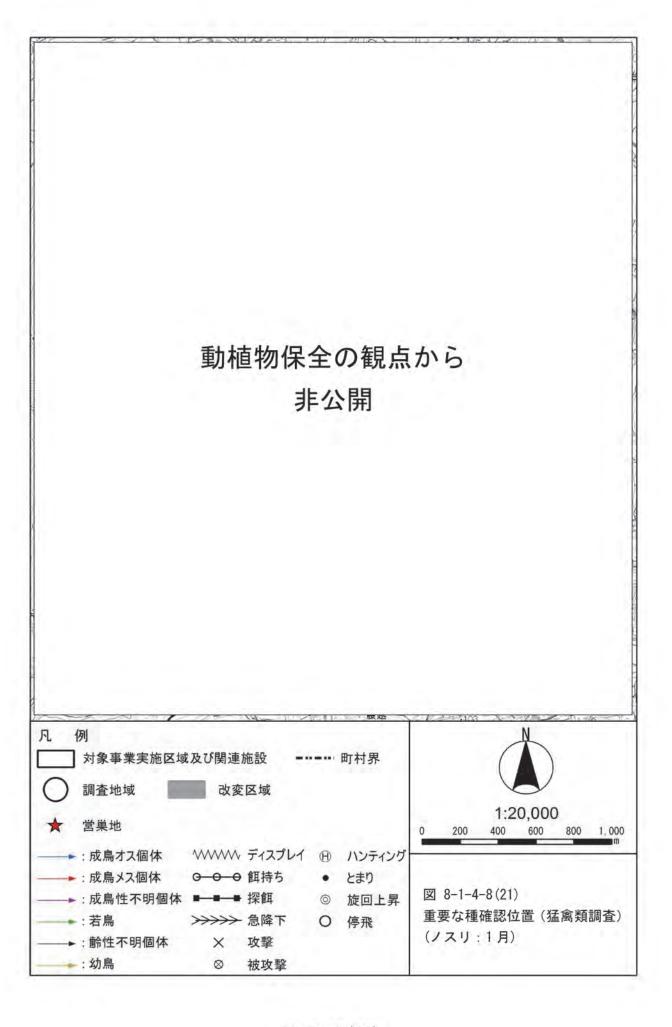


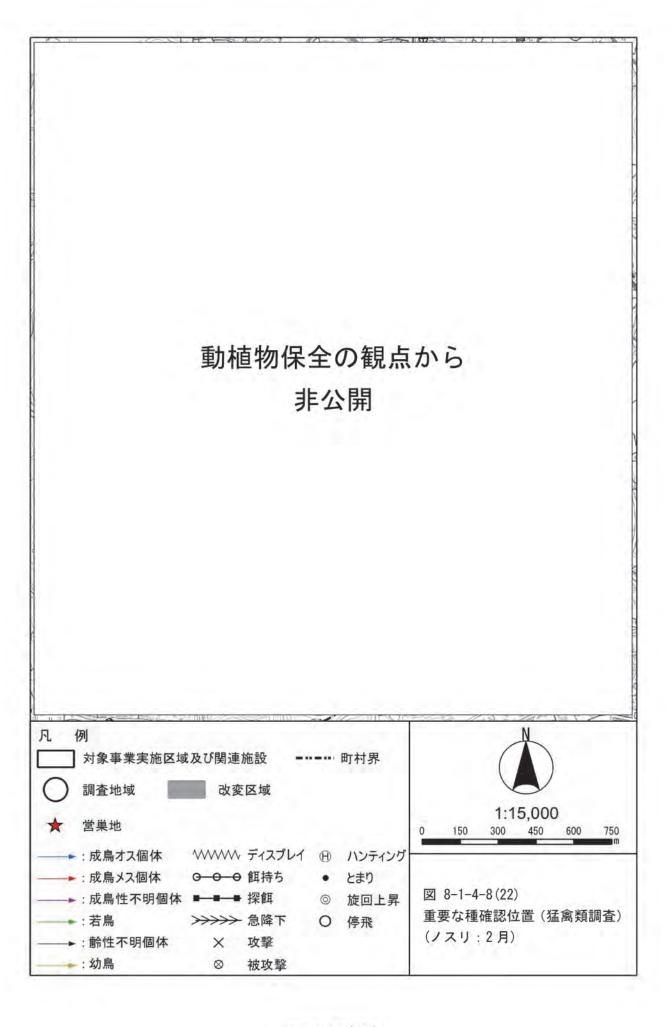


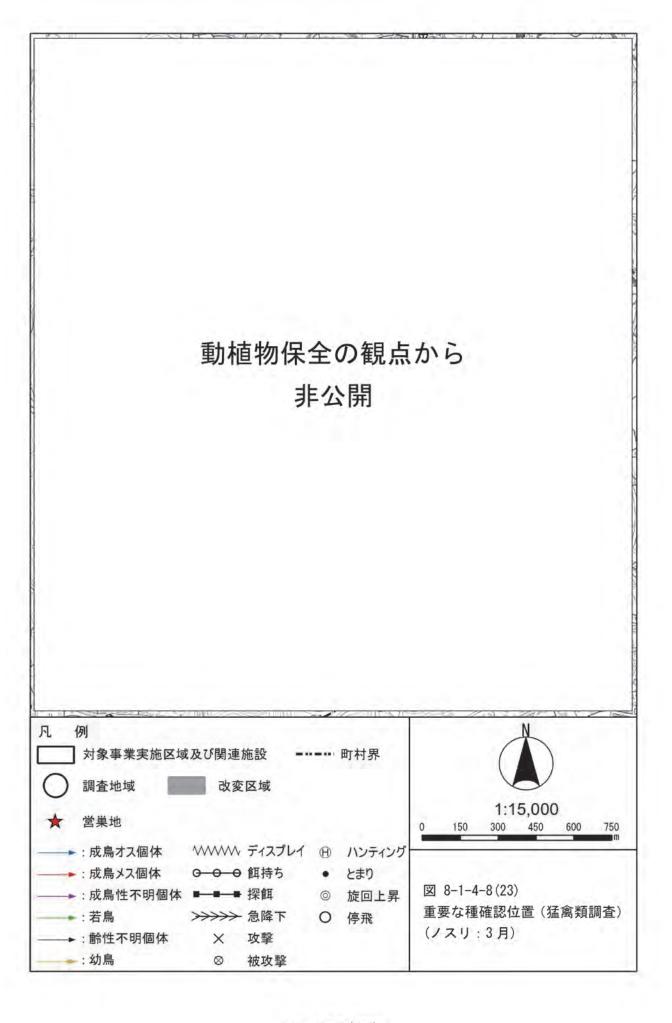




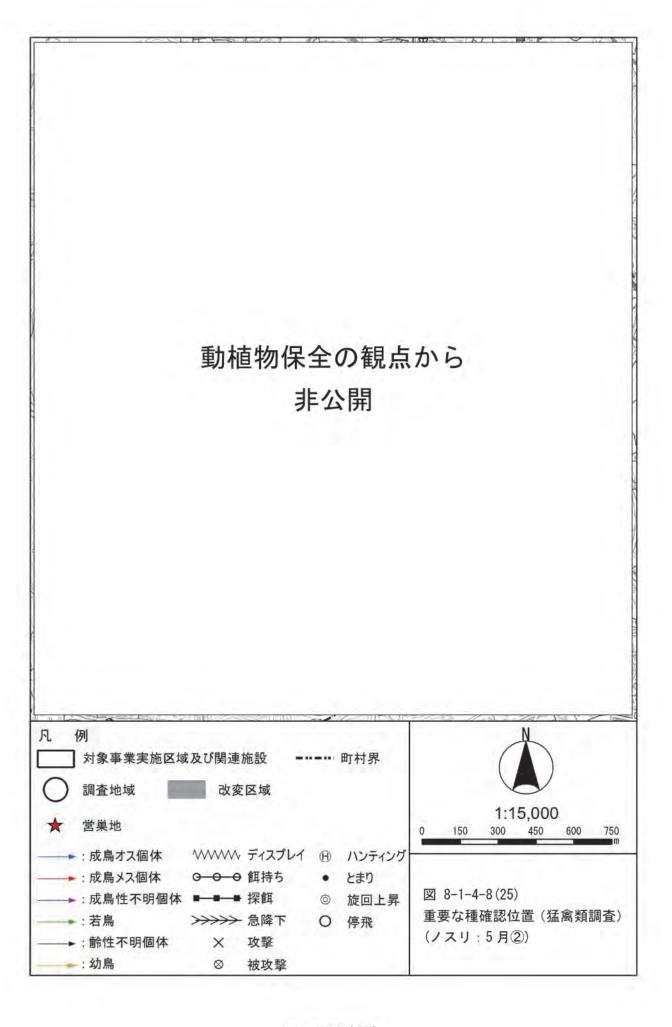






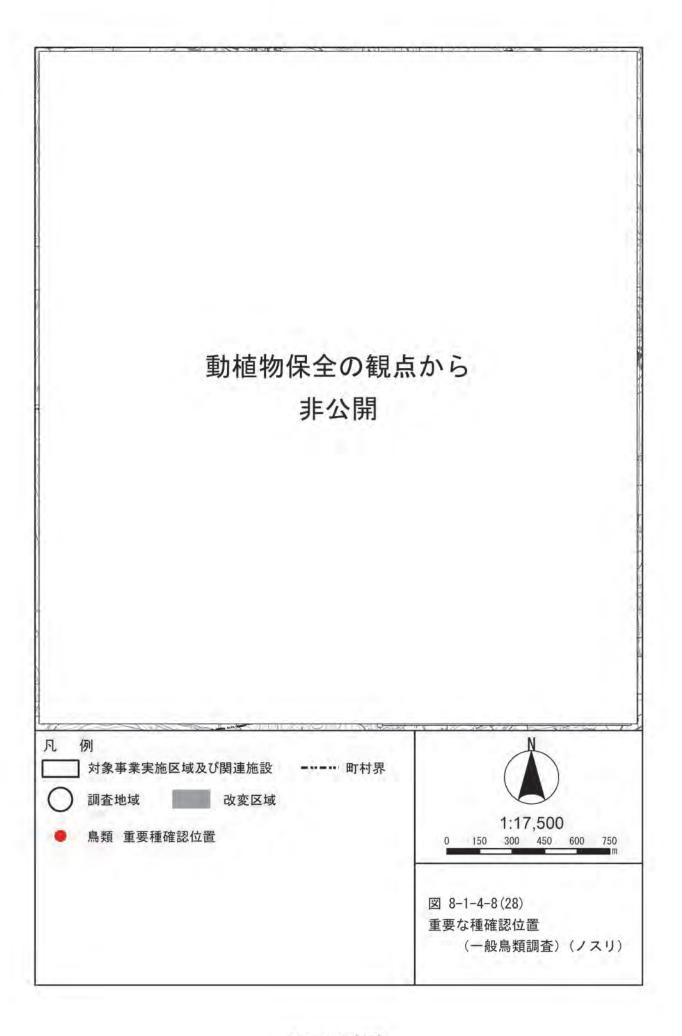


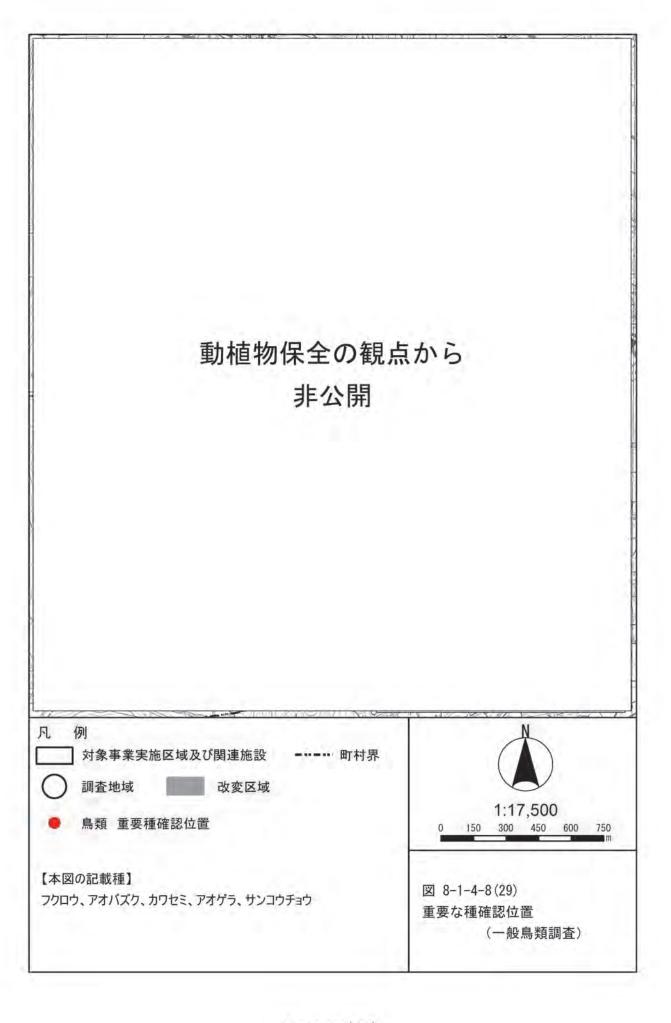








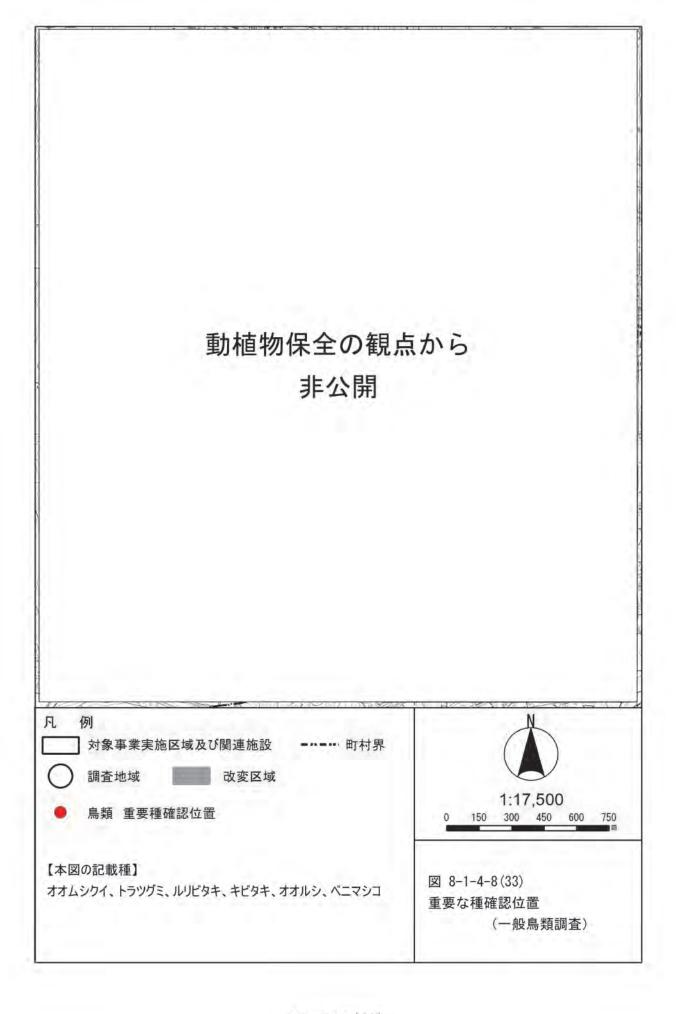




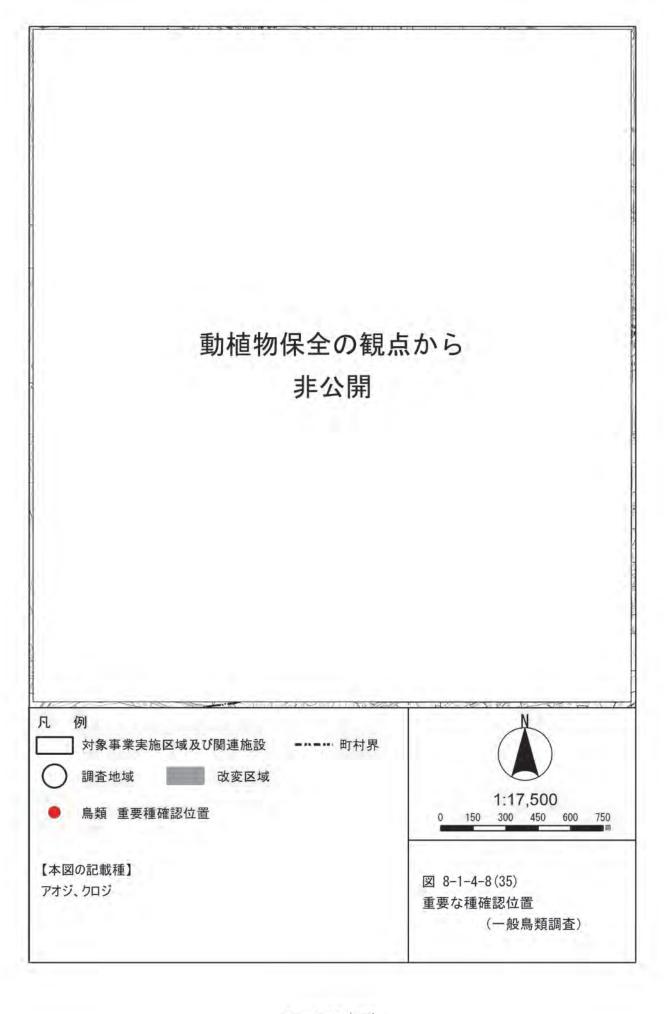












### ウ) 爬虫類

現地調査により確認された爬虫類のうち、表 8-1-4-64 に示すとおり 7 種の爬虫類が 重要な種に選定された。

現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-65 に、確認位置は図 8-1-4-9 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-64 現地調査による重要な種 (爬虫類)

					ナ象偉 ミ施区					重	要種選	定基準	Ė					
		1 h	15 b	P	勺				VI									
No.	目名	科名	種名	改変	区域	外	ī	П	Ш	IV	$_{ m V}$	全県	地帯別	川評価	VII			
				内	外		1	11	111	1 4	V	評価	低山帯	台地・ 丘陵帯	VII			
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	•		•						NT2	NT2	NT2				
2		カナヘビ	ニホンカナヘビ	•	•	•						RT						
3		ナミヘビ	ジムグリ	•		•						NT1	NT2	NT1				
4			アオダイショウ			•						NT2	NT2	NT2				
5			シマヘビ	•		•						VU	EN	EN				
6			ヤマカガシ		•	•						NT1	NT1	NT2				
7		クサリヘビ	ニホンマムシ			•						NT2	NT2	NT2				
合計	1 目	4科	7種	4種	2種	7種	0種	0種	0種	0種	0種	7種	6種	6種	0種			

- 注1:分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」(2019年11月、日本爬虫両棲類学会)に準拠した。
- 注2: 重要種の選定基準は、以下のとおりである。
  - I「文化財保護法」(昭和25年5月30日公布、同日施行)

特天:特別天然記念物、天:天然記念物

- Ⅱ「埼玉県文化財保護条例」(1955年10月1日公布、同日施行)に基づく天然記念物・特別天然記念物
- 特天:特別天然記念物、天:天然記念物
- Ⅲ「小川町文化財保護条例」(1961年2月28日公布、同日施行)に基づく天然記念物

天:天然記念物

- IV「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行) 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、国内I:特定第一種国内希少野生動植物種、 国内II:特定第二種国内希少野生動植物種
- V「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省)における選定種

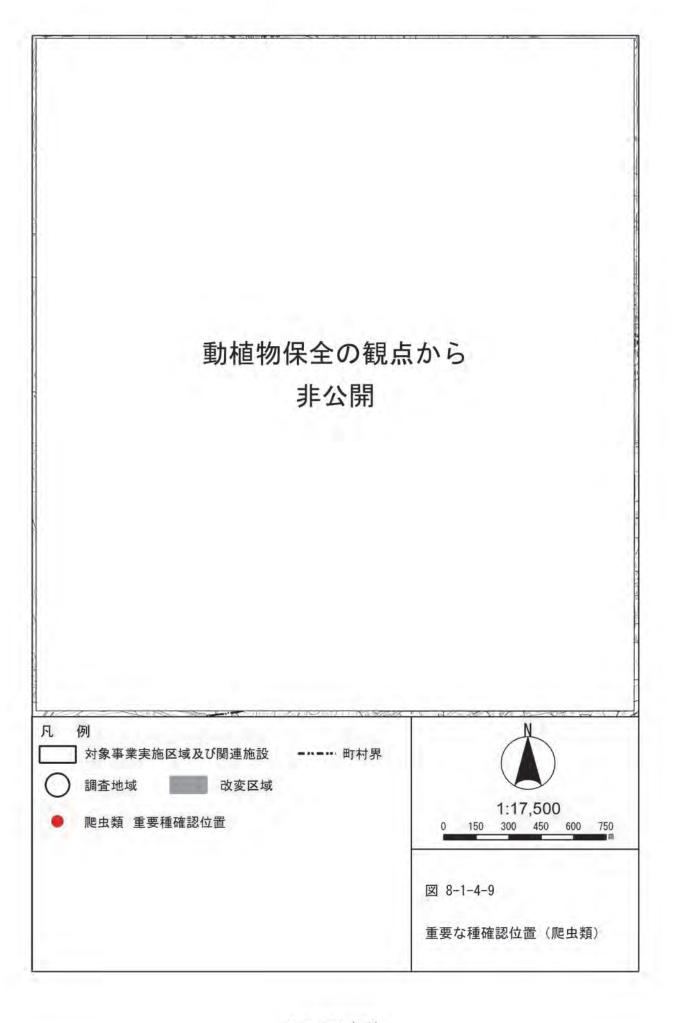
EX: 絶滅、EW、野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧 I 類、CR: 絶滅危惧 I A 類、EN: 絶滅危惧 I B 類、

WU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

- VI「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) における記載種
  - EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧 I類、CR: 絶滅危惧 IA類、EN: 絶滅危惧 IB類、
  - VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、NT1: 準絶滅危惧1型、NT2: 準絶滅危惧2型、DD:情報不足、
  - LP: 絶滅のおそれのある地域個体群、RT: 地帯別危惧
- VII「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(2000 年、埼玉県) に基づく希少野生動植物種
  - ●:希少野生動植物種

表 8-1-4-65 重要な種の確認状況 (爬虫類)

	対象	事業実施	区域	
種名	改変内	•	外	確認状況
ヒガシニホントカゲ	•		•	・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で12例、 対象事業実施区域外で3例(改変区域内で3例)、合計15例 が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、低茎草地及び人工構造物であった。
ニホンカナヘビ	•	•	•	・全調査において、対象事業実施区域外で9例、対象事業実施 区域内で6例(改変区域内で5例)、合計15例が確認され た。 ・確認環境は、広葉樹林、高茎草地、低茎草地及び人工構造物 であった。
ジムグリ	•		•	<ul><li>・秋季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例(改変区域内で1例)、合計2例が確認された。</li><li>・確認環境は、広葉樹林及び低茎草地であった。</li></ul>
アオダイショウ			•	・全調査において、対象事業実施区域外で3例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、高茎草地及び低茎草地であった。
シマヘビ	•		•	<ul><li>・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例(改変区域内で1例)、合計2例が確認された。</li><li>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li></ul>
ヤマカガシ		•	•	・全調査において、対象事業実施区域外で4例、対象事業実施 区域内で1例、合計5例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、低茎草地及び湿地・たまりであっ た。
ニホンマムシ			•	・秋季調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林であった。



#### エ) 両生類

現地調査により確認された両生類のうち、表 8-1-4-66 に示すとおり 6 種の両生類が 重要な種に選定された。

現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-67 に、確認位置は図 8-1-4-10 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-66 現地調査による重要な種(両生類)

				対象事業 実施区域			重要種選定基準									
N.T.		到力	<b></b>	Þ	7								VI			
No.	目名	科名	種名	改変	区域		Ţ	П	Ш	IV	V	全県	地帯別	川評価	VII	
				内	外	外	1	11	ш	1 V	v		低山帯	台地・ 丘陵帯	VII	
1	有尾	サンショウウオ	トウキョウサンショウウオ	•		•				国内Ⅱ	VU	EN	EN	EN		
2	無尾	ヒキカ゛エル	アズマヒキガエル	•	•	•						NT1	NT2	VU		
3		アカカ゛エル	ニホンアカガエル			•						VU		VU		
4			ヤマアカガエル	•	•	•						NT2	NT2	NT1		
_			アカガエル属**	•		•						VU/NT2	/NT2	VU/NT1		
5			トウキョウダルマガエル			•					NT	NT1	NT1	NT1		
6		アオカ゛エル	シュレーゲルアオガエル			•						NT2	NT2	NT2		
合計	2 目	4 科	6 種	5種	3種	6種	0種	0種	0種	1種	2種	6種	5種	6種	0種	

- 注1:分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」(2019年11月、日本爬虫両棲類学会)に準拠した。
- 注2:重要種の選定基準は、以下のとおりである。
  - I「文化財保護法」(昭和25年5月30日公布、同日施行)

特天:特別天然記念物、天:天然記念物

- Ⅱ「埼玉県文化財保護条例」(1955年10月1日公布、同日施行)に基づく天然記念物・特別天然記念物 特天:特別天然記念物、天:天然記念物
- Ⅲ「小川町文化財保護条例」(1961年2月28日公布、同日施行)に基づく天然記念物

天:天然記念物

- IV「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行) 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、国内 I:特定第一種国内希少野生動植物種、 国内Ⅱ:特定第二種国内希少野生動植物種
- V「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省)における選定種

EX: 絶滅、EW、野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧 I 類、CR: 絶滅危惧 I A 類、EN: 絶滅危惧 I B 類、

VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

- VI「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) における記載種

  - EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧 I 類、CR: 絶滅危惧 I A 類、EN: 絶滅危惧 I B 類、
  - VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、NT1: 準絶滅危惧1型、NT2: 準絶滅危惧2型、DD: 情報不足、
  - LP:絶滅のおそれのある地域個体群、RT:地帯別危惧
- VII「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(2000 年、埼玉県) に基づく希少野生動植物種
  - ●:希少野生動植物種
- 注 3:※について、アカガエル属は卵塊の確認であり、その確認状態からニホンアカガエル又はヤマアカガエルと考えら れた。両種はいずれも重要種の選定基準VIにおける選定種であることから、ここでは重要な種として扱うこととし、 その選定状況は「ニホンアカガエル/ヤマアカガエル」として標記した。

# 表 8-1-4-67 重要な種の確認状況(両生類)

	<b>計</b> 魚	事業実施	<b>又</b> 城	
種名	改変		外	確認状況
	内	外外	21	
トウキョウサンショウウオ	•	71	•	・早春季及び春季調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で4例4個体、対象事業実施 区域内で1例1個体(改変区域内で1例1個体)が確認された。 【幼生】対象事業実施区域外で1例7個体が確認された。 【卵塊・卵嚢】対象事業実施区域外で1例8卵嚢、1例3卵嚢、5例2卵 嚢、対象事業実施区域内で1例1卵嚢(改変区域内で1例1卵嚢)が確認 された。 ・確認環境は、細流、湿地・たまり及び水田であった。
アズマヒキガエル	•	•	•	・全調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で10例11個体及び多数、対象事業実施区域内で4例15個体(改変区域内で3例12個体)が確認された。 【幼生】対象事業実施区域外で4例多数、対象事業実施区域内で1例20個体、4例多数(改変区域内で1例20個体、4例多数)が確認された。 【卵塊・卵嚢】対象事業実施区域外で2例1卵塊、対象事業実施区域内で2例1卵塊(改変区域内で1例1卵塊)が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、開放水域(止水及び流水)、細流、湿地・たまり、泥地及び人工構造物であった。
ニホンアカガエル			•	・早春季調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 【幼生】確認はなかった。 【卵塊・卵嚢】対象事業実施区域外で1例1卵塊が確認された。 ・確認環境は、湿地・たまりであった。
ヤマアカガエル	•	•	•	・全調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で7例8個体、対象事業実施 区域内で9例9個体(改変区域内で5例5個体)が確認された。 【幼生】対象事業実施区域外で1例2個体、対象事業実施区域内で1例8個 体(改変区域内で1例8個体)が確認された。 【卵塊・卵嚢】確認はなかった。 ・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低茎草地、開放水域(止水及び流水) 及び湿地・たまりであった。
アカガエル属	•		•	・早春季調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】確認はなかった。 【幼生】対象事業実施区域外で2例多数、1例50個体、対象事業実施区域 内で2例多数(改変区域内で2例多数)が確認された。 【卵塊・卵嚢】対象事業実施区域外で1例10卵塊、1例2卵塊、対象事業 実施区域内で1例2卵塊、1例1卵塊(改変区域内で1例2卵塊、1例1 卵塊)が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。
トウキョウダル マガエル			•	・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 【幼生】確認はなかった。 【卵塊・卵嚢】確認はなかった。 ・確認環境は、水田であった。
シュレーゲルア オガエル	•	•	•	・早春季及び春季調査において、以下のとおり確認された。 【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で4例6個体、対象事業実施 区域内で6例13個体(改変区域内で5例11個体)が確認された。 【幼生】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された。 【卵塊・卵嚢】対象事業実施区域外で9例1卵塊、対象事業実施区域内で4例1卵塊、1例2卵塊(改変区域内で3例1卵塊、1例2卵塊)が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林、高茎草地、低茎草地、開放水域(止水)、湿地・たまり及び水田であった。









### オ) 昆虫類

現地調査により確認された昆虫類のうち、表 8-1-4-68 に示すとおり 33 種が重要な種に選定された。現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-69 に、確認位置は図 8-1-4-11 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-68 現地調査による重要な種(昆虫類)

					象事	・ <b>シェ</b> 業		<u></u>			m 14					
					施区	或				里	安悝	<b>迭</b>	5年			
No.	目名	科名	種名	ď									VI			
110.	ни	171.41	1里41	改変	区域	外	I	П	Ш	IV	V	全県	地帯別		VII	
				内	外	/ 1	1			1	'		低山帯	台地・	'11	
					/ 1								EX (1)	丘陵帯		
1	トンボ	•	サラサヤンマ	•		•						NT2		NT2		
2		サナエトンボ		_	•							NT2	NT2	NT2		
3		トンボ	ハラビロトンボ	•		•						NT2		NT2		
	バッタ	ササキリモト゛キ	ヒメツユムシ		•							NT1	NT1	NT1		
5			ササキリモドキ	•								NT1	NT1	NT1		
6		キリギリス	ヒガシキリギリス	•		•						NT1	NT2	NT2		
7			ヒサゴクサキリ	•								DD				
8		バッタ	ナキイナゴ	•								NT1	NT1	VU		
9			ヒナバッタ			•						NT1	NT1			
10			アオフキバッタ		•							RT		NT2		
11			ハネナガイナゴ			•						NT1		NT2		
	カメムシ		ハルゼミ			•						NT1	NT1	NT1		
13	-	ハネナカ゛ウンカ	キスジハネビロウンカ		•							NT1	NT1	NT1		
14		アメンボ	オオアメンボ			•						NT2	NT2	NT2		
15		ヘリカメムシ	ヒメトゲヘリカメムシ									NT1	NT1	NT1		
16			アズキヘリカメムシ									NT1	NT1	NT1		
17	アミメカケ゛ロウ	ツノトンボ	キバネツノトンボ									CR	CR	CR		
	コウ	オサムシ	ヒトツメアオゴミムシ								NT	NT2		NT2		
19	チュウ	ゲンゴロウ	ケシゲンゴロウ								NT	EN	EN	EN		
20		ガムシ	コガムシ								DD					
21		ホタル	ゲンジボタル			•						VU	VU	VU		
22			ヘイケボタル			•						NT1	NT1	NT1		
23		オオキノコムシ	トウキョウムネヒ゛ロオオキノコムシ		•							NT1		NT1		
24	ハチ	スズメバチ	モンスズメバチ		•						DD					
25	ハエ	ハナアブ	アシホ゛ソミケハラフ゛トハナアフ゛			•						NT1	NT1	NT1		
26	トビケラ	アシエタ゛トヒ゛ケラ	コバントビケラ		•							NT	NT2	NT2		
27	チョウ	セセリチョウ	ミヤマセセリ			•						NT1		NT1		
28			ギンイチモンジセセリ	•							NT	NT2	CR	NT2		
29			ウラゴマダラシジミ			•						VU		NT1		
30		タテハチョウ	クモガタヒョウモン	•								NT2	NT2	NT2		
31			アサマイチモンジ			•						NT2	VU	NT2		
32			ミスジチョウ	•								NT2		VU		
33	]		オオムラサキ	•	•	•					NT	VU		NT1		
合計		22 科	33種		8種	14 種	0種	0種	0種	0種	6種	31 種	20 種	29 種	0種	

注1:分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」(環境庁、1995)に準拠した。

注2:重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I「文化財保護法」(昭和25年5月30日公布、同日施行)

特天:特別天然記念物、天:天然記念物

Ⅱ「埼玉県文化財保護条例」(1955年10月1日公布、同日施行)に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天:特別天然記念物、天:天然記念物

Ⅲ「小川町文化財保護条例」(1961年2月28日公布、同日施行)に基づく天然記念物

天:天然記念物

- IV「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行) 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、国内I:特定第一種国内希少野生動植物種、 国内II:特定第二種国内希少野生動植物種
- V「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省)における選定種

EX:絕滅、EW、野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、

VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

VI「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県) における記載種

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A 類、EN:絶滅危惧 I B 類、

VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、NT1:準絶滅危惧1型、NT2:準絶滅危惧2型、DD:情報不足、

LP:絶滅のおそれのある地域個体群、RT:地帯別危惧

Ⅶ「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(2000年、埼玉県)に基づく希少野生動植物種

●:希少野生動植物種

#### 表 8-1-4-69(1) 重要な種の確認状況(昆虫類)

	対象	事業実施	区域	
45.4	P	<u> </u>		
種名	改変	区域	外	確認状況
	内	外		
				・春季調査において、以下のとおり確認された。
				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体、対象事
サラサヤンマ			•	業実施区域内で1例1個体(改変区域内で1例1個体)が確
				認された。
				・確認環境は、広葉樹林であった。
				・春季調査において、以下のとおり確認された。
hadber				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認さ
ヤマサナエ				れた。
				・確認環境は、広葉樹林であった。
				・春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。
				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で 6 例 28 個体、対象
ハラビロトン				事業実施区域内で 5 例 13 個体(改変区域内で 5 例 13 個体)
ボ				が確認された。
				・確認環境は、高茎草地、低茎草地及び湿地・たまりであっ
				た。
				・秋季調査において、以下のとおり確認された。
ヒメツユムシ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で3例3個体(改変区
				域内で2例2個体)が確認された。
				・確認環境は、広葉樹林であった。
				・秋季調査において、以下のとおり確認された。
ササキリモド				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区
+				域内で1例1個体)が確認された。
				・確認環境は、広葉樹林であった。
				・春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。
				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で6例18個体が確認
ヒガシキリギ				された。
リス				【幼虫】対象事業実施区域外で1例2個体、対象事業実施区域
				内で1例2個体(改変区域内で1例2個体)が確認された。
				・確認環境は、高茎草地、低茎草地及び耕作地であった。
				・秋季調査において、以下のとおり確認された。
ヒサゴクサキ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区
リ				域内で1例1個体)が確認された。
				・確認環境は、竹林であった。

# 表 8-1-4-69(2) 重要な種の確認状況(昆虫類)

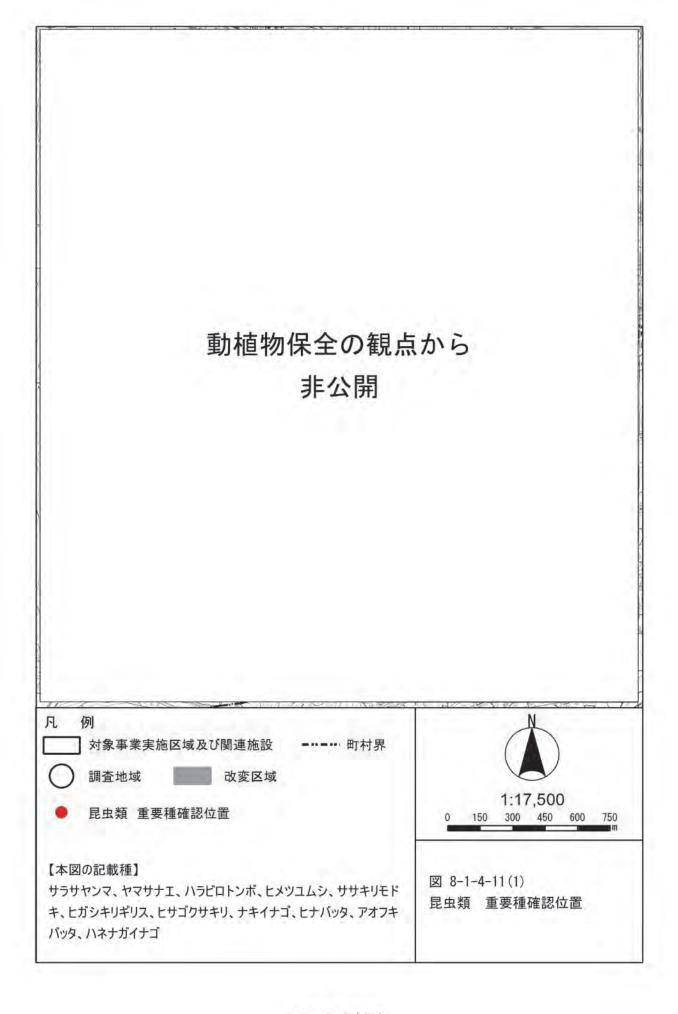
	计负	事業実施	可试	
		<del>ず未天</del> 心 5		
種名		· 区域	外	確認状況
	内	外	/	
	L.A	グト		・春季調査において、以下のとおり確認された。
ナキイナゴ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区
				域内で1例1個体)が確認された。
				・確認環境は、低茎草地であった。
				・春季調査において、以下のとおり確認された。
ヒナバッタ			•	【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認さ
				れた。
				・確認環境は、高茎草地であった。
				・夏季調査において、以下のとおり確認された。
アオフキバッ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例2個体(改変区
タ				域内で1例1個体)が確認された。
				・確認環境は、高茎草地であった。
				・秋季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。
ハネナガイナ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で3例3個体が確認さ
ゴ				れた。
				・確認環境は、高茎草地、低茎草地であった。
				・春季調査において、以下のとおり確認された。
ハルゼミ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で2例2個体が確認さ
, ,,,,,,,				れた。
				・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。
				・夏季調査において、以下のとおり確認された。
キスジハネビ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認さ
ロウンカ				れた(ライトトラップ)。
				・確認環境は、高茎草地であった。
				・春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。
				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で4例13個体及び多
オオアメンボ				数、対象事業実施区域内で 4 例 13 個体及び多数(改変区域
				内で4例13個体及び多数)が確認された。
				・確認環境は、開放水域(止水及び流水)であった。
				・春季調査において、以下のとおり確認された。
ヒメトゲヘリ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区
カメムシ				域内で1例1個体)が確認された。
				・確認環境は、低茎草地であった。
				・秋季調査において、以下のとおり確認された。
アズキヘリカ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区
メムシ				域内で1例1個体)が確認された。
				【幼虫】確認はなかった。
				・確認環境は、高茎草地であった。
				・春季調査において、以下のとおり確認された。
キバネツノト				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例4個体(改変区
ンボ				域内で2例4個体)が確認された。
				・確認環境は、高茎草地であった。

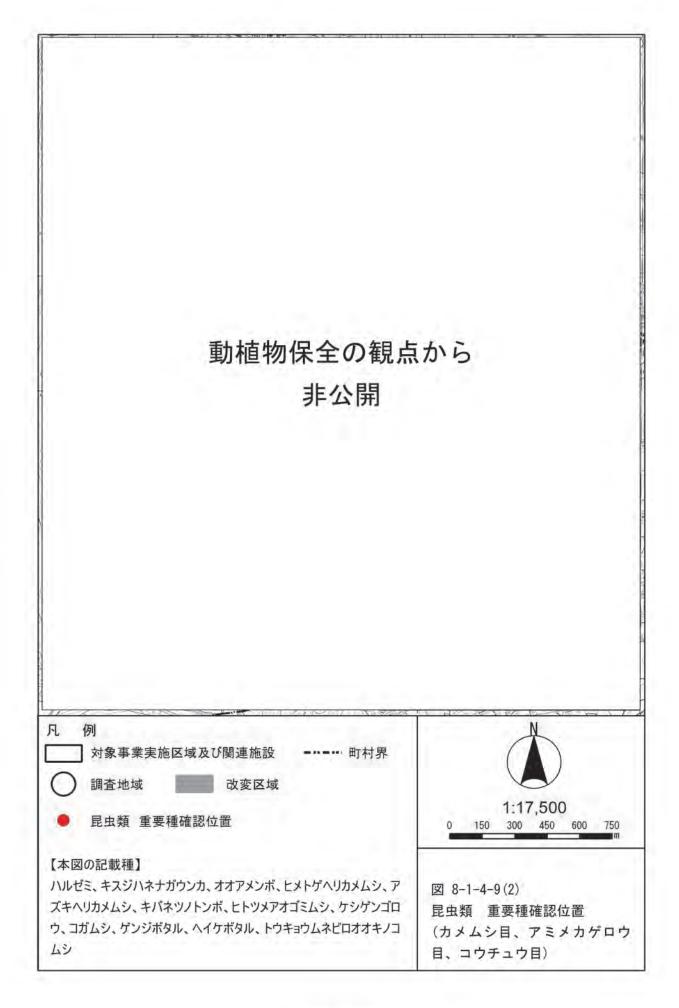
表 8-1-4-69(3) 重要な種の確認状況(昆虫類)

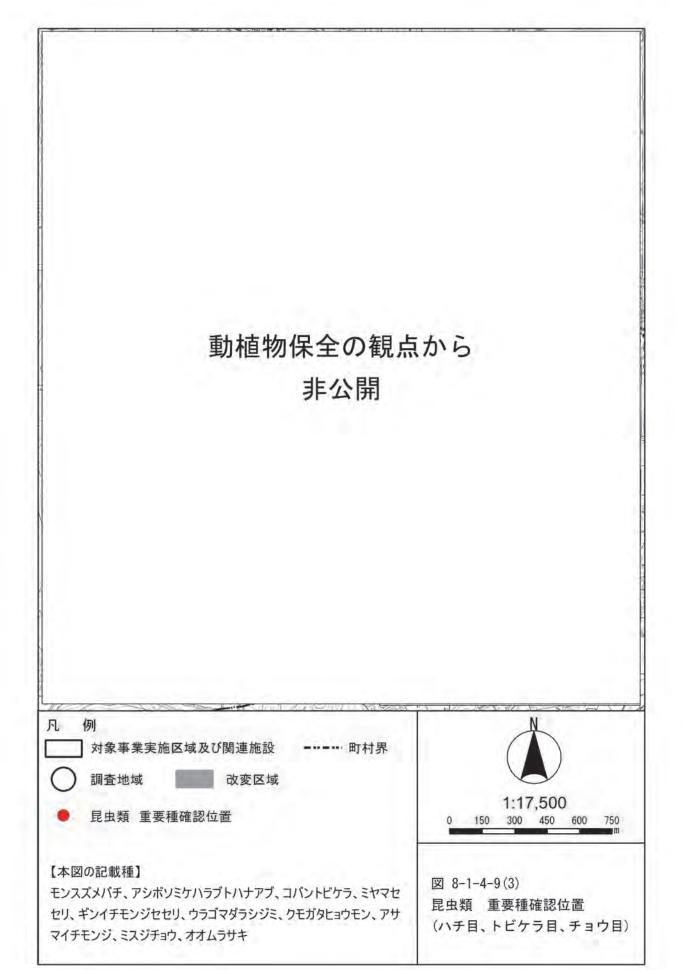
	<b>分</b> 魚	事業実施	0 1 <del>4 0</del> i区域	9(5) 重安な性の確認体が(比玄規)
		<del>す来天</del> 师 り	21年以	
種名			外	確認状況
		外	71	
	P 3	21		・夏季調査において、以下のとおり確認された。
ヒトツメアオ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区
ゴミムシ				「成五(元散五む)」 対象事業実施区域内で1例1個体(以及区 域内で1例1個体)が確認された。
				・確認環境は、広葉樹林であった。
				・夏季調査において、以下のとおり確認された。
ケシゲンゴロ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区
ウ				域内で1例1個体) が確認された (ライトトラップ)。
				・確認環境は、高茎草地であった。
				・夏季調査において、以下のとおり確認された。
				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区
コガムシ				域内で1例1個体)が確認された(ライトトラップ)。
				・確認環境は、高茎草地であった。
				・夏季調査において、以下のとおり確認された。
				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で17例73個体が確認
ゲンジボタル				された。
				・確認環境は、広葉樹林、低茎草地、竹林、開放水域(流水)
				及び水田であった。
				・夏季調査において、以下のとおり確認された。
				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で12例90個体が確認
ヘイケボタル				された。
				・確認環境は、低茎草地、開放水域(流水)及び耕作地であっ
				た。
トウキョウム				・春季調査において、以下のとおり確認された。
ネビロオオキ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認さ
ノコムシ				れた (ライトトラップ)。
7 - 4 - 7				・確認環境は、針葉樹林であった。
				・秋季調査において、以下のとおり確認された。
モンスズメバ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体が確認さ
チ				れた(ベイトトラップ)。
				・確認環境は、針葉樹林であった。
アシボソミケ				・春季調査において、以下のとおり確認された。
ハラブトハナ			•	【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認さ
アブ				れた。
				・確認環境は、低茎草地であった。
20.7.20				・春季調査において、以下のとおり確認された。
コバントビケ		•		【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例2個体が確認さ
ラ				れた。
				・確認環境は、針葉樹林及び高茎草地であった。
				・春季調査において、以下のとおり確認された。 「成内(死験会は)」対象東莞宝族区域がで1月1月1日体が確認さ
ミヤマセセリ			•	【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認さ
				れた。
				・確認環境は、低茎草地であった。

# 表 8-1-4-69(4) 重要な種の確認状況(昆虫類)

	対象	事業実施	区域	
種名	改変	•	外	確認状況
	内	外		
				・春季調査において、以下のとおり確認された。
ギンイチモン				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区
ジセセリ				域内で1例1個体)が確認された。
				・確認環境は、高茎草地であった。
				・春季調査において、以下のとおり確認された。
ウラゴマダラ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認さ
シジミ				れた。
				・確認環境は、広葉樹林であった。
18 20				・春季調査において、以下のとおり確認された。
クモガタヒョ				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で2例2個体(改変区
ウモン				域内で2例2個体)が確認された。
				・確認環境は、高茎草地であった。
マルーノエェ				・夏季調査において、以下のとおり確認された。 【よれ(死駄会ない】社会事業実施区域のでも例も個体が変認さ
アサマイチモンジ			•	【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認さ
				れた。 ・確認環境は、高茎草地であった。
				・春季調査において、以下のとおり確認された。
				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区
ミスジチョウ				域内で1例1個体)が確認された。
				・確認環境は、人工構造物であった。
				・春季及び夏季調査において、以下のとおり確認された。
				【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で2例2個体、対象事
, , , -, ,				業実施区域内で3例3個体(改変区域内で2例2個体)が確
オオムラサキ				認された。
				【幼虫】対象事業実施区域外で1例5個体が確認された。
				・確認環境は、広葉樹林であった。







### 力) 魚類

現地調査により確認された魚類のうち、表 8-1-4-70 に示すとおり 4 種の魚類が重要な種に選定された。

現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-71 に、確認位置は図 8-1-4-12 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-70 現地調査による重要な種(魚類)

	No. 目名 科名				象事 施区			j	重要和	重選定	<b>三基準</b>	i	
No.			種名		5 区域	外	I	П	Ш	IV	V	VI	VII
					外								
1	コイ	ドジョウ	ドジョウ			•					NT		
2		フクト゛シ゛ョウ	ホトケドジョウ			•					EN	CR	
3	ナマズ	ギギ	ギバチ			•					VU		
4	スズキ	ハゼ	ムサシノジュズカケハゼ			•					EN		
合計	3 目	4 科	4種	0種	0種	4種	0種	0種	0種	0種	4種	1種	0種

- 注1:分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」(2019年11月、日本爬虫両棲類学会)に準拠した。
- 注2:重要種の選定基準は、以下のとおりである。
  - I「文化財保護法」(昭和25年5月30日公布、同日施行)

特天:特別天然記念物、天:天然記念物

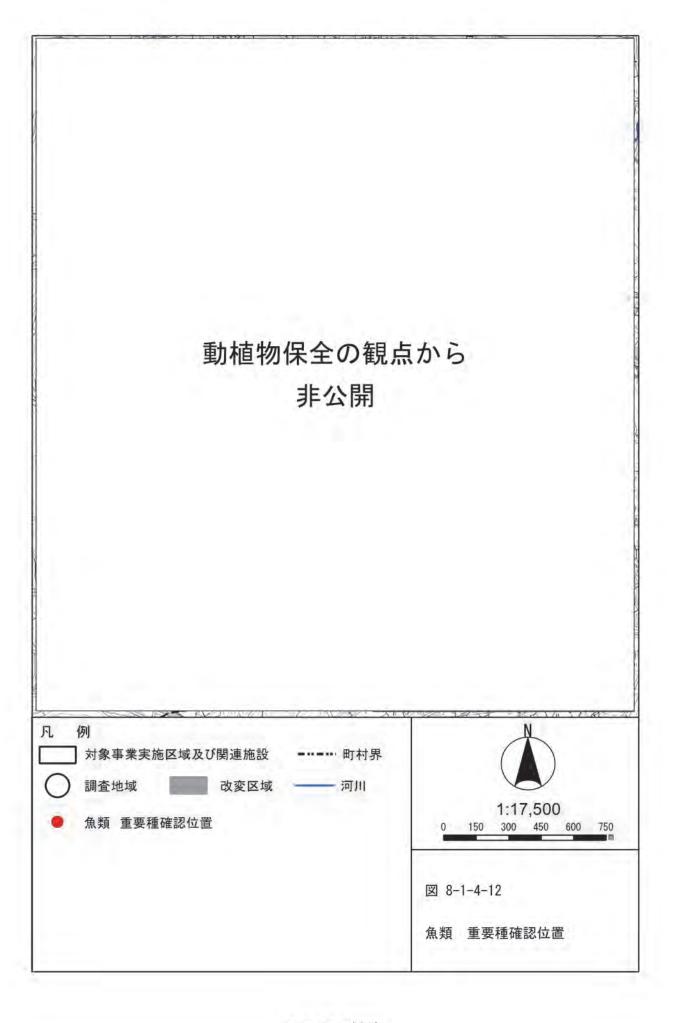
- Ⅱ「埼玉県文化財保護条例」(1955年10月1日公布、同日施行)に基づく天然記念物・特別天然記念物 特天:特別天然記念物、天:天然記念物
- Ⅲ「小川町文化財保護条例」(1961年2月28日公布、同日施行)に基づく天然記念物

天:天然記念物

- IV「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行) 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、国内I:特定第一種国内希少野生動植物種、 国内II:特定第二種国内希少野生動植物種
- V「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省)における選定種 EX: 絶滅、EW、野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧 I 類、CR: 絶滅危惧 I A 類、EN: 絶滅危惧 I B 類、
  - VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群
- VI「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)における記載種
  - EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧 I 類、CR: 絶滅危惧 I A 類、EN: 絶滅危惧 I B 類、
  - VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、NT1: 準絶滅危惧1型、NT2: 準絶滅危惧2型、DD: 情報不足、
  - LP: 絶滅のおそれのある地域個体群、RT: 地帯別危惧
- VII「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(2000 年、埼玉県) に基づく希少野生動植物種
  - ●:希少野生動植物種

表 8-1-4-71 重要な種の確認状況 (魚類)

	対象	事業実施	区域								
種名	Þ	勺		確認状況							
(里石	改変区域		外	1/世前心4/ヘジL							
	内	外									
ドジョウ				・春季及び秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域							
トンヨリ				で22個体が確認された。							
ホトケドジョ				・春季及び秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域							
ウ				で27個体が確認された。							
ギバチ				・春季及び秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域							
477				で 10 個体が確認された。							
ムサシノジュ				・秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で1個体							
ズカケハゼ				が確認された。							



### ‡) 底生動物

現地調査により確認された底生動物のうち、表 8-1-4-72 に示すとおり 13 種の底生動物が重要な種に選定された。

現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-73 に、確認位置は図 8-1-4-13 に、それぞれ示すとおりである。

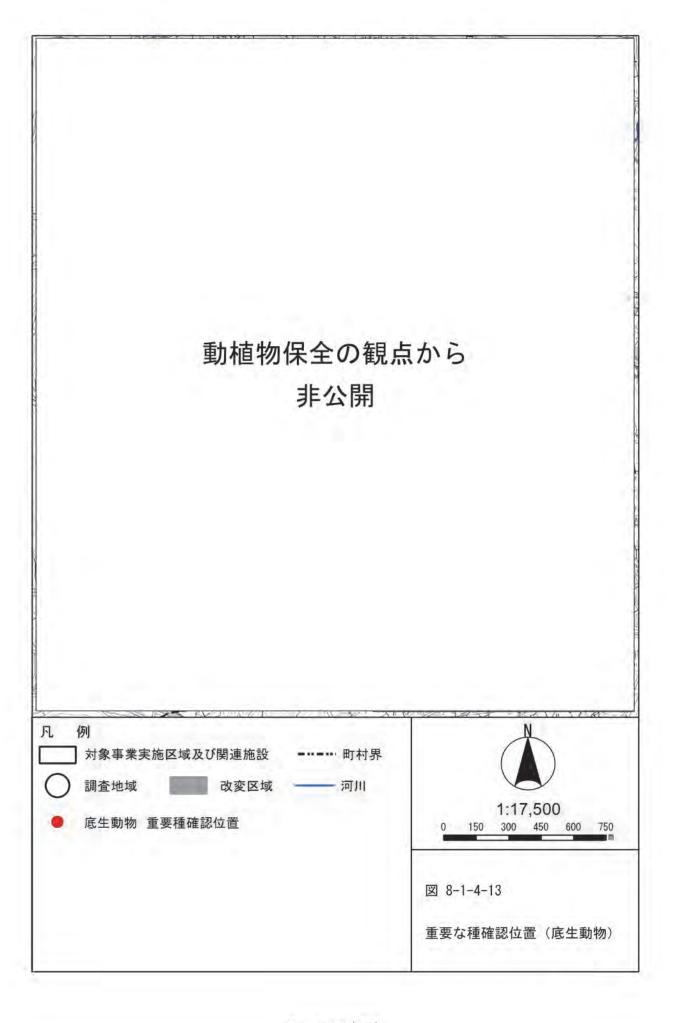
表 8-1-4-72 現地調査による重要な種 (底生動物)

			01172 96	7 C D/F) E		<u> </u>				-73 175	<u> </u>				
				対象事	業実	施区域				重	要種ℓ	)選定	基準		
				P	7								VI		
No.	目名	科名	種名	改変	区域	外	T	П	Ш	IV	V	全県	地帯別	川評価	VII
				内	外		1	11	111	17	V	評価	低山帯	台地・ 丘陵帯	VII
1	三岐腸	サンカクアタマウス゛ムシ	ナミウズムシ			•						LP		LP	
2	エビ	ヌマエビ	ヌカエビ			•						NT2			
3		サワガニ	サワガニ			•						NT2			
4	トンボ	ヤンマ	コシボソヤンマ			•						NT1	NT1	NT1	
5	(蜻蛉)	サナエ	ヤマサナエ			•						NT2	NT2	NT2	
6		トンボ	アオサナエ			•						NT1		NT1	
7			ヒメサナエ			•						NT1	NT1	NT1	
8	カメムシ(半翅)	アメンボ	オオアメンボ			•						NT2	NT2	NT2	
9	トビケラ	ナカ゛レトヒ゛ケラ	ムナク゛ロナカ゛レトヒ゛ケラ			•						NT	NT2	NT2	
10	(毛翅)	アシエタ゛トヒ゛ケラ	コバントビケラ			•						NT	NT2	NT2	
11		ホソハ゛トヒ゛ケラ	ホソバトビケラ			•						NT	NT1	NT1	
12	コウチュウ	ホタル	ゲンジボタル			•						VU	VU	VU	
13	(鞘翅)		ヘイケボタル			•						NT1	NT1	NT1	
合計	6 目	10 科	13 種	0種	0種	13 種	0種	0種	0種	0種	0種	13 種	9種	11 種	0種

- 注1:分類、配列等は原則として「令和元年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(令和元年、国土交通省) に 準拠した。
- 注2: 重要種の選定基準は、以下のとおりである。
  - I「文化財保護法」(昭和25年5月30日公布、同日施行)
    - 特天:特別天然記念物、天:天然記念物
  - Ⅱ「埼玉県文化財保護条例」(1955 年 10 月 1 日公布、同日施行)に基づく天然記念物・特別天然記念物 特天:特別天然記念物、天:天然記念物
  - Ⅲ「小川町文化財保護条例」(1961年2月28日公布、同日施行)に基づく天然記念物 天:天然記念物
  - IV「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行) 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、国内I:特定第一種国内希少野生動植物種、 国内II:特定第二種国内希少野生動植物種
  - V「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省)における選定種 EX: 絶滅、EW、野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧 I 類、CR: 絶滅危惧 I A 類、EN: 絶滅危惧 I B 類、
  - VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群
  - VI「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) における記載種
    - EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧 I 類、CR: 絶滅危惧 I A 類、EN: 絶滅危惧 I B 類、
    - VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、NT1:準絶滅危惧1型、NT2:準絶滅危惧2型、DD:情報不足、
    - LP: 絶滅のおそれのある地域個体群、RT: 地帯別危惧
  - VII「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(2000 年、埼玉県) に基づく希少野生動植物種
    - ●:希少野生動植物種

表 8-1-4-73 重要な種の確認状況(底生動物)

	対象事業実施区域		区域					
種名	内 改変区域 内 外		外	確認状況				
ナミウズムシ			•	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水 域で16個体が確認された。				
ヌカエビ			•	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水 域で2個体が確認された。				
サワガニ			•	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水 域で11個体が確認された。				
コシボソヤンマ			•	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水 域で14個体が確認された。				
ヤマサナエ			•	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水 域で27個体が確認された。				
アオサナエ			•	・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で12個体が確認された。				
ヒメサナエ			•	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水 域で3個体が確認された。				
オオアメンボ			•	・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で5個体が確認された。				
ムナグロナガ レトビケラ			•	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水 域で35個体が確認された。				
コバントビケ ラ			•	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水 域で28個体が確認された。				
ホソバトビケ ラ			•	・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で3個体が確認された。				
ゲンジボタル			•	・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で2個体が確認された。				
ヘイケボタル			•	・早春季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で1個 体が確認された。				



### ③ その他の予測・評価に必要な事項

### (a) 広域的な動物相及び動物分布の状況

「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」(平成12年3月、小川町)によると、小川町内では7目12科21種の哺乳類、16目37科84種の鳥類、1目6科11種の爬虫類、2目6科13種の両生類、12目257科2649種の昆虫類、6目14科33種の魚類等が確認されている。

### (b) 過去の動物相の変遷

「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)によると、調査地域が該当する地帯区分は「台地・丘陵帯」及び「低山地」である。これらの自然環境について、「台地・丘陵帯」はシイやカシなどの常緑広葉樹林が成立する植生域と考えられるが、大規模に現存する林は皆無であり、台地上には、クヌギ・コナラ・アカマツを中心としたいわゆる「武蔵野の雑木林」の部分が見られるが、近年減少が著しい。「低山地」には自然林は少なく、スギ・ヒノキの人工林とクリ・リョウブ・コナラ等の若い二次林が多い。しかし、人工林は管理されず荒廃が進んでいる。また、これらの生息環境の変遷に伴う重要な種を中心とした動物相の変遷は、表 8-1-4-74 に示すとおりである。

調査地域周辺のみに着目した場合、「地図・空中写真閲覧サービス」(国土地理院 HP)によると、1980 年撮影写真では集落及び耕作地等を除く調査地域周辺は概ねが樹林環境である。一方、1990 年撮影写真では樹林の一部が切り開かれて作業道が出現しており、1998 年撮影写真では更に樹林が伐採され、樹林の範囲は現況とほぼ同様となる。この変遷は、当初計画されていたゴルフ場建設に伴う工事によるものと考えられる。当時伐採された箇所は植生遷移が進み、現況では草地、低木林が生育している。調査地域でこれらの環境に生息する草地性の動物は、上記の環境の変遷に伴い比較的近年に周辺環境から侵入してきたものと考えられる。

表 8-1-4-74 過去の動物相の変遷

分類群	変遷の状況
哺乳類	・改訂前の2008年から、埼玉県レッドリスト掲載種は39種から23種へ減少しており、それの種の多くが、低山帯から山地帯・亜高山帯にかけて良好な生息状況が保たれていると判断されている。 ・埼玉県の哺乳類相に関して、改訂前からの大きな変化は、在来種のニホンジカとイノシシ、外来種のアライグマとハクビシンの4種の個体数の増加と分布の拡大である。特にニホンジカについては、平成10年代には小川町等の外秩父山地から丘陵部に分布を広げていることが確認され、スギ、ヒノキの苗木食害、生息密度の高まりが伺えるようになった。このため、生息地の林床植生が衰退、消失し、裸地化した区域が拡大している。
鳥類	・改訂前の2008年から、埼玉県レッドリスト掲載種は増加傾向にあり、徐々にではあるが絶滅を危惧すべき状況にある鳥類は増加傾向である。その原因としてはまず生息環境そのものの消失が挙げられ、低地帯や台地・丘陵帯にかけて都市化が進み、まとまった緑地や樹林地の減少や劣化は森林性の鳥類にとって営巣地や採食場所の喪失を招いている。 ・一方、台地・丘陵帯では雑木林の管理放棄による植生の変化によって繁殖鳥に影響が出ている。樹木が大木化し成熟した林は、ヤマガラ、キビタキ等の樹洞性の鳥類に採餌空間や営巣場所を提供し、下層植生が藪化することによってウグイス等の鳥類には好適な生息環境となった。減少するカッコウ類の中でホトトギスだけ増加傾向にあるのは、托卵相手のウグイスの増加によるものと思われる。
爬虫類	・改訂前の2008年から、埼玉県レッドリスト掲載種は増加傾向にあり、絶滅を危惧すべき状況にある爬虫類は増加している。 ・爬虫類(特に有隣目)は、低地帯から台地・丘陵帯にかけては都市化の進行や宅地・工業団地・幹線道路造成等大規模開発による生息地の減少・消滅、カエル等餌資源の減少等もあり、個体数は減少していると考えられ、県南部、東部ではその傾向が特に顕著である。個体数の多い台地・丘陵帯であっても生息状況のわずかな変化に注意を向けておく必要がある。また、低山帯から山地帯にかけての減少要因としては、森林伐採、新たな林道造成等による乾燥化が指摘されている。
両生類	・改訂前の2008年から、埼玉県レッドリスト掲載種は増加傾向にあり、絶滅を危惧すべき状況にある両生類は増加している。 ・爬虫類と同様に生息地の減少だけでなく、水田転作による畑地化や圃場整備による用水路のコンクリート化、直線化の影響等を受けていると考えられる。
昆虫類	・昆虫類は多くの分類群・種を有するが、その多くで埼玉県レッドリスト掲載種は増加傾向にあり、絶滅を危惧すべき状況にある昆虫類は増加していると考えられる。その原因としては宅地造成や大規模開発による生息環境の減少の他、田畑、果樹園での除草剤散布、里地里山の管理放棄による植物遷移の進行等、様々な人為的営みが関わっている。一方、緑の保全に対する社会の意識が高まり、行政や市民の自然保護活動等により、積極的な緑地回復が図られ生息地の消滅に一定の歯止めがかかりつつある地域もある。 ・チョウ類ではナガサキアゲハやムラサキツバメ等南方系の種が定着するようになり、温暖化の進行など地球規模の気象変動も昆虫類の生息環境に影響を及ぼしつつある。
魚類	・改訂前の2008年から、埼玉県レッドリスト掲載種は増加傾向にある。しかしながら、水質汚濁、湧水・湿地環境の消失や河川改修、田園地域の生息地の消失等による生息環境の劣悪化は進行しており、人為による捕獲圧も主な減少原因となっている。 ・改訂前の埼玉県レッドリスト掲載種であるシマドジョウ、ギバチ、ナマズ、カジカ、ウキゴリ、ムサシノジュズカケハゼ、アシシロハゼは、1990年以前から生息状況は安定しており容易に採集されることから、リストから除外されている。一方、湧水環境が悪化により生息数が減少しているホトケドジョウ等ではランクが上がっている。 ・埼玉県の魚類相の近年の大きな変化の特徴としては、特定外来生物のオオクチバス、コクチバス、ブルーギル、チャネルキャットフィッシュ、カダヤシと国内移入種のカワムツ、ホンモロコ等の自然繁殖や放流、逸出による分布の拡大が顕著に見られることが挙げられる。

注:参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)

#### (c) 地域住民その他の人との関わりの状況

調査地域周辺は起伏に富んだ低山地とその周囲の平地で構成されており、低山地はスギ・ヒノキ・サワラ植林の他、クリーコナラ群集やヤマツツジーアカマツ群集等の二次林が広範を占め、適宜人為的な管理により維持されてきた樹林環境となっている。また、平地は集落の他に水田、畑地との耕作地が大半を占めており、低山地と同様に人為的な管理等によりその自然環境が維持されており、里地里山の特徴を有する動物相が成立している。そして、調査地域内には「官ノ倉山ハイキングコース」等、これらの自然と触れ合うことのできる活動の場が整備・利用されている。

### 2) 予測及び評価の結果

- ① 工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用の影響
- (a) 工事用資材等の搬出入、建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響、地形改変及 び施設の存在、太陽光パネル等の撤去・廃棄

### a) 環境保全措置

事業の実施に伴う重要な種及び注目すべき生息地への環境影響を低減するため、表 8-1-4-75 に示す措置を講じる。

# 表 8-1-4-75(1) 動物に係る環境保全措置

-1		及 0 1 〒 70(1) 到7015 所 3 块坑 木工 11 巨
其	環境影響要因	環境保全措置の内容
工事の実施	<ul><li>・工事用資材 の搬出入</li><li>・建設機械の 稼働</li><li>・造成等の</li></ul>	・工事関係車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。 ・工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める。 ・工事用資材等の運搬車両の整備、点検を適切に実施する。 ・工事用資材等の運搬車両の整備、点検を適切に実施する。 ・工事用資材等の運搬車両のアイドリングストップを徹底する。 ・建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する。 ・造成計画を見直し、搬入する土量を低減する。 ・車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する。 ・建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める。 ・建設機械のアイドリングストップを徹底する。 ・建設機械のアイドリングストップを徹底する。 ・非改変区域への立ち入りを制限し、建設機械の集中稼働を避ける。 ・建設機械の整備、点検を徹底する。 ・非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。 ・樹木の伐採等を行う場合、段階的な実施により周辺環境への動物の移動を促す。 ・工事工程を調整し、猛禽類であるサシバ、ノスリ、ハチクマの繁殖への影響に配慮する。 ・太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める。 ・満水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。 ・調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。・造成箇所は、速やかに転圧等を施す。
土地又は工作物の存在及び供用	・地形の改変 及び施設の 存在	<ul> <li>・</li></ul>

### 表 8-1-4-75(2) 動物に係る環境保全措置

野	環境影響要因	環境保全措置の内容
		・撤去・廃棄関係車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運
土		行管理に努める。
地		・撤去・廃棄関係車両の整備、点検を適切に実施する。
又		・撤去・廃棄関係車両のアイドリングストップを徹底する。
は		・車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底するこ
工		とにより、ロードキルを未然に防止する。
作	・太陽光	・解体機械については、低騒音型の機械の使用に努める。
物	・	・解体機械のアイドリングストップを徹底する。
$\mathcal{O}$	撤去・廃棄	・計画的かつ効率的な工事計画を検討し、解体機械の集中稼働を避ける。
存	100五 茂来	・解体機械の整備、点検を徹底する。
在		・非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。
及		・濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたの
び		ち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。
供		・調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。
用		・太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生
		の早期回復に努める。

#### b) 予測

### (7) 予測地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

### (1) 予測対象時期

工事の実施による動物の生息環境への影響が最大となる時期、緑地の復元が安定し、太陽光発電所の運転が定常状態の時期及び太陽光パネル等の撤去・廃棄による動物への影響が最大となる時期時期とした。

#### (ウ) 予測手法

重要な種及び注目すべき生息地へ生じる直接的、間接的な環境影響の変化の程度を定量的に把握し、文献その他の資料調査及び現地調査の結果を踏まえ、文献その他の資料による類似事例の引用又は解析により予測するものとし、必要に応じて専門家等の助言を得ることとした。

また、重要な種の生息環境の減少・喪失に係る影響に関しては、表 8-1-4-76 に示すとおり、植生の改変面積及び改変率を算出した。植生の改変面積及び改変率については、表 8-1-4-75 に示したとおり、「事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させる」環境保全措置を採用し、調査計画書(方法書)時(以下、当初計画)から計画の見直しを図ったことから、見直し前後の両方の値を示している。

調査地域の植生の改変状況は、図 8-1-4-14 に示すとおりである。

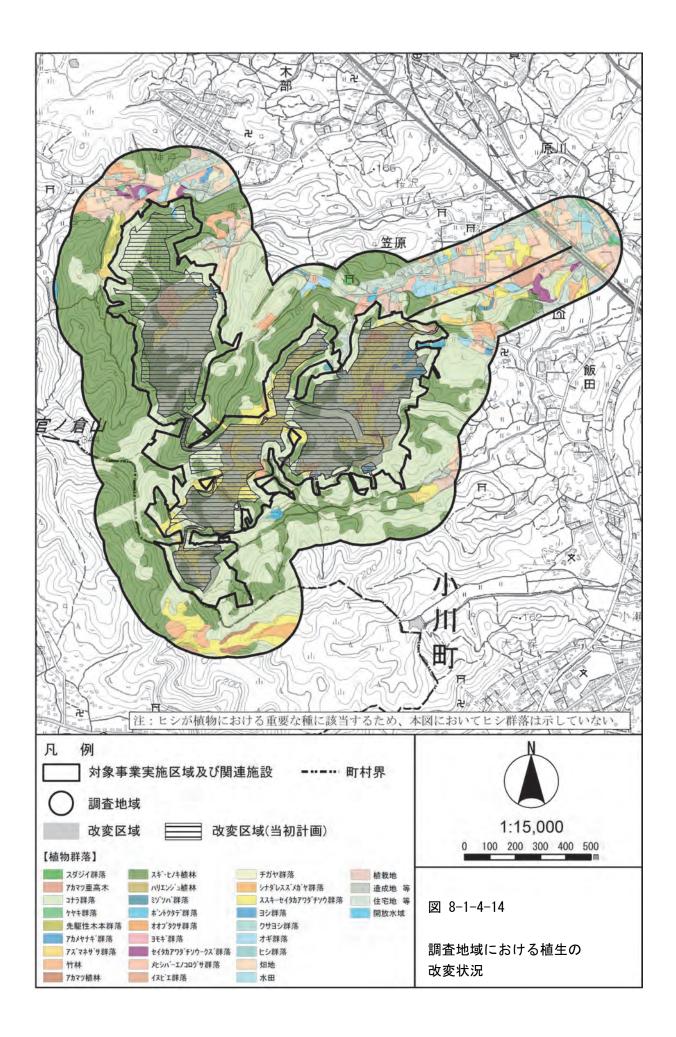
表 8-1-4-76 調査地域の植生面積、植生の改変面積及び改変率

			計画見	直し後	当初	計画
類型区分	行ラベル	調査地域内		-		改変率
,,, <u>,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,</u>		の面積(ha)				(%)
	スダジイ群落	0. 18	0.00	0.00	0.00	0.00
	アカマツ亜高木	0. 35	現場内	0.10	27. 27	
-11-11- 216.4-7	コナラ群落	95. 76	21. 53	22. 48	改変面積 (ha)	24. 47
落葉・常緑	ケヤキ群落	0. 33	0.00	0.00	0.00	0.00
広葉樹林	アカマツ植林	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00
	植栽地	5. 38	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	102. 43	21.65	21. 14	改変面積 (ha)	22. 97
スギ・ヒノ	スギ・ヒノキ植林	86. 95	7.46	8. 58	12. 25	14. 09
キ植林	小計	86. 95	7.46	8. 58	12. 25	14. 09
	先駆性木本群落	1. 26	0.62	48.87	0.50	39. 99
	アカメヤナギ群落	0.04	0.04	100.00	0.04	100.00
伐採跡地·	アズマネザサ群落	0.82	0.00	改変率 改変面積 (%) (ha)  0.00 0.00  36.06 0.10  22.48 23.43  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  21.14 23.53  8.58 12.25  8.58 12.25  48.87 0.50  100.00 0.04  0.00 0.00  28.39 1.39  100.00 0.16  30.68 2.09  0.00 0.06  100.00 0.33  100.00 0.14  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  42.68 0.53  52.21 10.55  0.00 0.00  0.00 0.00  42.68 0.53  52.21 10.55  0.00 0.00  11.60  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  1.11 0.17  17.19 50.10	0.00	
竹林	竹林	4. 92	1.40	28. 39	1. 39	28. 25
	ハリエンジュ植林	0.16	0.16	100.00	0. 16	100.00
	小計	7. 20	2. 21	30.68	2.09	29. 03
	ミゾソバ群落	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00
	ボントクタデ群落	0.08	0.00	0.00	0.06	71. 10
	オオブタクサ群落	0.33	0.33	100.00	0.33	100.00
	ヨモギ群落	0. 14	0.14	100.00	0.14	100.00
	セイタカアワダチソウ-クズ群落	1.04	0.00	0.00	0.00	0.00
	メヒシバ-エノコログサ群落	2. 91	0.00	0.00	0.00	0.00
草地	イヌビエ群落	0.84	0.00	0.00	0.00	0.00
	チガヤ群落	0. 19	0.00	0.00	0.00	0.00
	シナダレスズメガヤ群落	1. 30	0.56	42.68	0.53	40.81
	ススキーセイタカアワタ゛チソウ群落	19. 93	10.41	52. 21	10.55	52.94
	ヨシ群落	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00
	クサヨシ群落	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
	オギ群落	0.77	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	28. 01	11. 43	40.78	11.60	41.42
	畑地	9. 37	0.00	0.00	0.00	0.00
農耕地	水田	2. 14	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	11. 51	0.00	改変率 改変面積 (%) (ha)  0.00 0.00  36.06 0.10  22.48 23.43  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  21.14 23.53  8.58 12.25  8.58 12.25  48.87 0.50  100.00 0.04  0.00 0.00  28.39 1.39  100.00 0.16  30.68 2.09  0.00 0.00  0.00 0.00  100.00 0.14  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  42.68 0.53  52.21 10.55  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  40.78 11.60  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  1.11 60  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  0.00 0.00  1.11 0.17  17.19 50.10	0.00	
	ヒシ群落	0. 10	0.00	0.00	0.00	0.00
開放水域	開放水域		0.45	39. 58	0.45	39. 58
	小計	1. 25	0.45	36. 43	0.45	36. 43
	人口裸地	0.04		0.00		0.00
	コンクリート構造物	0. 20		81.45		81. 45
	造成地	1		0.00	0.00	0.00
集落・人工	住宅地	12. 05		0.00	0.00	0.00
地	墓地	1	0.00		0.00	0.00
	道路			0.00		0.00
	鉄道			0.00		0.00
	小計	15. 02		1. 11		1. 11
	合計	252. 36				19.85

注1:表 8-1-4-75 に示した「事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させることにより、重要な種をはじめと した動物種の生息環境を保全する」環境保全措置に伴い、当初計画及び計画見直し後の値を示している。

注2:各数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

注3:アカマツ亜高木及びアカマツ植林は針葉樹の群落であるが、全体に占める各面積の割合が0.1%台と小さいこと、植生調査の結果から広葉樹林に類似すると考えられたことから、類型区分としては落葉・常緑広葉樹林として扱った。



### (I) 予測結果

本事業における現地調査により確認された重要な種 93 種(哺乳類 2 種、鳥類 33 種、爬虫類 7 種、両生類 6 種、昆虫類 33 種、魚類 4 種、底生動物 8 種)を予測対象種とした。 各種の予測の結果は、以降に示すとおりである。

### 7) 哺乳類

重要な種の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-77 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。

重要な種2種の予測結果は、表8-1-4-78に示すとおりである。

表 8-1-4-77 環境影響要因の選定結果(哺乳類)

		- 1010 30 03 H	~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~	( 113 3 5 7 5 7 7					
種名	環境影響要因								
		工事の実施	土地又は工作物の 存在及び供用						
	工事用 資材等の 搬出入	建設機械 の稼働	造成等の施工 による 一時的な影響	地形改変 及び 施設の存在	太陽光 パネル等の 撤去・廃棄				
コウモリ目	0	0	0	0	0				
ムササビ	0	0	0	0	0				

注:表中の「〇」は、環境影響要因として選定する項目である。

# 表 8-1-4-78(1) 予測結果(哺乳類:コウモリ目)

			表 8-1-4-78(1)	予測結果(	哺乳類:	コワモリ	目)			
種名	コウモリ	目								
	(ヤマコウモリ) WI (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) WI (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)) (オヒキコウモリ) WI (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) DD (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))									
一般生態	1 17 1/16									
確認状況	認され	た (バット	Eにおいて、対象事業実施区域 ・ディテクターによる鳴き声の E樹林、針葉樹林及び高茎草は	の確認)。		区域内で10	列(改変区域)	内で1例)、1	合計 11 例が確	
		工事用 資材等の 搬出入	資材運搬等の車両が本種のの利用は少ないと想定される 資材運搬等の車両の走行に の実施中(昼間)はねぐらに 対象事業実施区域内に確認さ 区域内に存在しないことから	らことから、移動 2伴う騒音により こいると想定され られていないこと	経路の遮 、忌避行動 る。ヤマコ 、オヒキコ	所・阻害の影 めが生じると コウモリのね コウモリのね	響はほとんど 考えられる。 ぐらとなるよ ぐらとなるよ	ないと予測で 本種は夜行性 うな樹洞があ	ける。 生であり工事 ある大径木は	
	工事の実施	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性でありま建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性でありま建設機械の稼働 はねぐらにいると想定される。ヤマコウモリのねぐらとなるような横洞がある大径を実施区域内に確認されていないこと、オヒキコウモリのねぐらとなるような環境は対象事業等存在しないことから、その影響はほとんどないと予測する。								
		造成等 の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行 らにいると想定される。ヤマ 認されていないこと、オヒキ からその影響はほとんどない 圧力を最小限に留める」等の	マコウモリのねぐ テコウモリのねぐ いと予測する。な	らとなる』 らとなる』 お、「非改	こうな樹洞が こうな環境は 変域への立 <i>ち</i>	ある大径木は 対象事業実施 っ入りを制限	対象事業実施 区域内に存在 し、作業員等	施区域内に確 主しないこと による人為的	
予測結果			2種のねぐらとなるようなはない。また、確認状況から息する昆虫類を捕食しているにより一部が消失する。この結果、る(6.67haの改変回避)。	o、本種は主に河 らものと考えられ Oため、当初の事	川上空を挟る。これら 業計画の見	採餌環境とし っの餌動物の 見直しにより	て利用し、居 生息環境は地 、出来る限り	辺の水域や根  形の改変及で  餌動物の生息	樹林環境に生 が施設の存在 息環境への影	
		地形改変	生息環境		面積	改変面		改変		
		及び			(ha)	当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	
	土地 又工作物 の存在 及供用	を存在	落葉・常緑広葉樹林、スギ さらに、「低反射型太陽光 的な温度の上昇や光害等の景 減する。 また、餌動物の生息環境のは、排水路にて調整池に導き 外に放流する」等の措置を記 ている程度以下になると予測 以上のことから、本種の生	パネルを採用する ジ響を抑制する」 の一部には、調整 を一旦貯留し、土 はでる。この結果 引する。	等の措置を 池から濁が 粒子を十分 、 地形のひ	と講じること 大の流入が考 分に沈殿させ 女変等により	により、出来 えられる。こ たのち、上澄	る限り本種へのため、「濁 のため、「濁 ひ水を対象	への影響を低 水について 事業実施区域	
以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。  太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。  太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。  ら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいと可撤去・同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと可お、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生のめることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。								:りも小さいご ,小さいと予測	こと、工事の 則する。な	

注:生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

# 表 8-1-4-78(2) 予測結果(哺乳類:ムササビ)

種名	ムササ	ビ								
選定	INT1 (松平頂 ) からテータブ かり動物紀 9019(第 4 時 ) 1									
状況	尤									
一般生態										
確認状況	1 1 7 1 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1									
	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は樹上性であり道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。資材運搬等の車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性であり工事の実施中(昼間)はねぐらにいると想定される。確認されたねぐらは対象事業実施区域外であり、走行ルート周辺にねぐらとなる樹洞がある大径木は確認されなかったことから、その影響はほとんどないと予測する。									
	工事の実施		建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性であり工事の実施中(昼間)はねぐらにいると想定される。確認されたねぐらは対象事業実施区域外であり、走行ルート周辺にねぐらとなる樹洞がある大径木は確認されなかったことから、その影響はほとんどないと予測する。							
予測		による	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。本種は夜行性であり工事の実施中(昼間)はねぐらにいると想定される。確認されたねぐらは対象事業実施区域外であり、改変区域周辺にねぐらとなる樹洞がある大径木は確認されなかったことから、その影響はほとんどないと予測する。なお、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生息環境への更なる影響の低減を図る。							
結果			地形の改変及び施設の存在により、 業計画の見直しにより、出来る限り 境の改変率は下表のとおり、18.90%	上息環境への	の影響の回避	を図る。こ	の結果、本	種の生息環		
		地形改変	生息環境	面積(ha)	改変面和 当初計画	責(ha) 見直し後	改変率 当初計画	率(%) 見直し後		
	1. 4jh	及び 施設の	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189. 37	35. 78	29. 12	18. 90	15. 38		
	土地 又は	施設の 存在	 また、確認されたねぐらは対象事業	-     美海区域タ	ー トであり、改	変区域周辺	 ]にねぐらと	なる樹洞が		
	工作物	111111111111111111111111111111111111111	ある大径木は確認されなかったことが							
	の存在		に、「フェンス等の設置範囲は最小限	に留め、可	能な限り連絡	売した樹林	を残存させる	る」等の措置		
	及び		を講じることにより、出来る限り本種							
	供用		以上のことから、本種の生息環境へ							
		1.78 \	太陽光パネル等の撤去・廃棄により				-			
			かしながら、工事の実施時以上の地形のないこと、工事の実施時と同様の現							
		ハネル等の撤去・	小さいこと、工事の実施時と同様の理 よりも小さいと予測する かお 大阪							
		廃棄								
		) - J	すると予測する。	), · > 0 C	O, / / /T'		· >610- >610-11			
注・生			)数字は小数点第3位を四捨五入した(	直を記載し、	ていスため	会計室の何	すが合わない	は合がある		

注:生息環境の面積等の数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

# () 鳥類

重要な種の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-79 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。

重要な種33種の予測結果は、表8-1-4-80に示すとおりである。

表 8-1-4-79 環境影響要因の選定結果(鳥類)

		環境影響要因			
## b		工事の実施		工作物の び供用	
種名	工事用 資材等の 搬出入	建設機械 の稼働	造成等の施工 による 一時的な影響	地形改変 及び 施設の存在	太陽光 パネル等の 撤去・廃棄
オシドリ	0	0	0	0	0
アオバト	0	0	0	0	0
ミゾゴイ	0	0	0	0	0
ジュウイチ	0	0	0	0	0
ホトトギス	0	0	0	0	0
ツツドリ	0	0	0	0	0
ヨタカ	0	0	0	0	0
ハチクマ	0	0	0	0	0
トビ	0	0	0	0	0
ツミ	0	0	0	0	0
ハイタカ	0	0	0	0	0
オオタカ	0	0	0	0	0
サシバ	0	0	0	0	0
ノスリ	0	0	0	0	0
フクロウ	0	0	0	0	0
アオバズク	0	0	0	0	0
カワセミ	0	0	0	0	0
アオゲラ	0	0	0	0	0
ハヤブサ	0	0	0	0	0
サンコウチョウ	0	0	0	0	0
ヤマガラ	0	0	0	0	0
ヒガラ	0	0	0	0	0
ウグイス	0	0	0	0	0
ヤブサメ	0	0	0	0	0
オオムシクイ	0	0	0	0	0
トラツグミ	0	0	0	0	0
ルリビタキ	0	0	0	0	0
キビタキ	0	0	0	0	0
オオルリ	0	0	0	0	0
ベニマシコ	0	0	0	0	0
ホオジロ	0	0	0	0	0
アオジ	0	0	0	0	0
クロジ	0	0	0		0

注:表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「一」は、影響はほとんどない又はないと考えられることから環境影響要因として選定しない項目である。

# 表 8-1-4-80(1) 予測結果(鳥類:オシドリ)

オシドリ	I							
		表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)						
		(繁)・VU(越) [台地・丘陵帯]VU(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))						
【分布】留鳥または夏鳥として北海道、本州中部以北で繁殖し、冬季は本州以南で越冬する。埼玉県では、繁殖記録は少ない。現在、夏季の記録がほとんど得られていない。冬季には、低地の河川や湖沼、ため池に飛来することもあるが、ダム湖や狭山湖のような山間の湖沼で越冬するものが多い。 【生態】山間の湖沼や渓流近くの樹洞に営巣、繁殖する。特にミズナラの多いブナ林、シイ・カシ林等を好む。草の種子、樹木の果実、水生昆虫等を食べるが、特にシイ、カシ、ナラ類のどんぐりを好む。冬季は平地の湖沼や河川にも渡来する。春秋の移動時期には平地でも見られる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)								
・ライン	/センサス	て、対象事業実施区域外で 2 例が確認された(目撃)。確認環境は、開放水域(止水)であった。 法による確認はなかった。 にあたる春季のみの確認であることから、渡り期における一時的な飛来であると考えられる。						
		工事関係車両は本種の生息環境(開放水域)周辺は通過しないことから、移動経路の遮断・阻害の 影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられるが、工事関係車両は本種の 生息環境(開放水域)周辺は通過しないことから、その影響はほとんどないと予測する。						
工事の 実施	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら 区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利 建設機械 と想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「言 的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより 種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
	による 一時的な	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変 区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。 さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の 措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このた め、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄 み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する 濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
		地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、63.57%存在する。 生息環境 面積(ha) 改変面積(ha) 改変率(%)						
土地	及び 施設の	開放水域(止水) 1.25 0.45 36.43 また、本種はラインセンサス法で確認されていないが、予測地域の利用は渡り期の一時的なものであることからその影響は小さく、上記のとおり対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が広く残されることから、本種の利用可能性は維持されると考えられる。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
	太陽光 パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。						
	[【 参 ・・・ 工実 土又工の及供 生分なダ生子来考 春ラ本 事施 地は作存び用 中間の おり 横る繭 調いの	(全)(大)						

#### 表 8-1-4-80(2) 予測結果(鳥類:アオバト)

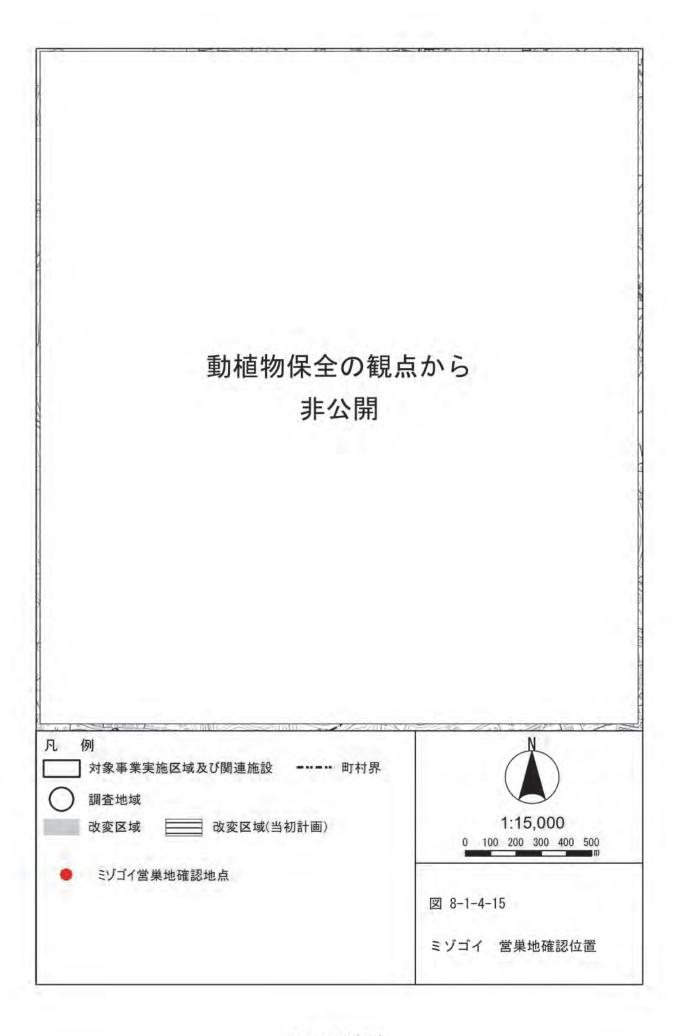
ee 6				•	, , ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	~ \my \X	· •	•				
	アオバ											
選定状況	[全県]R	T(繁) [但	低山帯]LP(繁)	(埼玉県レッ	<b>,</b> ドデータブッ	ク動物編	2018(第4版	5))				
	【分布】	九州以北	こ分布する留	/鳥で、東北・	北海道では冬	こ南下する。	埼玉県では	、山地帯かり	ら亜高山帯下	部の落葉広葉		
	樹林ら	か針広混交	林に生息する	が、個体数に	は多くない。							
一般	【生態】	山地帯の	常緑広葉樹林	、落葉広葉樹	林に生息する	。樹上、特は	こ小枝や葉が	茂る樹冠部	、林内や林縁	の地上で採食		
生態	する。	樹木や草	の実、果実、	種子等を食べ	<、どんぐりの	ような堅果	も食べる。					
	参考文献				編 2018(第4		年、埼玉県	)				
					>」(平成7年							
					対象事業実施	区域内で 6	例(改変区均	或内で3例)	が確認される	た(目撃、地		
確認				、広葉樹林で								
状況	・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.05であった。 ・囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。											
	• <b>臀</b> りス	1確認され						カルンス リュ・ト・	フバ 山岳市	***		
										業実施区域内 ること、本種		
										ること、平性ほとんどない		
			と予測する。		シないこぶたら	2400 C C 10	*り、1990任	四〜〜	位号の珍貴は	14 6 70 6 74 4 .		
		工事用	-		半う騒音により	). 忌避行動	か生じると	考えられる。	しかしなが	ら、対象事業		
		資材等の								利用が可能で		
		搬出入			こ、「工事用資							
			画的かつ効果	率的な運行管理	埋に努める」、	「建設発生土	を原則場内	で有効利用	し、場外への	運搬車両を低		
					ることにより、				響を低減する	0		
	工事の				の生息環境への							
	実施						-			対象事業実施		
	)\n <u>E</u>	建設機械			本種の生息環境		-					
					建設機械につ							
		の稼働	的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本 種の生息環境への影響を低減する。									
						)影響は小さ	コント予測す	ス				
		造成等	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及									
		の施工										
		による	区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。 さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の									
		一時的な	措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。									
予測		影響	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
結果										初の事業計画		
714714									本種の生息環	境の改変率は		
			下表のとおり	り、22.97%カュ	b 21.14%まで	経減される	(1.88ha の引	女変回避)。				
				八. 白 == 1寸		<b>元本</b> (1 )	改変面	i積(ha)	改変	率 (%)		
				生息環境		面積(ha)	当初計画	見直し後	当初計画	見直し後		
			落葉・常	緑広葉樹林		102.43	23. 53	21.65	22. 97	21. 14		
		地形改変	また下表の	のとおり、見直	直し後の改変配	ii積とライン	センサス法	の結果からる	合計 1.08 個位	本(21.09%)		
	土地	及び								外に本種の生		
	又は	施設の 存在	息環境が残る	されることから	う、本種の生息	は維持され	ると考えら	れる。				
	工作物	1于1工		確認環境:広	<b>華樹林</b>							
	の存在			面積(ha)	推定個体数	改変面積	(ha) 推定洞	少個体数	住定減少率(%)			
	及び			102.43	5. 12	21. 65		. 08	21. 09			
	供用		<b>キた1ヶ「</b>	フェンフ竿の	設置範囲は最	小限に切め	可能を	(連結) た捨		ナス」竿の世		
					'成旦軋囲は取 出来る限り本種				1411亿7支付で (	その〕 寺の相		
					ロ木の成り本で ひ生息環境へ <i>0</i>							
		1			・廃棄により、				ると考えられ	る。しかした		
		太陽光			ルポにより、 の地形の改変に							
		パネル等								小さいと予測		
		の撤去・								、樹林植生の		
		廃棄	早期回復に参	努めることに。	より、本種の生	と息環境は現	別程度まで	回復すると	予測する。			
>> . 4L	白煙体の	五年松の粉	ウルル粉占笠	2 位を皿栓玉	入した値を記載	1 アルスたと	カ   ム 計 生 の	値が合わわれ	、担人がもて	· ·		

#### 表 8-1-4-80(3) 予測結果(鳥類:ミゾゴイ)

連名 ミ メジェイ				
全集・低山帯川原(繁)   行地・丘陵帯」の保勢 (埼玉県)・マドデータブック動物編 2018(第4限))   1分	種名	ミゾゴ	1	
【分布】夏鳥として本州以南に渡来する。埼玉県では、春秋の渡りの時期には低地の公園の林等で記録されることもあるが、主に台地・丘陵帯の森林で繁殖する。 「生態】丘陵地や低山の良く茂った近東衛林や針ム混交林で繁殖する。 営巣場所はケヤキやコナラ等の広葉樹を利用することが多い。沢筋や全間の渓流、山際の湖沼の縁等で、サワガニ、ミミズ等を捕食する。日中でも暗い、淡水質を補ることもある。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社) ・ 春季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で1例、合計3例が確認された(関9)。・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	選定	VU(環境	竟省報道発	差表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)
・ もあるが、主に台地・丘陸帯の森林で繁殖する。	状況	[全県・	低山帯]El	N(繁) [台地・丘陵帯]CR(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))
一般 生態 を		【分布】	夏鳥とし	て本州以南に渡来する。埼玉県では、春秋の渡りの時期には低地の公園の林等で記録されること
無態		もある	るが、主に	ご台地・丘陵帯の森林で繁殖する。
無態	ÁII.	【生態】	上陵地や	P低山の良く茂った広葉樹林や針広混交林で繁殖する。営巣場所はケヤキやコナラ等の広葉樹を
<ul> <li>生 経路で観さ相ることもある。 字文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)         「原色日本野鳥生態図鑑く陰鳥編シ」(平成7年、保育社)         ・</li></ul>				
参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑〜院島編》」(平成7年、保育社) ・春季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で1例、合計3例が確認された(轉り)。・確認環境は、次養材料及び計業樹材であった。 「生態系」において実施した営巣地能認調査で、合計4つの単(古巣含む)が確認された(轉り)。 ・確認環境は、次養材料及び計業樹材であった。 「生態系」において実施した営巣地能認調査で、合計4つの単(古巣含む)が確認された(観 8-1-4-15 参照)。 ②食巣地能認調益の内容等は、18-1-6 生態系(1)地域を特優づける生態系 1)調金結果の概要 ②複数の注目種等の生態 (他の動植物との関係又は生息若しくは生育環境の状況 (b)注目種に係る調査結果の概要 ②検数の注目種等の生態 (できる)を関いたくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遺脈・阻害の影響はほとんどないと予側する。 エ事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、果から走行かートが遅れていることから、季極への影響もいさいと考えられる。とれ、「主事技学学の運搬車両による機上の影響もいさいとうらもれる。され、「主事技学学の運搬車両による機上の影響もいさいとから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいとでと考えられる。 一造成等の配工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外の影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響もいさいとから、その能回への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限りを建成さる。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 の影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。この影響の回避を図ることで巣が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限りを種のとり、対域が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であるとめの影響の回避を図ることで巣からな変に域が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定されている、また、後述するとり、影響のの施工により高水が高えられる。この影響への影響を低減する。 と応びいないまいとで製みの影響にないとと予測する。 以上のことから、本種の生息環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このに、「非成数はでは、一般で調査といいましまが、また。「単位は、大量に対し、対しに、対しに、対しに、大量に、大量に、大量に、大量に、大量に、大量に、大量に、大量に、大量に、大量	生態			
・ 春季調正記いて、対象事業実施区域外で2 例、対象事業実施区域内で1 例、合計 3 例が確認された (囀り)。 ・ 確認課策は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ 「生態系」において実施した営巣地離認調査で、合計 4 つの巣 (古巣合む) が確認された (図 8 -1 -4 -15 参限)。 ・ 「生態系」において実施した営巣地離認調査で、合計 4 つの巣 (古巣合む) が確認された (図 8 -1 -4 -15 参限)。 ・ 「生態系」において実施した営巣地離認調査で、合計 4 つの巣 (古巣合む) が確認された (図 8 -1 -4 -15 参限)。 ・ 「生態系」において実施した営巣地離認調査で、合計 4 つの巣 (古巣合む) が確認された (図 8 -1 -4 -15 参限)。 ・ 「生態系」において実施した営巣地離認調査で、合計 4 つの巣 (古巣合む) が確認された (図 8 -1 -4 -15 参限)。 ・ 「生態系」において実施した営巣地離認調査で、合計 4 つの巣 (古巣合む) が確認された (図 8 -1 -4 -15 参限)。 ・ 「生態系」において実施した営巣地離認調査で、合き地系 (1) 地域を特徴づける生態系 1) 調査結果の概要 ②複数の注目種籍の生態環境 (落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林) の一部を通過するが、対象事業実施区域外及近の変行中面の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、4 種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動・経路の遮断・阻害の参照はたんがとと利潤する。ともから、その範囲への移動・利用が可能をみると想定される。また、「正事刊資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な選行管理に努める」、「建設への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響といと予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。以上のことから、本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述すると思いでは、低懸管型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の計置を講じることにより、出来る限り生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響をいました。もの地により、出来る限り生息環境への影響をいました。を満に、地で発しまり、出来る限り生息環境への影響をでは、まり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境での施工まり。を対策の過生、実境がの事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響とが、製上のことから、素種への影響は少さいと予測する。  造成等の施工、より意味行の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響をは減ずないと予測する。 ・ 造成等の地工まり意味行の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響はからいと予測する。 ・ で成等の地工まり意味が重ねが軽力を含むため、繁殖への影響にないと予測する。 ・ 造成等の地工まり意味が重ねが軽力を含むため、整理への発力を対する。としている機能の主ないに対する。としている機能の変化が関する。といれが関するといれが関するといれが関する。といれが関するといれが関する。といれが関するといれが関するといれが関するといれが関するといれば、2 により、出来る限りには、2 により、出来る限りを含む、2 により、出来る限りには、2 により、出来る限りを含む、2 により、2 により、3 により、2 によ				·
・春季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で1例、合計3例が確認された(囀り)。・				
・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・生態系」において実施した営巣地障認調査で、合計4つの巣(古巣含む)が確認された(図 8-1-4-15 参照)。 ・生態系」において実施した営巣地障認調査で、合計4つの巣(古巣含む)が確認された(図 8-1-4-15 参照)。 ・生態系した初て実施した営巣地障認調査での内容等は、「8-1-6 生態系(1) 地域を特徴づける生態系 1) 調査結果の概要 ②複数の注目種等 の生態、他の動植物との関係又は生息者しくは生育環境の状況(b)注目種に係る調査結果の概要 c) 特殊性注目 種(ミゾゴイ)(ウ) 現地調査」に示寸)  工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断を できる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定される。とから、移動 経路の運断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 エ事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、援走するときり、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 ・ 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じるときから、その範囲への移動・利用が正常をを込むき、当初の事業計画の直しにより、出来る限り本種の生息環境への影響は小さいと考えられる。また、後走するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 遊成等の施工により急慢が動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境への影響は小さいと予測する。		<ul> <li>春季</li> </ul>		
状況 (営巣地確認調査の内容等は、「8-1-6 生態系 (1) 地域を特徴づける生態系 1) 調査結果の概要 ②複数の注目種等				
状況 (営巣地確認調査の内容等は、「8-1-6 生態系 (1) 地域を特徴づける生態系 1) 調査結果の概要 ②複数の注目種等	確認	<ul><li>「生態</li></ul>	系  にお	いて実施した営巣地確認調査で、合計4つの巣(古巣含む)が確認された(図 8-1-4-15 参照)。
の生態、他の動植物との関係又は生息若しくは生育環境の状況 (b)注目種に係る調査結果の概要 c) 特殊性注目種(ミゾゴイ) (ウ) 現地調査」に示す)  工事間の			_	
(ミソゴイ)(ウ) 現地調査」に示す)  エ事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車向定元行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、終動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 エ事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、巣から走行ルートが離れていることから、繁殖への影響もかいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による撥出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、が最政発生上を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境であるとおり、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境であるとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響を低減する。以と考えられる。さらに、「建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を請じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境への影響は小さいと予測する。造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及の影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響・れさいと考えられる。このため、「満水については、排水路にで調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響といると表しないを発展した早期経	0.00			
工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、条値への影響を低減する。 利用が可能であると想定される。また、巣がら走行ルートが離れていることから、繁殖への影響を低減する。 製上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境であた。出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境でをするすとから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の値では、まるとも制度し、作業員等による人為的も力を長小限に留める」、「非改変域へのか立ち入りを制限し、作業員等による人為的かました場とは、第位等の施工により、製定の大きの地では、環境への影響とによる人物の主な、繁殖への影響とい、地域の生態素に配慮した早期緑でなの影響を低減かる。 改変区域外の本種の検食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等や措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する高水の程度は、現況で発生している程度以下になり、と予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響はいさいと予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響はいさいと予測する。				
るが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限りかさくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、集から走行ルートが離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境で存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当加の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。からに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により高速行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及の影響は小さいと予測する。 造成等の施工により高速行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及の影響は小さいと予測する。とのため、「濁水の流入が考えられる。このため、「濁水の本種の生息環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水の本種の生息環境のの影響は小さいと予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小ないと予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小るいとと表は、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水の経度対象事業実施区域外に放流が表し、このため、「濁水の流入が考えられる。このため、「濁水の社の様別水の発度を開かれるとで表し、と述なが発し、と述なが発力には、造成等の施工により濁水の流の流入が考えられる。このため、「過水の発養性の対象を対していると考測する。」以上のことから、本種の生息環境の影響は小さいと予測する。		12. ( )	.,,,,	
できる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、巣から走行ルートが離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による機出人が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の必要を収域が確れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。ことで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。とから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により急避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により急避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境での影響は小さいと予測する。 造成等の施工により急避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。される。こかと、は、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の通道により、出来る限り生息環境への影響による人為的圧力を最小限に留める」、「活験光ペネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態素に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響と低減する。このため、「濁水に対する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。このため、「濁水の流入が考えられる。このため、「濁水に対しては、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水に対しな経度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。  工事用				
工事開係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、巣から走行ルートが離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。  基建機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境での影響は小さいと予測する。  建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境であた。当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生態であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生態であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率の施工を限り本種の生息環境への影響は必要におり、当次の影響により、出来る限り生息環境への影響はいきいと予測する。 造成等の施工により。造成等の施工により、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の施工により、こと考えられる。これをでは、対して表していると考した。と考したと考えられる。これをでは、対して表していると考していて、地域の生態系に配慮した早期線化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈酸させたのち、上澄み水を対象事業と配域外に充満を満して、土粒子を十分に沈酸させたのち、上澄み水を対象事業と配域外に充満を満して、と述が等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈酸させたのち、上澄み水を対象事業と配域外に充満といる。これにより濁水の流入が考えられる。これを表がでは、対しないないを表がでは、対しないないを表がでは、対しないないないと考えられる。これは、近に対しないないを表がでは、対しないないを発生を表がでは、対しないないと考えら、これは、対しないないと考えら、これは、対しないないないないないないないないないないないないないと考えら、大変に対しないないないないないないないないないないないないないないないないないないない				
東事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、巣から走行ルートが離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響のいた。さらに、「建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留めの施工による。 「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に違き一旦貯留計しる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響を化でいと予測する。			資材等の	
利用が可能であると想定される。また、巣から走行ルートが離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限りを関り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により、温来る限り生息環境への影響には、とかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境への影響はからいとそれる。これを行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も同避を関いたと考えられる。これを行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整地に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
響も小さいと考えられる。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。  建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響は小さいと予測する。  造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境での影響の回直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期縁による人。一時的な、大人、大人、大人、大人、大人、大人、大人、大人、大人、大人、大人、大人、大人、				
ドステス 計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境での影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境での影響は小さいと予測する。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、った場が表示の設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環での影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。			搬出入	
・ の運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。     以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。     せき散機域の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。     以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。     以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。     造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境への影響は小さいと予測する。     造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境への影響は小さいと予測する。     さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。     改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整地に導き一旦貯留し、土地子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により。過程できるとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで集から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。とらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留めの施工による一時的な影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じることの結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
及上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
登設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光バネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。  造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。  改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
工事の実施 建設機械 限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
工事の 実施 と考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かっ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
工事の 実施 の稼働 実施 の稼働 実施 の稼働 と考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。			建設機械	
活果				
出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留めの施工による。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑による 化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環一時的な境への影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。	結果	実施	- > 1>0 1>0	
以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留めの施工 る」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑による 化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環ー時的な 境への影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると 想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境へ の影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられ る。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留め の施工 る」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑 による 化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環 一時的な 影響 で破域する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。こ のため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたの ち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工 により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
想定される。また、後述するとおり、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留めの施工 る」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑による 化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環 一時的な 影響 の影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
の影響の回避を図ることで巣から改変区域が離れるため、繁殖への影響も小さいと考えられ 造成等 る。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留め の施工 による 化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環 一時的な 影響 で変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。こ のため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたの ち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工 により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
造成等 る。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留め の施工 おり、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑 による 化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環 一時的な 境への影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたの ち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工 により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
の施工 る」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑による 化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環 一時的な 境への影響を低減する。 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。			造成等	
による 化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環 一時的な 境への影響を低減する。				
一時的な 境への影響を低減する。 影響 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
影響 改変区域外の本種の採食環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
のため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
ち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工 により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				,
以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
生:生息塩塩の田積寺の数子は小数点弟3位を四番五人した側を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある.	注: 生	息環境の	L 面積等の数	字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

#### 表 8-1-4-80(3) 予測結果(鳥類:ミゾゴイ)

種名	ミゾゴィ	1						
	土地		営巣地の位置やその周辺の植生等が食環境を含む繁殖環境)は、営巣地をる。 地形の改変及び施設の存在により、業計画の見直しにより、繁殖環境の改変率は下表のとおり、18.90%から1参照)。  生息環境 落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林 改変区域外の本種の採食環境の一音えられる。このため、「濁水について沈殿させたのち、上澄み水を対象事業造成等の施工により流入する濁水の程さらに、「フェンス等の設置範囲はの措置を講じることにより、出来る例以上のことから、本種の生息環境へ	を含む (ha) (189.37	がとその下音 直環る。されのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	形に位置する 形に位置する 形が消地域の (6.67haの 積(ha) 見直し後 29.12 が施導等の程 にはいる。 ではいいの一種 にはいる。	5沢であると 5沢であると 6沢であると 6次での本種の 改変 当初計画 18.90 Eに留講じる。 としてる。 としている。 としている。 としている。	考えられ )、当初の事 )生息環境の (図 8-1-4-15 率(%) 見直し後 15.38 べの流入が考 粒子を十分に この結果、 こう測する。
		パネル等	太陽光パネル等の撤去・廃棄によりかしながら、工事の実施時以上の地所小さいこと、工事の実施時と同様の環よりも小さいと予測する。なお、太陽る緑化を行い、樹林植生の早期回復にすると予測する。	ジの改変はる 環境保全措置 場光パネルの	されないこと 置を講じるこ O撤去箇所に	こ、作業規模 ことから、そ は、可能なN	莫が工事の身 その影響はコ 艮り在来種の	医施時よりも 工事の実施時 の樹木等によ



#### 表 8-1-4-80(4) 予測結果(鳥類:ジュウイチ)

ジュウィ	′チ								
		/							
		P(繁)(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)) 							
高山帯 【生態】 卵相手	【分布】夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来する。埼玉県では、夏鳥として渡来し、低山帯上部から山地帯、亜高山帯の森林に生息する。 【生態】日本で繁殖するカッコウ科の他の3種(カッコウ、ツツドリ、ホトトギス)より標高の高い山地に生息する。托卵相手は主にオオルリ、コルリ、ルリビタキ、コマドリ。昆虫類を主食とし、樹上で鱗翅目の幼虫を好んで食べる。参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)								
及び金 ・ライン ・囀りカ	<ul> <li>・春季調査において、対象事業実施区域内で2例(改変区域内で1例)が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li> <li>・ラインセンサス法による確認はなかった。</li> <li>・囀りが確認されたこと、本種の托卵相手であるオオルリが確認されていることから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。</li> </ul>								
工事の 実施	工事用 資材等の 搬出入 建設機械 の稼働 造成等	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変							
	による 一時的な	区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。 さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の 措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
土地	及び施設の存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。  生息環境							
	[【【参・・・・ 工実 土又工の及 全 分高生卵考 春及ラ囀る 事施 事施 地は作存び 事 の か まか お まか まか まか か と か まか ま	[全 分高生卵考 春及ラ囀る ・・・・							

# 表 8-1-4-80(5) 予測結果(鳥類:ホトトギス)

種名	ホトト	ギス										
選定状況	(全県)R		氐山帯]LP(繁)(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))									
7172	【分布】	夏鳥とし	て北海道、本州、四国、九州、南西諸島に渡来する。埼玉県では、夏鳥として渡来し、低地帯から亜高									
		山帯の森林に生息する。										
一般		【生態】低地から山地のササ藪のある林に生息する。托卵習性をもち、主な仮親はウグイスである。昆虫類を主食とし 樹上で鱗翅目の幼虫を好んで食べる。										
生態		樹上で鱗翅目の幼虫を好んで食べる。 ⇒考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)										
	<i>&gt;</i> 7		日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)									
			調査において、対象事業実施区域外で3例、対象事業実施区域内で7例(改変区域内で4例)、合計									
確認		10 例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で 0.08 であった。										
状況	・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で 0.08 であった。 ・囀りが確認されたこと、本種の托卵相手であるウグイスが多く確認されていることから、本種は予測地域内で繁殖し											
		る可能性が										
			工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、									
			対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の									
			で、すること、平僅は追路上の地上の利用は少ないと恋足されることがり、移動程路の感動・阻害の  影響はほとんどないと予測する。									
		工事用 資材等の	工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業									
		搬出入	実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能で									
			あると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低									
			減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。									
	工事の		以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
	実施		建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施									
		建設機械	区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能である と想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率									
		の稼働	的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本									
			種の生息環境への影響を低減する。									
		造成等	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変									
		回放寺										
		による	さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の									
		一時的な 影響	措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
予測		水百	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画									
結果			の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は									
			下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。									
			生息環境 面積(ha) 改変率(%)									
			当初計画 見直し後 当初計画 見直し後   第三十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二									
		地形改変	また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計 1.52 個体 (18.56%)									
		地形以変	おんで表のとおり、見直し後の収象面積とプインとブリス伝の結末が15台前 1.52 画体(16.50%)   が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生									
	土地 又は	施設の	息環境が残されること、後述するとおり本種の托卵相手であるウグイスへの影響も小さいと予測する									
	スは 工作物	存在	ことから、本種の生息は維持されると考えられる。									
	の存在		確認環境:広葉樹林									
	及び 供用		面積(ha) 推定個体数 改変面積(ha) 推定減少個体数 推定減少率(%) 102.43 8.19 21.65 1.52 18.56									
	供用											
			さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。									
			以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
		太陽光	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしな									
		パネル等	がら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、 工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測									
		の撤去・	工事の実施時と同様の環境保生指揮を講じることがら、ての影響は工事の実施時よりも小さいと「例する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の									
		廃棄	早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。									
>>- 4L	白畑はつ	工生物の粉	字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため 合計等の値が合わたい場合がある									

#### 表 8-1-4-80(6) 予測結果(鳥類:ツツドリ)

112112 707	1									
[全県、	低山帯]LP	(繁)(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))								
【生態】 ムシク 参考文献	【分布】夏鳥として九州以北に渡来する。埼玉県では、夏鳥として渡来し、低山帯から亜高山帯の森林に生息する。 【生態】低山帯の落葉広葉樹林や亜高山帯の針葉樹林に生息する。本州では主にセンダイムシクイ、メボソムシクイ等のムシクイ類に托卵する。昆虫類を主食とし、樹上で鱗翅目の幼虫を好んで食べる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社) ・春季調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であっ									
た。	·									
・囀りカ	「確認され	生による確認はなかった。 たものの確認例数が春季の 1 例のみであり、托卵相手であるムシクイ類がほとんど確認されていない 的な飛来であると考えられる。								
工事の 実施	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過す対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできるさくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用があると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよ画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。  建設機械の発働に伴う騒楽により、己遊行動が生じると考えられる。1 かしながら、対象更									
土地マン	地及施存 太パの でである である 大パの 大ルキ ・ 等・	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。  生息環境 面積(ha) 改変面積(ha) 改変率(%) 当初計画 見直し後 されることからその影響は小さとを残虐が立きた。 当記述は上海の実施時と同様の最近により、上海の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいとと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。 なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。								
	[全 【 参 ・ ・・ 工実 土又工の及供 ・ ・・ 上文工の及供 ・ ・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	【【 参 ・・・								

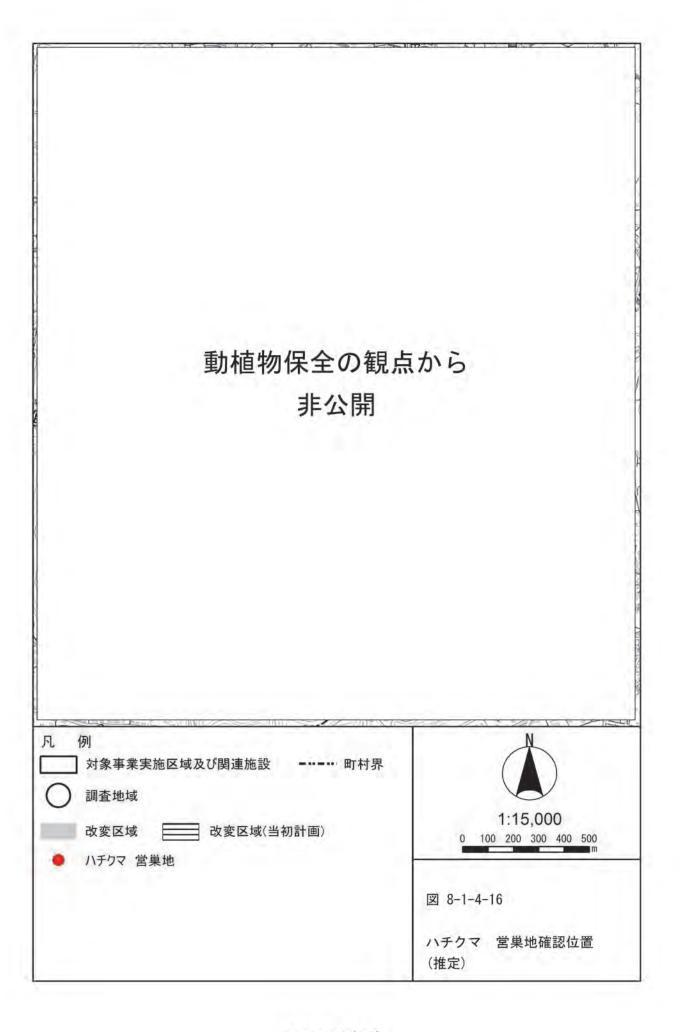
# 表 8-1-4-80(7) 予測結果(鳥類:ヨタカ)

U(繁) インス では、 できます できます できます できます できません できません かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	(埼玉県レーラー は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	部を通過するが、対象事業実施区域内 断をできる限り小さくすること、本種 路の遮断・阻害の影響はほとんどない 工事関係車両の走行に伴う騒音によ	(i)) 5。埼玉県でに 5。埼玉県でに 5。埼玉県でに 5。埼玉県でに 4版の林である 4版)」(2018 年、保育社) された(目撃 ペアである可 東通路上の地 は道路上の地	は、夏鳥とし 地面が乾いた 。主に林緑の 年、埼玉県) )。 「能性があり」 を樹林、スギ )ま行ルート	明るい林を の地上に浅い 、本種は予 ・ヒノキ植 <sup>‡</sup>	好む。飛びな か窪みをつく 則地域内で繁 木、伐採跡地	がら昆虫類を り産卵する。					
U(繁) インス では、 できます できます できます できます できません できません かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	(埼玉県レーラー は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ッドデータブック動物編 2018(第4版 て北海道、本州、四国、九州に生息する 生息し、繁殖している。 木が散在する落葉広葉樹やマツ等の針動 前後からの数時間が採食の最も活発な時 レッドデータブック動物編 2018(第 本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成74 て、対象事業実施区域外で2例が確認 葉樹林及び針葉樹林であった。 は2個体の同時確認であったことから 工事関係車両が本種の生息環境(落 部を通過するが、対象事業実施区域内 断をできる限り小さくすること、本種 路の遮断・阻害の影響はほとんどない 工事関係車両の走行に伴う騒音によ	(i)) 5。埼玉県でに 5。埼玉県でに 5。埼玉県でに 5。埼玉県でに 4版の林である 4版)」(2018 年、保育社) された(目撃 ペアである可 東通路上の地 は道路上の地	は、夏鳥とし 地面が乾いた 。主に林緑の 年、埼玉県) )。 「能性があり」 を樹林、スギ )ま行ルート	明るい林を の地上に浅い 、本種は予 ・ヒノキ植 <sup>‡</sup>	好む。飛びな か窪みをつく 則地域内で繁 木、伐採跡地	がら昆虫類を り産卵する。					
【 開生 講 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	夏鳥大きに望る。 は、	て北海道、本州、四国、九州に生息する生息し、繁殖している。 木が散在する落葉広葉樹やマツ等の針葉前後からの数時間が採食の最も活発な時間が採食の最も活発な時間が採食の最も活発な時間が採食の最生態図鑑<陸鳥編>」(平成79 て、対象事業実施区域外で2例が確認・ 葉樹林及び針葉樹林であった。 は2個体の同時確認であったことから 工事関係車両が本種の生息環境(落 部を通過するが、対象事業実施区域内 断をできる限り小さくすること、本種 路の遮断・阻害の影響はほとんどない 工事関係車両の走行に伴う騒音によ	5。埼玉県では 葉樹の林で、は 時間帯である 4版)」(2018 年、保育社) された(目撃 ペアである可 ・常緑画の地 は道路上の地	他面が乾いた。主に林緑の年、埼玉県))。  丁能性があり。  「大きではなった。	明るい林を の地上に浅い 、本種は予 ・ヒノキ植 <sup>‡</sup>	好む。飛びな か窪みをつく 則地域内で繁 木、伐採跡地	がら昆虫類を り産卵する。					
開生捕考 春確確能性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上山林等に2 中る。 は、「「ない」 は、「原には、2 のではない。」 は、1 ではない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	生息し、繁殖している。 木が散在する落葉広葉樹やマツ等の針類前後からの数時間が採食の最も活発な時 ペレッドデータブック動物編 2018(第 1本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成74 て、対象事業実施区域外で2例が確認 葉樹林及び針葉樹林であった。 は2個体の同時確認であったことから 工事関係車両が本種の生息環境(落 部を通過するが、対象事業実施区域内 断をできる限り小さくすること、本種 路の遮断・阻害の影響はほとんどない 工事関係車両の走行に伴う騒音によ	葉樹の林で、は 時間帯である 4版)」(2018 年、保育社) された(目撃 ペアである可 葉・常緑広東 のは道路上の地	他面が乾いた。主に林緑の年、埼玉県))。  丁能性があり。  「大きではなった。	明るい林を の地上に浅い 、本種は予 ・ヒノキ植 <sup>‡</sup>	好む。飛びな か窪みをつく 則地域内で繁 木、伐採跡地	がら昆虫類を り産卵する。					
<ul><li>確認環</li><li>確認される</li><li>能性が</li></ul>	環境は、広 まれた 2 例 ぶある。 工事用 資材等の	葉樹林及び針葉樹林であった。 は2個体の同時確認であったことから 工事関係車両が本種の生息環境(落 部を通過するが、対象事業実施区域内 断をできる限り小さくすること、本種 路の遮断・阻害の影響はほとんどない 工事関係車両の走行に伴う騒音によ	ペアである可 葉・常緑広葉 の通行車両の は道路上の地	「能性があり」 医樹林、スギ )走行ルート	・ヒノキ植材	<b>沐、伐採跡</b> 地						
	工事用 資材等の	部を通過するが、対象事業実施区域内 断をできる限り小さくすること、本種 路の遮断・阻害の影響はほとんどない 工事関係車両の走行に伴う騒音によ	の通行車両の は道路上の地	)走行ルート			1、草地)の一					
		あると想定される。また、夜間の工事 えられる。さらに、「工事用資材等の過 効率的な運行管理に努める」、「建設発 等の措置を講じることにより、出来る 以上のことから、本種の生息環境へ	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地、草地)の部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。									
	建設機械 の稼働		境が存在する 施しないこと 低騒音型の 避ける」等の の影響は小さ	ことから、 : から、本種 機械の使用に ) 措置を講じ : いと予測す	その範囲へのの活動時間に努める」、「 ることによりる。	の移動・利用中の影響も小計画的かつ。 計画的かつ。 の、出来る随	が可能である いさいと考えら 効率的な工事 もり本種の生息					
	の施工 による 一時的な	区域外に本種の生息環境が存在するこまた、夜間の工事は実施しないことか「樹木の伐採等を行う場合、段階的にじることにより、出来る限り本種の生	とから、その ら、本種の活 実施すること 息環境への影	節囲への移 動時間中の で周辺環境 に変を低減す	動・利用が可 影響も小さい への動物の る。	可能であると ハと考えられ	想定される。					
		の見直しにより、出来る限り生息環境	への影響の回	]避を図る。		•						
L- +1h	及び	生息環境	面積(ha)	改変面 当初計画	積(ha) 見直し後	改変 当初計画	率(%) 見直し後					
又は		落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植 林、伐採跡地、草地	224. 59	49. 48	42. 75	22.03	19. 04					
工作物   の存在   及び 共用		さらに、「フェンス等の設置範囲は最 置を講じることにより、出来る限り本	種の生息環境	色への影響を	低減する。	林を残存さ	せる」等の措					
	パネル等の樹去・	がら、工事の実施時以上の地形の改変 工事の実施時と同様の環境保全措置を する。なお、太陽光パネルの撤去箇所	はされないこ 講じることか は、可能な限	と、作業規 いら、その影 もり在来種の	模が工事の复響は工事の复樹木等による	実施時よりも 実施時よりも る緑化を行い	小さいこと、 小さいと予測					
I	に地はに作ったび は大作をでは、用	造のに一影 地及施存 地及施存 大パの廃 大パの廃 大パの廃 大米の廃 大米の廃 大米の廃	以上のことから、本種の生息環境へ造成等の施工により忌避行動が生じ区域外に本種の生息環境が存在するこまた、夜間の工事は実施しないことが「樹木の伐採等を行う場合、段階的にることにより、出来る限り本種の生息環境への見直しにより、出来る限り生息環境とはした。  地形の改変及び施設の存在により、の見直しにより、出来る限り生息環境とははした。 でをといるがある。なが、大塚が地、草地さらに、「フェンス等の設置範囲は過ぎにより、出来る限り本域とにより、出来る限り本が、「フェンス等の設置範囲は過ぎます。ことにより、本種の生息環境へは、大陽光パネル等の撤去・廃棄により、大陽光パネル等の撤去・廃棄により、本種の実施時以上のことから、本種の生息環境へは、大陽光パネル等の撤去・廃棄により、本種の実施時以上の、環境保全措置を対し、大陽光パネルの撤去を変が、まる。なお、大陽光パネルの撤去を変する。なお、大陽光パネルの撤去箇所早期回復に努めることにより、本種の	選出のことから、本種の生息環境への影響は小さき成等の施工により忌避行動が生じると考えられるではよる。一時的な影響 とにより、出来る限り本種の生息環境への影響は小さをにより、出来る限り本種の生息環境への影響は小さをしてもといる。とにより、出来る限り本種の生息環境への影響の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の見2.03%から19.04%まで軽減される(6.73haの改変)を発表して、では、作物の存在とび、は、は、19 を発表して、では、10 を発表して、10 を表表して、10 を表表もして、10 を表表して、10 を表表して、10 を表表して、10 を表表して、10 を表表して、10 を表表して、10 を表表もして、10 を表表もし	選上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測す 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかし 区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移また、夜間の工事は実施しないことから、本種の活動時間中の 「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境 じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減す 以上のことから、本種の生息環境への影響を低減す 以上のことから、本種の生息環境への影響を低減す の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。22.03%から19.04%まで軽減される(6.73haの改変回避)。  地形改変 及び施設の存在により、本種の生息環境への影響の回避を図る。22.03%から19.04%まで軽減される(6.73haの改変回避)。  地形改変 生息環境 面積(ha) 改変面 当初計画 本葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒ/キ植 など採跡地、草地 さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り 本葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒ/キ植 などにより、出来る限り本種の生息環境への影響を 以上のことから、本種の生息環境への影響を がら、エ事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規 工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影 する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の 早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対策で域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能を表します。 「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の利力を表しまり、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、22.03%から19.04%まで軽減される(6.73haの改変回避)。  地形改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、22.03%から19.04%まで軽減される(6.73haの改変回避)。  地形改変を対象がある。 は、代採跡地、草地を裏環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 太陽光ペネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じた場で、大陽光ペネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じた場で、大陽光ペネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じた場で、大陽光ペネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じた場で、大陽光ペネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じた場で、大陽光ペネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じた場で、大陽光ペネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の資する。なお、太陽光ペネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による。	選出のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であるとまた、夜間の工事は実施しないことから、本種の活動時間中の影響も小さいと考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外に本種の生息環境が存在することから、本種の活動時間中の影響も小さいと考えられる。といれていたであるとまた、夜間の工事は実施しないことから、本種の活動時間中の影響も小さいと考えられていることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。といれているとから、本種の生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境での影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境での影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境での影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境での影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境での影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境での影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境での影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境での影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境での影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境での影響の回避を図る。当初計画を記されていることにより、出来る限り本種の生息環境での影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境での影響はいさいと予測する。以上のことから、本種の生息環境での影響はいたいと予測する。以上のことから、本種の生息環境での影響はいたいとを関する影響が生じると考えられがら、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりもまたが、大場やパネルの物法節では、可能が限りな来種の樹木等による緑化を行いないと、作業規模が工事の実施時よりもまたが、大場で発生に関係の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりもまたが、大場で表現していた。					

# 表 8-1-4-80(8) 予測結果(鳥類:ハチクマ)

呑力	ハエル -	*	1
種名 選定	ハチクマ	•	
選定			山帯、台地・丘陵帯]DD(繁)(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))
一般生態	来し繁 【生態】 幼虫や 参考文献 ・猛禽舞	標高 1、50 標高 1、50 蛹を好んで は:「埼玉県 「原色日」 「原の調査によ	「北海道、本州、四国、九州に渡来し繁殖する。埼玉県では、丘陵帯、低山帯、山地帯の各地に夏鳥として渡」が、現在、県内での繁殖情報が極めて少なくなっている。 Om 以下の丘陵地や低山の山林に生息し、ナラ等の落葉広葉樹林やアカマツ等の針葉樹林で繁殖する。ハチので食べ、クロスズメバチ等のジバチ類を特に好む。ハチ以外にも両生類や鳥類等も給餌する。レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社) Sいて、対象事業実施区域内外で合計57例が確認された。 以内で1ペアの繁殖が確認され、巣立ち後の幼鳥が確認されたことから、繁殖に成功した。
状況	• 繁殖期	には本種の	営巣地が確認されなかったものの、その後非繁殖期 (落葉期) に対象事業実施区域内 (改変区域内) に本種 がある巣が確認された。
		工事用 資材等の 搬出入 (※)	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 資材運搬等の車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、本種は移動能力が比較的高いことから、移動が可能であると想定される。また、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置に加えて、さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。 なお、後述する環境保全措置「ハチクマを対象として非改変区域に人工代替巣を設置し、非改変区域へ営巣地を誘導する」についてはその効果に不確実性があると考えられ、それにより本種が繁殖する位置と走行ルートの位置関係も変化することから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。
予測	工事の 実施	建設機械の稼働(※)	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域 外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を 検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、 特に本種の繁殖期の影響を低減する。 なお、後述する環境保全措置「ハチクマを対象として非改変区域に人工代替巣を設置し、非改変区域へ 営巣地を誘導する」についてはその効果に不確実性があると考えられ、それにより本種が繁殖する位置と 改変区域の位置関係も変化することから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境 保全措置を検討する。
結果			造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。なお、後述する環境保全措置「ハチクマを対象として非改変区域に人工代替巣を設置し、非改変区域へ営巣地を誘導する」についてはその効果に不確実性があると考えられ、それにより本種が繁殖する位置と改変区域の位置関係も変化することから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。
	又は 工作物 の存在	地形改変 及び 施設の 存在	本種は1ペアの繁殖が確認され、今シーズンに利用した可能性がある巣は地形の改変及び施設の存在により消失する。 本種の巣であった場合、「事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させる」環境保全措置における検討でもその影響の回避・低減が困難であることから、代償措置を実施する。代償措置として、人工代替巣を設置し非改変区域へ新たな営巣地を創出・誘導することにより、出来る限り本種への影響を軽減する。 なお、代償措置についてはその効果に不確実性があると考えられることから、事後調査を実施して環境保全措置や予測・評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じて追加の環境保全措置を検討する。
	及び供用	太陽光 パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。 用した可能性のある巣は改変区域内にあり、本種の巣であった場合は地形の改変等により消失するが、本種

注:※について、本種が利用した可能性のある巣は改変区域内にあり、本種の巣であった場合は地形の改変等により消失するが、本種については環境保全措置により人工代替巣を設置し、非改変区域外へ営巣地を誘導することを踏まえ、別の場所での繁殖を想定して予測対象とした。

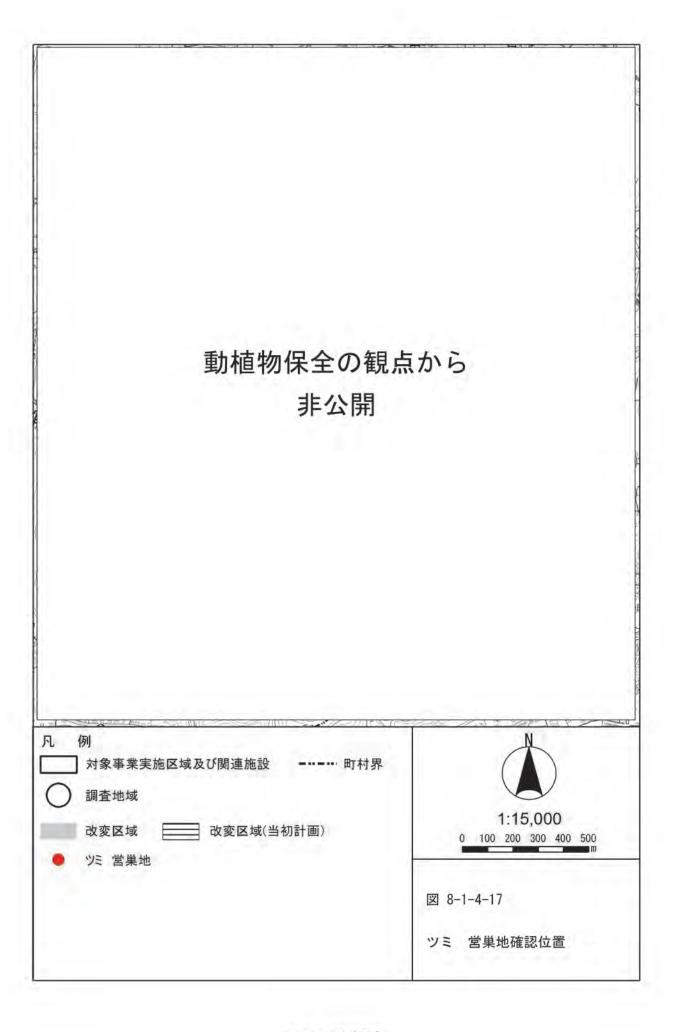


# 表 8-1-4-80(9) 予測結果(鳥類:トビ)

任力	1 120			) 1 4 00 (9)								
	トビ											
選定 状況				E県レッドデータブッ								
一般生態	の河/ 【生態】 カエ/ 参考文献	【分布】留鳥として九州以北に普通に生息する。埼玉県では、低地帯から低山帯に留鳥として生息する。利根川や荒川等の河川敷や広い農耕地等で多く見られるが、特に渡良瀬遊水地には多い。 【生態】各地の海岸、農耕地、河川、湖沼の周辺に生息し、平地から低山で繁殖する。主に死肉を食べるが、ネズミ、蛇、カエル、ミミズ、鳥等の生きている小動物も捕食する。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)										
確認 状況	・秋季調査において、対象事業実施区域外で1例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計35例が確認された。 ・繁殖に係る行動は確認されなかった。 ・繁殖に係る行動が確認されなかったことから、本種は予測地域を休息や採食等の為に一時的に利用していると考えられる。											
予結果	工事の実施	工資搬 建の 造のに一影用等入 機働 等工る的 で な	ををの 実あ画減 区と的種 区さパ期通で遮工施る的す以建域想なの以造域らネ回る・関係外定対象上設外定工生上成外にル復の限限係及さ率のとの機及さ計場での本「設勢のとのでは、小の両びれ的措か 稼変。をへか工の変箇る。	が本象では、 を を を を を を を を を を を を を	の通子の通常の地域では、の一点では、の一点では、の一点では、の一点では、の一点では、のの地域では、できる。では、できる。では、できる。では、できる。では、できる。では、のでは、できる。できる。できる。 しょう はんしょう しょうしょう しょう	きたが を で がすすで で で がすすで で で で で で で で で で で で で で	旧な 考ら出で環るらそぬ置 るな動的に種だと らそが利の 。囲にじ 、用を配ののを のが・月を見まる範疇のののでで、が・月を見まるをできる。 が・日本の一月影 しへめ 対が最いに はりまる はいまる はいまる はいまる はいまる はいまる はいまる はいまる はい	基本 は	財林環境の分経 環境の分経 事能 対がが から がり ががり かい 水 かい 水 かい 水 かい			
	土又工の及供地は特在	地形改変及びがある。	地形の改変及りの見面したおり、17.71%まで(6. (上段:営業に 常緑 本、草地、 「大陽 3 といる といる 以上の パネの といる 以上の パネの まままままままままままままままままままままままままままままままままま	び施設の存在により、 、出来る限り生息環境 営巣環境で18.90%から .85ha の改変回避)、車 生息環境 環境、下段、採食環境) 葉樹林、スギ・ヒノキ植林 葉樹林、スギ・ヒノキ植 耕地 湯光パネルの設置箇所 境を維持する」等の指	本種の生息類 を	環境の一部が 回避を図る。 (6.67haの配 当初計画 35.78 47.39 化 とにと予同様より、 といととを同様業別でした。 といきのでは、 といきのと、 といきのと、 といきのと。 といきのと、 といきのと、 といきのと、 といきのと、 といきのと、 といきのと、 といきのと、 といきのと。 といきのと。 といきのと。 といきのと。 といきのと。 といきのと。 といきのと。 といきのと。 とい。 といきのと。 といきのと、 といきのと、 といきのと、 といきのと、 といきのと、 といきのと。 といきのと。 といきのと、 といきのと。 といきのと。 といきのと。 とい。 とい。 とい。 といきのと。 とい。 とい。 とい。 とい。 とい。 とい。 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	消失する。 注の結果、 で変回避)、 積(ha) 見直し後 29.12 40.54 期的に環境をいる。 影響が工事のは 横は、等による。	本種の生息形 ・	環境の改変率は 20.70%から  率(%)  見直し後 15.38  17.71  適切に管理する  ではないことである。しかしない。 いいことである。しからいことである。 いいことである。 いいことである。 いいことである。 いいことである。 いいことである。 いいことである。 いいことである。			

#### 表 8-1-4-80(10) 予測結果(鳥類:ツミ)

			表 8-1-4-80(10) 予測	<b></b>	規・ノー/					
種名	ツミ									
選定 状況			疫带]NT2(繁) [低山带]DD(繁) (埼玉県1							
一般生態確認	し、 【生態】 多 考 春 を 施 区 **	【分布】留鳥または夏鳥として北海道から南西諸島までに分布する。埼玉県では、低地帯から低山帯に留鳥として生息し、繁殖する。現在は大きな林よりも市街地の緑地や公園の林等の小さな緑地で営巣するものが多い。 【生態】多くは平地から亜高山帯の林に生息するが、水田地帯や牧草地、住宅街及びその周辺等、比較的開けた環境でも繁殖記録が得られている。主にスズメ、ムクドリ等の小鳥を捕食するが、小型のネズミ類や昆虫類も捕食する。なわばりの中のいくつかの決まった樹木にとまり、近くを通過する小鳥を襲う。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社) ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で3例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計44例が確認された。								
状況	・対象 <sup>®</sup> えられ		域外で 1 ペアの繁殖が確認された。巣ゴ	左ち後の幼鳥	は確認され	なかったもの	かの、繁殖に	成功したと考		
		工事用資材等の搬出入	工事関係車両が本種の生息環境(落身を通過するが、対象事業実施区域内の追をできる限り小さくすること、本種は追の遮断・阻害の影響はほとんどないとう工事関係車両の走行に伴う騒音により実施区域外及び改変区域外に本種の生息あると想定される。また、巣と走行ルーから、繁殖への影響は小さいと考えられ的に集中しないよう、計画的かつ効率的し、場外への運搬車両を低減する」等の響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への	通行車の走上 直路上する選手を削いる選手がやらいです。 はないでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	行ルートはこの利用は少いが生じるといますることかいて事用。 は、「工事のの、「工事のの」、 は、「なめない」といることに努めていました。」とう測す	旧作業道を基 ないと想定さ 考えられる。 ら、その範囲 現状での運搬 「建設発生」 り、出来る原 る。	基本とし、様されることが しかの移動 場が 国で通両によるが 上を原本種の生	林環境の分断から、移動経路 がら、対象事業 がら、対が可ること が出入が一時 がは有効利用 に息環境への影		
	工事の実施	建設機械の稼働	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌 区域外及び改変区域外に本種の生息環境 と想定される。また、巣から改変区域が さらに、「建設機械については、低騒音 検討し、建設機械の集中稼働を避ける」 の影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への	<ul><li>ぎが存在する</li><li>が離れている</li><li>型の機械の付等の措置を</li><li>等の措置を</li><li>ご影響は小さ</li></ul>	ことから、 ことから、 使用に努める 講じること いと予測す	その範囲への 繁殖への影響 o」、「計画的 により、出き る。	の移動・利用 響も小さいと )かつ効率的/ 来る限り本種	が可能である 考えられる。 な工事計画を はの生息環境へ		
予測 結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生じる 区域外に本種の生息環境が存在すること また、巣から改変区域が離れていること 変域への立ち入りを制限し、作業員等に 所下部を含む造成箇所について、地域の る」等の措置を講じることにより、出来 以上のことから、本種の生息環境への	さから、その さから、繁殖 こよる人為的 つ生態系に配 なる限り本種	範囲への移! 値への影響も。 D圧力を最小  配慮した早期 値の生息環境	動・利用が可 小さいと考え 限に留める」 緑化を行い、 への影響を	可能であると えられる。さ 、「太陽光バ 植生の早期	想定される。 らに、「非改 ネルの設置筐		
	土又工の及供地は作存び用	地形改変 及び 施設の 存在	本種は対象事業実施区域外で1ペアの照)。 地形の改変及び施設の存在により、オの見直しにより、出来る限り生息環境及環境の改変率は下表のとおり、営巣環境で20.70%から17.71%まで(6.85haのを生息環境(上段:営巣環境、下段、採食環境)落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地さらに、「太陽光パネルの設置箇所下ることで緑地環境を維持する」等の措置影響を低減する。	つ繁殖が確認 本種の生息環 をび営巣地居 きで 18.90%が 改変回避)、 面積(ha) 189.37 228.90 部を含む縁つ 量を講じるこ	はされたが、 環境の一部が 関辺への影響 いら 15.38%ま 軽減される。 当初計画 35.78 47.39 化箇所は定期 とにより、	営巣地の改変 消失する。こ の回避を図る で (6.67ha 積(ha) 見直し後 29.12 40.54 目的に草刈り 採食環境を「	このため、当 る。この結果 の改変回避 改変: 当初計画 18.90 20.70	初の事業計画 、本種の生息 )、採食環境 率(%) 見直し後 15.38 17.71 歯切に管理す		
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	以上のことから、本種の生息環境への 太陽光パネル等の撤去・廃棄により、 がら、工事の実施時以上の地形の改変に 工事の実施時と同様の環境保全措置を計 する。なお、太陽光パネルの撤去箇所に 早期回復に努めることにより、本種の生	工事の実施 はされないこ ちじることか は、可能な限	5時と同様な と、作業規 なら、その影 もり在来種の	影響が生じる 関が工事の 響は工事の 関木等による	実施時よりも 実施時よりも る緑化を行い	小さいこと、 小さいと予測		



# 表 8-1-4-80(11) 予測結果(鳥類:ハイタカ)

1± 4	. > >=	L.										
	ハイタス											
			表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)									
次况			2(越) [低山帯]DD(繁・越) [台地・丘陵帯]NT2(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)) 本州の一部で繁殖し、冬季は全国に冬鳥として渡来する。埼玉県では、冬季は平地の林、農耕地、河川									
一般生態	敷等に生息する。県内でも夏季に山地に生息するが、繁殖の状況についてはよくわかっていない。 【生態】ツミよりやや標高の高い山地の林で繁殖し、冬季は平地から山地の林、農耕地、河川敷等に生息する。林内、林 緑の高地や草地等で獲物を捕らえる。主にツグミ位までの小鳥を狩る。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)											
	・冬季調査において、対象実施区域内で1例(改変区域内で1例)が確認された。また、猛禽類の調査において、											
確認												
状況	****											
	• 催認(	列数か少な	いことから、本種は予測地域を休息や採食等の為に一時的に利用していると考えられる。									
		工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地)のを通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境である。 できる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対策施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用があると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。										
	工事の		以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施									
	実施	建設機械 の稼働	区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
予測結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
			地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、営巣環境で18.90%から15.38%まで(6.67haの改変回避)、採食環境で20.70%から17.71%まで(6.85haの改変回避)、軽減される。									
		地形改変	生息環境									
	1.146	及び	(上段:宮果塚境、下段、採食塚境) 当初計画 見直し後 当初計画 見直し後									
	土地	施設の	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林									
	又は	存在	洛果・吊緑広集樹杯、パイ・ C/4値									
	工作物 の存在 及び 供用		一									
			太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしな									
		太陽光パネル等の撤去・	がら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、 工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測 する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の									
		廃棄	早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。									
>>- +L-	自母培の	L 西待空の粉	字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。									

# 表 8-1-4-80(12) 予測結果(鳥類:オオタカ)

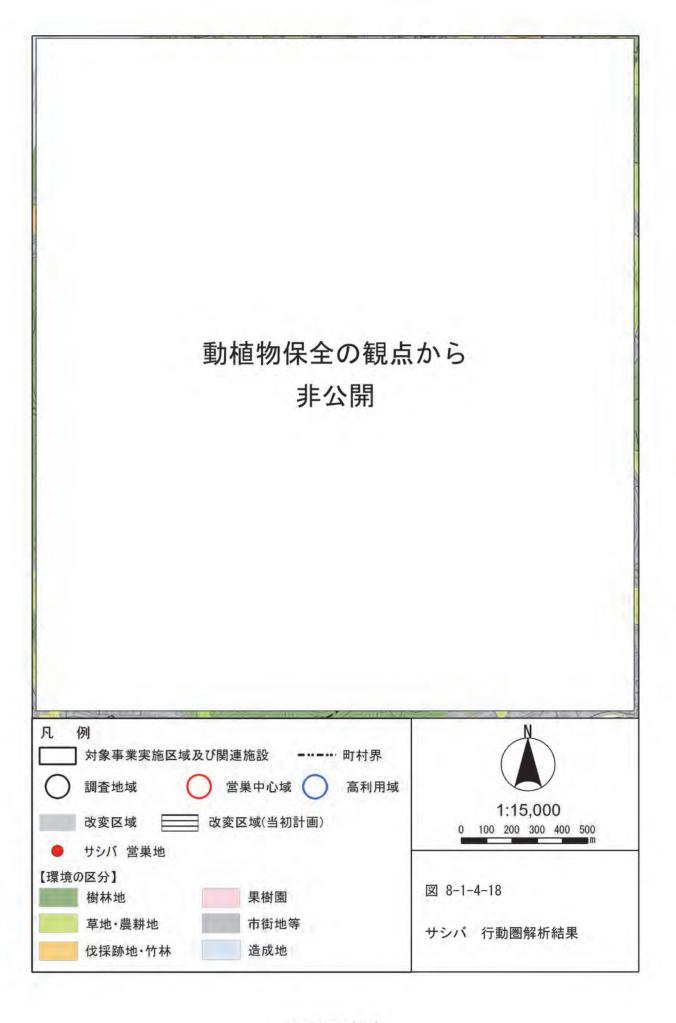
種名	オオタブ	ħ												
選定	NT (環境	竟省報道発	表資料 環境省レ	ッドリスト 2020 の公	表について)									
状況	[全県]V	***(繁・越)	[低山帯]VU(繁)	[台地・丘陵帯]VU(繁	)・NT2(越)	(埼玉県レッド	データブック動タ	物編 2018(	第4版))					
	【分布】	留鳥とし	て北海道、本州、四	四国、九州に分布し、	南西諸島では	は冬鳥。埼玉	県では、留具	鳥として平地	也から山地の林					
			敷等に生息する。											
		【生態】平地から亜高山帯の林、丘陵地のアカマツ林やコナラとアカマツの混交林に生息し、しばしば獲物を求めて農耕地、物芸地のカス円第の関けた場所による東大ス。 東海地のカス アメンス 獲物けれた バブ												
一般		地、牧草地や水辺等の開けた場所にも飛来する。市街地のさほど大きくない林で営巣するものもいる。獲物は主にツグ ミ級の小鳥で、ネズミやウサギ等も餌にする。入り組んだ樹間をくぐり抜けながら飛び、急降下・急上昇して獲物を背												
生態			ネズミやウサギ等で	も餌にする。人り組ん	た樹間をくっ	ぐり抜けなが	ら飛び、急	降ト・急上昇	1して獲物を背					
		う襲う。 ** . 「**大工  F	レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県)											
	<b>参与</b> 又用	「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)												
	V-1 6 1													
確認				実施区域内外で合計(										
状況				翔)が確認されたが、 は予測地域を休息や持				・女さされて						
	• 作記	州剱か少な		·					-					
				ぶ本種の生息環境(落										
				け象事業実施区域内の										
				くすること、本種は		この利用は少	ないと想定る	されることか	ら、移動経路					
		工事用		(響はほとんどないと) 走行に伴う騒音によ		が仕じてし	去うこわる	1 21 722	こ 分色重要					
		資材等の		文変区域外に本種の生										
		搬出入		ら。さらに、「工事用資										
				:運行管理に努める」、					· ·					
			減する」等の措置	量を講じることにより	、出来る限り	本種の生息	環境への影響	響を低減する	) <sub>o</sub>					
	工事の 実施		以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。											
			建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能である											
		建設機械の発制		らに、「建設機械につ					· ·					
		の稼働	的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り4 種の生息環境への影響を低減する。											
				が響を仏滅りる。 o、本種の生息環境へ	の影響は小さ	コンレ予測す	ス							
								多事業宝施区	では外及び改変					
		造成等 の施工 による 一時的な	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変 区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。											
				さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光」										
予測				〒下部を含む造成箇所										
結果		影響		等の措置を講じるこ				竟への影響を	:低減する。					
//HZ/K		71V E		、本種の生息環境へ					A 1					
				が施設の存在により、										
				出来る限り生息環境 営巣環境で 18.90%から										
				音楽環境 ( 16.90%から 85ha の改変回避) 、軽		(0. 0711a V)L	X发凹贮/、:	床及垛塊()	20. 10/8/14/9					
					1994 C. 41 U. 50 o	-1 -t	*** (1 )	-/ - <del>/-</del>	+ (0/)					
		地形改変	_	生息環境  焙   下品   松色煙焙	面積(ha)	改変面 当初計画			率(%)					
	土地	及び		:境、下段、採食環境) 医樹林、スギ・ヒノキ植林	189. 37	35.78	見直し後 29.12	当初計画 18.90	見直し後 15.38					
	工地 又は	施設の		を樹林、スギ・ヒノキ植										
	工作物	存在	林、草地、農耕		228.90	47. 39	40. 54	20. 70	17. 71					
	の存在		ナたい 「十四」	光パネルの設置箇所丁	立な今まる	ル常正は会ま	的に昇列を	お宝佐して	協切に答理す					
	及び			ルハイルの設直箇所「 意を維持する」等の措					_,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
	供用		影響を低減する。	F. C. WE1/1 3 の ] 4 6 5 1日	旦と時 しるこ		M. 风水光飞。	I.VI.VCIII.V.	がなり本種(ジ					
			=	<ul><li>、本種の生息環境へ</li></ul>	の影響は小さ	いと予測す	る。							
		_L,77 E \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		の撤去・廃棄により	ж. п	= + + + +	- 0	ると考えられ	しる。しかしな					
		太陽光		画時以上の地形の改変										
		パネル等 の撤去・		様の環境保全措置を										
		廃棄		湯光パネルの撤去箇所					、 樹林植生の					
				ことにより、本種の										
注・生	見環暗の	面積等の数	字は小粉占第3位な	を四捨五入した値を記載	ましているたと	カ 合計等の	盾が合わない	は合がある						

#### 表 8-1-4-80(13) 予測結果(鳥類:サシバ)

			表 8-1-4-80(13) 予測結果(鳥類:サシバ)
種名	サシバ		
選定	VU(環均	竟省報道発	差表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)
状況			陵帯]CR(繁) [低山帯]WJ(繁)(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))
一般生態	地・E いる。 【生態】 降り	丘陵帯、低   低山から モグラ、小 て捕らえる 献:「埼玉	県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県)
	毎ケで古士		日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)
確認 状況	区域 P · 対象 P	内外で合計 事業実施区	らいて、対象事業実施区域外で1例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施+359例が確認された。 【域内(改変区域外)で2ペア(Aペア及びBペア)、対象事業実施区域外で1ペア(Cペア)、合計3 性認され、いずれのペアも巣立ち後の幼鳥が確認されたことから、繁殖に成功した。
		工事用 資材等の 搬出入	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。資材運搬等の車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、本種は移動能力が比較的高いことから、移動が可能であると想定される。また、Aペア及びCペアについては巣から走行ルートが離れていることから、繁殖への影響も小さいと考えられる一方、Bペアは巣と走行ルートがやや近い。このため、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置に加えて、さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。なお、本種の巣と走行ルートとの位置関係から、一部のペアの予測に不確実性があると考えられることから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。
予測結果		建設機械 の稼働	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。なお、本種の集と改変区域との位置関係から、一部のペアの予測に不確実性があると考えられることから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。
		造成等 の に い よ い も い を も が ま る い よ る り る な ま の お ま の お ま る な る た る な る た る た る と る た る と る と る と る と る と る と	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。なお、本種の集と改変区域との位置関係から、一部のペアの予測に不確実性があると考えられることから、工事中に本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。

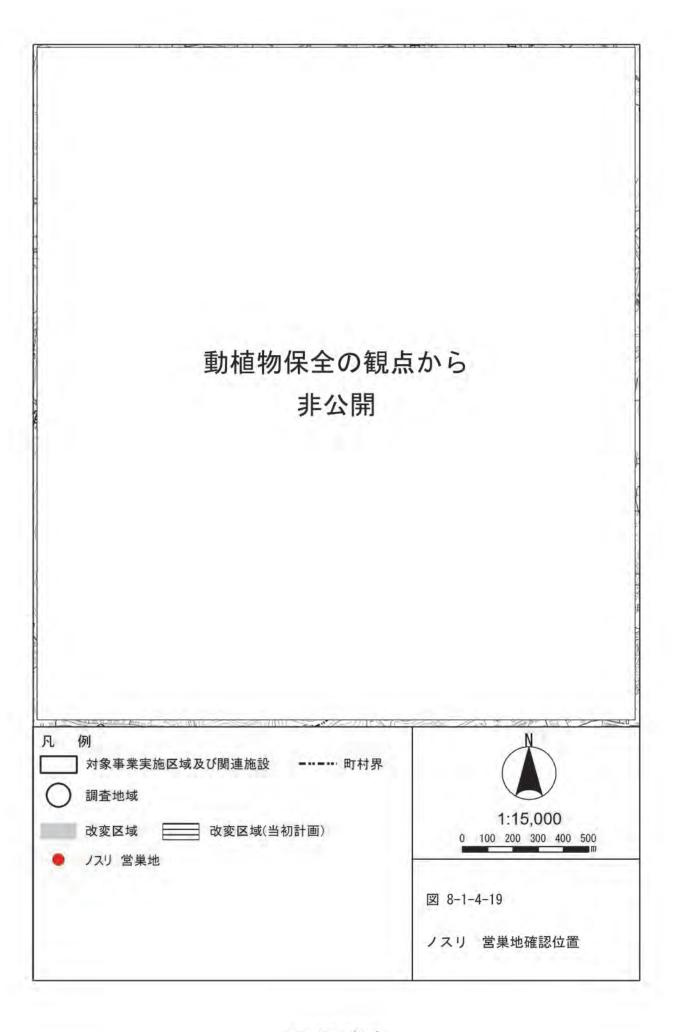
#### 表 8-1-4-80(13) 予測結果(鳥類:サシバ)

頹夕	サシバ												
1里/口	9 2 / 1		************************************	内でりペア	计负重类字		1 ペアの敏7	前が確認 や	h たが				
			本種は対象事業実施区域内で2ペア、対象事業実施区域外で1ペアの繁殖が確認されたが、 営巣地の改変はない。										
				「サシバの保護の進め方」(平成25年、環境省)に基づき、行動圏解析を実施した(図8-1-4-18参照)。繁殖が確認された3ペアのうち、対象事業実施区域外に巣があるCペアについて									
			2 11117 0 21117 11 11 11 11						-				
			は、営巣中心域は改変され										
			ことから、Cペアへの影響										
			(Aペア及びBペア) につい		. – ,,		- 0	• • •	4 / / / / /				
			画の見直しにより、出来る				- 0						
			心域の改変率は下表のとお			- '			(は				
			13.84%から 13.57%まで軽減	或される(それ	ぞれ 2.96ha	a 及び 0.071	na の改変回	避)。					
		地形改変	0 - 7 h	営巣中心域	改変面	積(ha)	改変	率 (%)	]				
		及び	ペア名	面積(ha)	当初計画	見直し後	当初計画	見直し後					
	土地	施設の	Aペア	24. 33	6.55	3. 59	26. 92	14. 74					
	又は	存在	Bペア	26. 75	3.70	3. 63	13. 84	13. 57					
予測	工作物		また、各ペアの高利用域	のうち 本種の	の採餌環境	(菠葉・堂	緑広葉樹林	スギ・ヒ	ノキ植				
結果	の存在		林、草地、農耕地)がそれ										
	及び		要な採食地は残される。さ										
	供用		りを実施して適切に管理す										
			し、猛禽類等の採食環境と			,							
			に出来る限り本種への影響		たり] サツ:	旧国で時じ	2000	7、 环皮织	元(二),口,				
			以上のことから、本種の	,, 0	影郷け小さ	ハレ予測す	Z.						
			J		,, ,, ,	_ , ,,,,	<b>9</b> 0	て確実性が	バあスレ				
			なお、本種の巣と改変区域との位置関係から、Aペア及びBペアの予測に不確実性があると 考えられることから、事後調査を実施して環境保全措置や予測・評価の妥当性を検証するとと										
			もに、必要に応じて追加の	,			田 岡 ツ 女:	コルで仮皿	, 200				
			太陽光パネル等の撤去・				影郷が生じ	スレ去うこう	h Z I				
		太陽光	かしながら、工事の実施時					•					
		- 1,247 —	小さいこと、工事の実施時	· · ·									
			よりも小さいと予測する。										
		原棄											
		<b></b>	る緑化を行い、樹林植生の	子朔凹復に労(	めることに	より、 半種(	// 生尽界現	は児児住民	まじ凹復				
N. 11			すると予測する。  空は小粉点第3位を四輪五1	. /+·		A =1 bb = bb 11	A 1 2 . IB A						



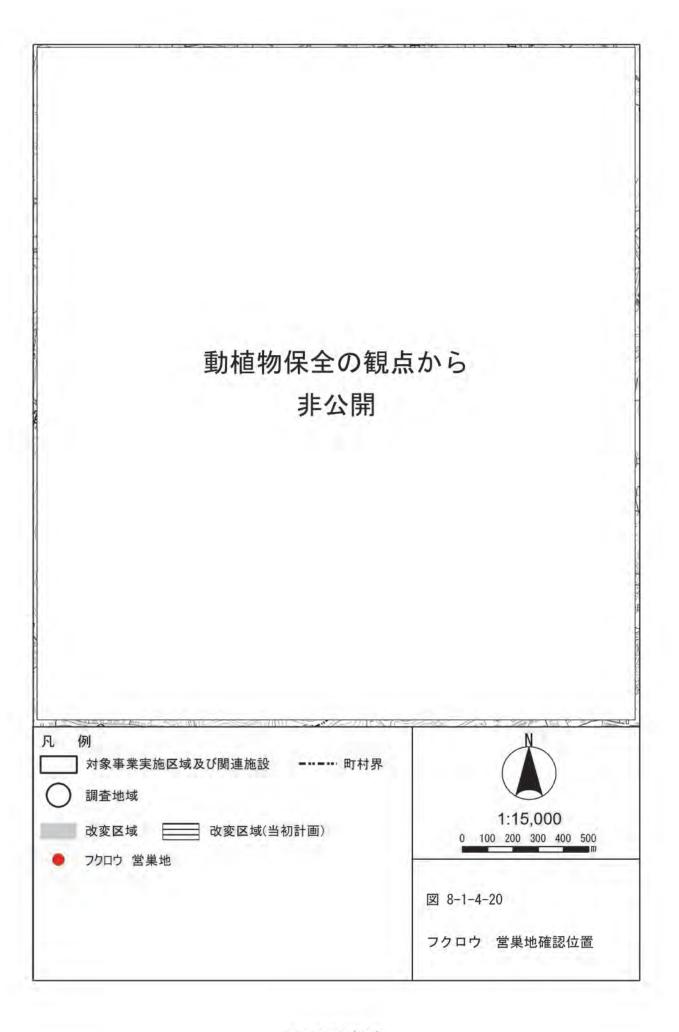
#### 表 8-1-4-80(14) 予測結果(鳥類:ノスリ)

種名	ノスリ		201 年 00 (1年) ] [[[[]]]	1个(而及	-	-						
選定状況		Γ2(繁・越)	[低山帯]NT2(繁) [台地・丘陵帯]DD(繁)・	NT2(越)(埼	玉県レッドデータ	アブック動物編	2018(第4版	į))				
一般生態確認況	低地帯 【生息】 多の小南 ・秋確記	【分布】四国以北で繁殖し、留鳥または漂鳥。南西諸島では越冬するものもある。埼玉県では、台地・丘陵帯で繁殖している他、低地帯での営巣も確認されている。冬は低地帯の農耕地や河川敷等でよく見られるようになってきた。 【生態】山地の森林や岩壁で繁殖するが、低地での繁殖確認が増えている。冬は農耕地、河川敷等の見通しのよい場所で見られる。営巣地周辺の荒れ地、河原、農耕地、干拓地で狩りをする。木の枝に止まって待つか、帆翔しながら獲物を探し、ネズミ等の小哺乳類、カエル、ヘビ、昆虫類、鳥類等を捕らえる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社) ・秋季、冬季及び春季調査において、対象事業実施区域外で2例、対象事業実施区域内で3例(改変区域内で1例)、合計5例が確認された。また、猛禽類の調査において、対象事業実施区域内外で合計139例が確認された。・対象事業実施区域内(改変区域外)で1ペアの繁殖が確認されたが幼鳥の確認はなく、途中失敗したと考えられた。										
	- 刈水す	工事用 資材等の 搬出入	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・過するが、対象事業実施区域内の通行車両限り小さくすること、本種は道路上の地上の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、区域外及び改変区域外に本種の生息環境が定される。また、巣から走行ルートが離れて、「工事用資材等の運搬車両による搬出	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害								
	工事の		める」、「建設発生土を原則場内で有効利用り、出来る限り本種の生息環境への影響を 以上のことから、本種の生息環境への影響を 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避 外及び改変区域外に本種の生息環境が存在 れる。また、「建設機械については、低騒 討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の	低減する。 響は小さい 経行動が生じ することか 音型の機械の	と予測する。 ると考えられ ら、その範囲 )使用に努める	る。しかした への移動・系 る」、「計画的	ながら、対象 <sup>3</sup> 川用が可能でる かつ効率的な	事業実施区域 あると想定さ 工事計画を検				
	実施	建設機械の稼働	を低減する。さらに、「工事工程を調整しに本種の繁殖期の影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影なお、本種の巣と改変区域との位置関係 本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順	、本種の繁殖 響は小さい から、予測 原応的な環境	直への影響に配 と予測する。 に不確実性が 保全措置を検	記慮する」措 あると考えら 討する。	置を講じるこ	とにより、特				
予測結果		造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。また、「非 改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所 下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の 措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。さらに、「工事工程を調整し、 本種の繁殖への影響に配慮する」措置を講じることにより、特に本種の繁殖期の影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 なお、本種の巣と改変区域との位置関係から、予測に不確実性があると考えられることから、工事中に 本種の繁殖状況を調査し、必要に応じて順応的な環境保全措置を検討する。									
			本種は対象事業実施区域内(改変区域外) 4-19 参照)。 地形の改変及び施設の存在により、本種 直しにより、出来る限り生息環境及び営巣 変率は下表のとおり、営巣環境で18.90%が 28.91%まで(0.18haの改変回避)、軽減さ	で1ペアの 電の生息環境 地周辺への から15.38%ま	繁殖が確認さ の一部が消失 影響の回避を そで(6.67ha	れたが、営身 する。このた 図る。この約 の改変回避)、	ため、当初の事 吉果、本種の4 、採食環境で	事業計画の見 生息環境の改 29.36%から				
	土地又は工作物	地形改変 及び 施設の 存在	生息環境 (上段:営巣環境、下段、採食環境) 落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林 草地、農耕地 さらに、「太陽光パネルの設置箇所下部	面積 (ha) 189. 37 39. 53 を含む緑化質	改変面 当初計画 35.78 11.60 i所は定期的	見直し後 29.12 11.43	改変 <sup>3</sup> 当初計画 18.90 29.36 施して適切に	見直し後 15.38 28.91				
	の存在 及び 供用		で緑地環境を維持する」、「緑地環境周辺にす」等の措置を講じることにより、採食環以上のことから、本種の生息環境への影なお、本種の巣と改変区域との位置関係を実施して環境保全措置や予測・評価の妥検討する。	環境を中心に に響は小さい いら、予測に 当性を検証	出来る限り本 と予測する。 に不確実性が するとともに	種への影響を あると考えら 、必要に応し	と低減する。 られることかり ごて追加の環境	う、事後調査 竟保全措置を				
22- 11	白ᄱᅝ	<b>廃</b> 乗	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、J ら、工事の実施時以上の地形の改変はされ 実施時と同様の環境保全措置を講じること お、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限 めることにより、本種の生息環境は現況程 字は小数点第3位を四捨五入した値を記載	ないこと、 から、その り在来種の 度まで回復	作業規模が工 影響は工事の 樹木等による すると予測す	事の実施時』 実施時よりも 緑化を行い、 る。	よりも小さい。 いさいと予 樹林植生の <sup>』</sup>	こと、工事の 則する。な				



# 表 8-1-4-80(15) 予測結果(鳥類:フクロウ)

· ·		•	表 0 1 1 00 (10) 1 A 1 1 1								
	フクロリ		· (4.b) - [(#   444] - 5 (445) - 5 ( 144 - 5 (	-7 xxxx / <del>/ / / / / /</del>	ma (HA)						
選定			2(越)[低山帯]DD(繁)[台地・丘陵帯 ータブック動物編 2018(第4版))	r」VU(繁)・N	12(越)						
认优			ータノツク動物編 2018(第4版)) で繁殖する留鳥。埼玉県では、低地帯か	) 再有山地。	が記さく敏症	1 アハス ノ	タル低地〜海	(分寸ですの)			
一般生態	いる。 【生態】 で、材 りやす	平地から」 な縁や下枝の けいものが 状:「埼玉県	山地の林に棲み大木の樹洞に営巣するが D少ない樹林等で採食する。獲物は地上	、オオタカの の匍匐潜行型 版)」(2018	D古巣や農家 型のネズミ類	の納屋に産	卵することも	ある。夜行			
		-	平野局生態因蟲	·、 木月江/							
確認 状況	・冬季及び春季調査において、対象事業実施区域外で16例、対象事業実施区域内で1例(改変区域内で1例)、合計17例が確認された(目撃及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・対象事業実施区域外で合計1ペアの繁殖が確認された。										
		工事用 資材等の 搬出入	工事関係車両が本種の生息環境(落実対象事業実施区域内の通行車両の走行/さくすること、本種は道路上の地上の利影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により実施区域外及び改変区域外に本種の生息あると想定される。また、確認された身ととから、繁殖への影響も小さいと考え一時的に集中しないよう、計画的かつ利用し、場外への運搬車両を低減する」等影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への	レートは旧作 利用は少ない 意環がを表 きいいないである。 をあるの はいいである。 であるの はいいである。 であるの はいいである。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	業道を基本。 いと想定される が生じると でること離れているに、「工事」 「管理に努める」 になることに、 であることに、	とし、樹林があることから、 考えられる。 きえられの範してい資材建設では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	環境の分断を 移動経路の しかしなが 田への移動・ 夜間の工事 運搬車両に。 発生土を原則	できる限りの。 対の 対の 対の 対の 対の 対の 対の 対の できる がいい 対の 可した がいい はる 搬出 人が はる 搬力で有効			
	工事の実施	建設機械 の稼働	「なり、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用								
予測結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響									
		地形び改変 施存	本種は対象事業実施区域外で1ペアの照)。 地形の改変及び施設の存在により、2の見直しにより、出来る限り生息環境/下表のとおり、18.90%から15.38%までは生息環境 落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒ/キ植林さらに、「フェンス等の設置範囲は最置を講じることにより、出来る限り本利以上のことから、本種の生息環境への太陽光パネル等の撤去・廃棄により、がら、工事の実施時以上の地形の改変が工事の実施時と同様の環境保全措置を記する。	か繁殖が確認 繁殖が確認 を種の影響のと響のる を関係した。 189.37 小限生とはの実いとか が関係である。 が関係である。 が関係である。 が関係である。 が関係である。 が関係である。 は、またい。 は、またいる。 も、またいる。 は、またいる。 は、またいる。 は、またいる。 は、またいる。 は、またいる。 は、またいる。 と	されたが、   境の一部が   選を図る。、 (6.67ha の改	営巣地の改変 消失する。 3 変回避)。 (ha) 見直し後 29.12 連続しる。 整が工事の等 響は工事の等	このため、当環 本種の生息環 当初計画 18.90 本を残存され ると施時よりも	初の事業計 境の改変率 <sup>(%)</sup> 見直し後 15.38 せる」等の指 る。しかし 小さいと予			
NA- (1	白煙点の	の撤去・ 廃棄	工事の実施時と同様の環境保全措置を計する。なお、太陽光パネルの撤去箇所に早期回復に努めることにより、本種の生字は小数点第3位を四捨五入した値を記載	は、可能な限 生息環境は現	り在来種の 記程度まで回	尌木等による 回復すると∃	る緑化を行い 予測する。				



#### 表 8-1-4-80(16) 予測結果(鳥類:アオバズク)

種名	アオバス	ベク										
選定状況			e帯]NT2(繁)	[低山帯]DD(繁	冬) (埼玉県	レッドデータ	ブック動物	編 2018(第	54版))			
一般生態	【分布】夏鳥として全国的に渡来する。南西諸島では留鳥。埼玉県では、低地帯から山地帯にかけて林に生息するが、多くは大木のある社寺林や屋敷林等で繁殖している。 【生態】低地や低山帯の大きい樹木のある樹林に生息し、巨木があれば公園や社寺林にも生息する。落葉広葉樹林、針葉樹林、針広混交林等どんな林でもいいが、特に常緑広葉樹林を好む。夜間に活動し、大型のガ、セミ、コガネムシ等を主として捕らえるが、小鳥やネズミも捕る。巣は洞穴借用型で、樹洞を使うことが多い。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社) ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹											
確認 状況	林であ	らった。		<ul><li>、対象事業実施</li><li>本種は予測地域</li></ul>				。確認環境	は、広葉樹村	木及び針葉樹		
	工事の実施	工事用 資材等の 搬出入	対さ影 実あさ行講 象く響工施るら管じ以建 事は事区とに理る上設 建こと係外定 (1 努とこ機	車両が本種の生児 施区域本種の信節と んどなの走区は発し をしたがの変を をしたがの変を をしたがのでででします。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	車両の走行が上の地上の利力を開かます。 する。 により ういなでは、 にないでは、 にないでは	ルートは旧作い り、環境には少ない り、環境が存ない。 はなりでではいる。 場内で環境はいる。 はのでではいか。 はいではいか。 はいがはいがはいか。 はいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがは	業道を基さ なといいでは、一時によるといいでは、一時に場合といいに場のでは、一時には、一時には、一時には、一時には、一時には、一時には、一時には、一時に	とし、樹林があることから、 考えられる。 らいないないない。 する。 られる。 したないないないないない。 したないないないないない。	環境の分断を 移動経路の しか経路の 世への移さい 悪やも計画減する 、 あずる かしながら、 かしながら、	できる限り小 の遮断・阻害の ぶら、対象事業で さえっ効率的な運 を 対象事業実施		
		建設機械 の稼働	と想定される。また、夜間の工事は実施しないことから、繁殖への影響も小さいと考えられる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
予測 結果		の施工 による 一時的な	区域外に本 ことから、 することで 境への影響	施工により忌避れ種の生息環境が不 繁殖への影響もり 周辺環境への動物 を低減する。 とから、本種の生	存在し、移動 小さいと考え 物の移動を値	動が可能であ えられる。さ 足す」等の措	ると想定さ らに、「樹木 置を講じる	れる。また、 <の伐採等を ことにより、	夜間の工事 行う場合、	事は実施しない 段階的に実施		
			地形の改 の見直しに	変及び施設の存在より、出来る限り、18.90%から	在により、ス り生息環境へ	本種の生息環 への影響の回	境の一部が  避を図る。	消失する。、 この結果、				
	土地 又工作物 の存在 及供用	地形改変 及び 施設の 存在	さらに、 置を講じる	生息環境 緑広葉樹林、スギ 「フェンス等の設 ことにより、出る とから、本種の2	と置範囲は最 来る限り本種	重の生息環境	への影響を	見直し後 29.12 連続した樹 低減する。	当初計画 18.90	率(%) 見直し後 15.38 せる」等の措		
		ハイル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パ がら、工事 工事の実施 する。なお 早期回復に	マンスの がま・見の 実施 時以上の はまま 見様の 環境 にない できる はいま	廃棄により、 地形の改変が 保全措置を の撤去箇所が り、本種の	工事の実施 まされないこ 講じることか ま、可能な限 生息環境は現	時と同様な と、作業規 ら、その影 り在来種の 況程度まで	影響が生じ 模が工事の 響は工事の 響は工事の 樹木等による 回復すると	実施時よりも 実施時よりも る緑化を行い 予測する。	っ小さいこと、 っ小さいと予測		

# 表 8-1-4-80(17) 予測結果(鳥類:カワセミ)

カワセ	<u> </u>									
【分布】全国に留鳥として分布している。埼玉県では、低地帯から低山帯にかけての河川・池沼に周年生息している。 【生態】河川、湖沼、小川、用水等の水辺で見られる。土の崖に嘴で巣穴を掘る。水辺に繁殖適地がないと、人が掘った穴の側面や残土等の土盛に巣を作ることがある。水辺の杭や水草、枝等にとまり、水面に飛び込んで小魚やザリガニ、エビ等を捕らえる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)										
・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された。確認環境は、開放水域(流水)であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。 ・対象事業実施区域外で1つの巣及び繁殖が確認されたことから、本種は予測地域で繁殖している。										
	工事用 資材等の 搬出入 工事関係車両は本種の生息環境(開放水域)周辺は通過しないことから、移動経路の遮断・阻害の 影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられるが、工事関係車両は本種の 生息環境(開放水域)周辺は通過しないことから、その影響はほとんどないと予測する。									
工事の	建設機械の稼働									
<b>美</b> 施	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外、 区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることによる。 る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。 め、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのなる水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工によりに濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。									
土又工の及供地は作存び用	地形び 放設 を存 と がの の の の の の の の の の の の の の	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、63.57%存在する。さらに、これ以外に面積として示していない飯田川等の開放水域(流水)が広く存在し、繁殖も流水環境で確認されていることから、本種の生息環境は広く残される。  生息環境 面積(ha) 改変面積(ha) 改変率(%) 別放水域(止水) 1.25 0.45 36.43  また、本種はラインセンサス法で確認されていないが、上記のとおり対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が広く残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。このため、「濁水このとなり本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水このいては、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変及び施設の存在により流入する。  本護と、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。  本陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生のする。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の								
	(全)(大)	[全       (日本)       (日本)	[全院] [大田] (第五県レッドデータブック動物編 2018 (第4版))  【分布】 全国に留島として分布している。埼玉県では、低地帯から低山帯にかけての河川・池沼に関年生息している。 (本館) 前川、湖沼、小川、用水等の水辺で見られる。土の真に繋で果穴を据る。太辺に繁殖値形がないと、人が据っての側面を実生等力・塩に基を作ることがある。木辺の杭や水草、枝等にとまり、水面に飛び込んで小魚やザリガ・エ学菜軟・1 埼玉県 レッドデータブック動物編 2018 (第4版)」 (2018 年、埼玉県) 「原色日本学島生態図鑑く陳島福」」(平成7年、保育社)  ・春季及び繁殖期調金において、対象事業実施区域外で2 例が確認された。確認は近域外で2 のの事態はまたとから、本種は子別地域で繁殖している。  工事用の対するの 報用人  「本事用の対析学の 報用人  「本事関係車両は本種の生息環境 (開放水域) 周辺は通過しないことから、移動経路の遮断・阻生登録境 (開放水域) 周辺は通過しないことから、移動経路の遮断・阻生登録域 (開放水域) 周辺は通過しないことから、その範囲・の移動 (11年) を建設機械 (開放水域) 周辺は通過しないことから、その範囲・の移動・利用が可能できを建設機械 (開放水域) 周辺は通過しないことから、その範囲・の移動・利用が可能できたり、と想定は入どないと子側する。  「本部関係車両に本種の生息環境が存在しまり、砂砂糖が可能であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び破疫区域外に水種の生息環境が存在しまり。一部の対域を関してより高水の環境が存出、多の計画を講じることにより、出来る限り値が生工まり、一部の地域のの影響を伝域する。 以上のことから、本種の生息環境の一部には、設成等の施工により適から、国際人については、排水部にて調整できることにより、出来の流入が考えられる。このため、「湯水については、財産が中枢に入を考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外の必要を受しましましましましましましましましましましましましましましましましましましま							

# 表 8-1-4-80(18) 予測結果(鳥類:アオゲラ)

<b></b>	アオゲラ	<del>,</del>			+ 00 (10)	, W14H	>1< (mg)	は・ノコノ			1		
選定					s /	<i>-</i>	<b>.</b>						
状況	[全県]R	T(繁) (埼	医県レ	ッドデータ	ブック動物	7編 2018(第	<b>64版)</b> )						
一般生態	ったが 丘陵村 【生態】 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	が、雑木林が 帯での繁殖 山地から <sup>3</sup> い。樹幹を <sup>3</sup> って果実も 訳:「埼玉県	が放置される 記録がは で地のし でから_ きべる。 でッド	され成熟した 曽加してい。 よく茂った林 上へよじ登り データブッ	た落葉広葉 る。 木に生息し りながら採 ・ク動物編	樹林となり。 、生木の幹り 食し、昆虫	キツツキ。 こ穴を掘~ 類等を捕 版)」(20	頃にとって好道 って巣穴とする らえる。地上で 18 年、埼玉県	歯な生息環境 っ。冬季に山均 ごはアリを盛ん	が整ったこ 也から低地	から山地帯であ ことにより台地・ に移動する個体 こる。また、小に		
確認		・秋季、春季、繁殖期及び夏季調査において、対象事業実施区域外で5例、対象事業実施区域内で15例(改変区域内で7例)、合計20例が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。											
状況								針葉樹林で 0.1	10 であった。				
	* 吽等 9 人		対さ影 実あ画減工象く響工施る的す事事すは事区とかる	関係実施と保証を表している。 関係を表している。 関係を表している。 関域を表している。 関域を表している。 関係のできる。  関係のできる。 関係のできる。  関係のできる	本種の生態である。本種の生態である。本種のはとうにはとうに域らいできる。ではいいではいいできる。ではいいではいいできる。ではいいでは、これではいいでは、これではいいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	思環境(落葉境を表現では、 環両の地上ののは、 をはいるのでは、 のでは、	を・常緑広 ・常緑広 川田は少な 、環境が存 球等の運 は要発生 出来る阿	日作業道を基本 にいと想定され 計動が生じると を存することが 搬車両による 手生を原則場内 とり本種の生息	とし、樹林野 ることから、 考えられる。 設出入が一時 で有効利用し 環境への影響	環境の分断 移動経路 しかしな 困への移動 的に集中し 、場外へ	を通過するが、 をできる限り小の遮断・阻害の がら、対象事業 ・利用が可能で しないよう、計 の運搬車両を低 る。		
	工事の実施	建設機械の稼働	建設 区域外 と想定 的な工 種 以上	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施 域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能である 想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率 りな工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本 値の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
			区域外 場合、 る限り	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画									
予測 結果			の見直	しにより、	出来る限り	) 生息環境へ	の影響の		この結果、本		当初の事業計画環境の改変率は		
				4	:息環境		面積(ha	)	j積(ha)		変率(%)		
			赤井	*・常緑広葉		・トル枯廿		当初計画	見直し後	当初計画			
	土地又は	地形改変 及び 施設の 存在	また が減少 息環境	下表のとお する可能性 が残される	り、見直し があるが、 ことから、	ン後の改変面 残される個 本種の生息	体数は多	ンセンサス法	実施区域外及		15.38 固体(13.24%) 域外に本種の生		
	工作物 の存在			環境:広葉 確認環境	倒外、針栗 面積(ha)	個外 推定個個	体数	改変面積(ha)	推定減少個	国体数 ‡	推定減少率(%)		
	及び			樹林	102. 43	5. 12	合計	21. 65	1.08	合計	13. 24		
	供用		さら 置を講	じることに	より、出来	<b>ドる限り本</b> 種	重の生息環	環境への影響を	低減する。	1.83   林を残存る	させる」等の措		
	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。  太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかりがら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいことで撤去・ でかから、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいとする。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。								も小さいこと、 も小さいと予測				
汝. #	自煙塔の	五種学の粉	シル 小米	<b>新占笠り付ま</b>	- 四栓玉 1 1	た荷も割卦	1 アル、ス・	ため、合計等の	値が合わわい	担人ぶもっ	,		

# 表 8-1-4-80(19) 予測結果(鳥類:ハヤブサ)

14 1	ハヤブţ		
選定			物種(絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律)
状況			表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)
7,72			疫帯]W(越) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))
			て、北海道から九州で繁殖し、冬季は冬鳥として全国に渡来する。埼玉県では、冬鳥として渡来し、平
			川敷、農耕地、湖沼、ダム湖等に生息する。
一般			で狩りをするため、海岸やそれに近い山の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原、原野等に 海岸の断崖や岸壁の岩棚等で繁殖していたが、現在は市街地のビルや橋脚等、人工構造物に営巣する
生態			<ul><li>、 ではいめばや戸室の右伽寺で繁殖していたが、現代は印街地のこれや個脚寺、人工構造物に営業する</li><li>る。獲物はほとんどがヒヨドリ級の小鳥で、まれに地上でネズミやウサギを捕らえる。</li></ul>
			というにはなどがという。 ペンドデータブック動物編 2018(第4版)   (2018年、埼玉県)
	<i>&gt;</i> - 7 \ / III		日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)
	<ul> <li>猛禽类</li> </ul>		おいて、対象事業実施区域内で3例が確認された。
確認	· 繁殖(	に係る行動	は確認されなかった。
状況	• 確認例	列数が少な	く、上空の飛翔のみの確認であったことから、本種による予測地域の利用はなく、上空を通過する個体
	の確認	忍であると	考えられる。
			   工事関係車両は本種の生息環境周辺は通過しないことから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとん
		工事用	エースパートは不僅のエ心状光内には近過しない。ことがり、70mmにより延め、近日の影音はほと70 どないと予測する。
		資材等の	工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられるが、工事関係車両は本種の
		搬出入	生息環境は通過しないことから、その影響はほとんどないと予測する。
		建設機械	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、改変区域に本
	実施	の稼働	種の生息環境は存在しないことから、その影響はほとんどないと予測する。
		造成等	
⇒ 20d		の施工	サード・サート   ロフロケチ   アルト・ファイン・ファイン・ファイン・ 大布   サーチ   サード・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン
予測 結果		による	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、改変区域に本種の生息環境は 存在しないことから、その影響はほとんどないと予測する。
和木		一時的な	付任しないことがり、その影響ははとんとないと「側する。 
		影響	
		地形改変	
		及び	本種は繁殖に係る行動が確認されなかったこと、上空の飛翔のみの確認であったことから、本種に
	土地	施設の	よる予測地域の利用はないと考えられる。
	又は	存在	以上のことから、本種の生息環境への影響はほとんどないと予測する。
	工作物の存在		
	の存在 及び	太陽光	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしなまた。工事の実体時以上の地形の地でなけるわないこと。体帯視機が工事の実体時にいまれないこと
	及い 供用	パネル等	がら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、 工事の実施時と同様の環境保全性異な謙にることから、その影響はほとしばないと予測する。なお
	レデノロ	の撤去・	工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響はほとんどないと予測する。なお、 太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行うが、本種の生息環境につい
		廃棄	本版元へ不かの根本画所は、可能な限り任米権の樹木寺による縁化を行うが、本権の生态環境についてに現況から変化はないと考えられる。
		L	Cは先仇がり久しはないて与んり40分。 

# 表 8-1-4-80(20) 予測結果(鳥類:サンコウチョウ)

			表 8-1-4-80(20)								
	サンコリ	ウチョウ									
選定 状況	[全県・	低山帯]EN	(繁) [台地・丘陵帯]CR(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))								
		こが、1980	て本州以南に渡来して繁殖する。埼玉県では、以前は低地帯から丘陵・台地帯、山地帯に普通に生息し 年代以降急激に数を減らした。現在は低地帯では見られなくなり、主に丘陵帯から低山帯で繁殖して								
一般			氐山の針葉樹が混じる暗い林で、近くに川があるところを好んで営巣する。低い灌木の間や林の中・下								
生態			を採食のために飛翔し、フライングキャッチ法で飛翔する昆虫類を捕らえる。繁殖期はなわばりを形成し、勇								
			か3叉の部分にスギの皮やアカマツの葉、コケ類等をクモの糸で絡ませて逆円錐形の巣をつくる。								
	参考文献		ペレッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県)								
	,去禾丁		日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社) 調査において、対象事業実施区域外で8例、対象事業実施区域内で7例(改変区域内で3例)、合計								
確認			<u> 『聞しわいて、利家事業美地区域外でも例、利家事業美地区域内です例(収象区域内でも例)、日間</u> た(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。								
状況			法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で 0.04 であった。								
	<ul><li>轉り力</li></ul>	が確認され	たことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。								
			工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、								
			対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小								
			さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の 影響はほとんどないと予測する。								
		工事用	影響ははこんとないと「別りる。   工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業								
		資材等の	実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能で								
		搬出入	あると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計								
			画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低								
			減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。								
	工事の		以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施								
	実施		区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能である								
		建設機械	と想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率								
		の稼働	的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本								
			種の生息環境への影響を低減する。								
		造成等	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
		短放寺 の施工	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変  区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う								
		による	場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来								
			る限り本種の生息環境への影響を低減する。								
予測		影響	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
結果			地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画 の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は								
			の兄直しにより、山木の取り生息原見への影響の回避を図る。この結末、本種の生息原現の収象率は 下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。								
			生息環境     面積(ha)     改変面積(ha)     改変率(%)       当初計画     見直し後     当初計画     見直し後								
			落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒ/キ植林   189.37   35.78   29.12   18.90   15.38								
		地形改変	また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計 0.30 個体 (8.62%) が								
	土地	及び	減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息								
	又は	施設の 存在	環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。								
	工作物	11-11-	確認環境:広葉樹林								
	の存在 及び		面積(ha) 推定個体数 改変面積(ha) 推定減少個体数 推定減少率(%)								
	供用		86. 95 3. 48 7. 46 0. 30 8. 62								
	D 13</td <td></td> <td>さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措</td>		さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措								
			置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。								
			以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
		太陽光	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、								
		パネル等	がら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、  工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測								
		の撤去・	する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の								
		廃棄	早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。								
× 4	自四体の	五種学の粉	字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。								

# 表 8-1-4-80(21) 予測結果(鳥類:ヤマガラ)

植名	ヤマガラ	ĵ										
選定			. I (I. ) 114-211-7 //	##\ /   /	н, э	h .	. ∡I # . · ·	\				
状況			計地・丘陵帯]NT2(製						1. 3			
一般生態	帯から 【生態】 食する 型で、	山地帯の 低地からん が、落ち 樹洞やキ	は漂鳥として、北海森林に生息し繁殖で 森林に生息し繁殖で 低山帯の雑木林、で ている木の実を拾り ツツキの古巣等を利 とレッドデータブッ	する。 ァツ林等色 うため地上 利用する。	々な樹林になるにも下りる。	生息する7 。昆虫類等	が、特にシイ、 等も食べるが、	カシの常緑は特に樹木の	広葉樹林を	と好む。樹上で採		
	<b>参</b> 有义制		*レットテータノッ   本野鳥生態図鑑<					)				
	<ul><li>全調者</li></ul>		· 対象事業実施区域 · 対象事業実施区域					改変区域内で	55例)、	合計 132 例が確		
確認状況	認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及びそれらの低木林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で 0.79、針葉樹林で 0.89 であった。 ・囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。											
		工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできていること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遊影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利あると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しな画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への通減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。										
	工事の 実施	,	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施 区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能である と想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率 りな工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本 重の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
		による	造成等の施工に 区域外に本種の生 場合、段階的に実 る限り本種の生息	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変 区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う 場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来 る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画								
予測 結果			地形の改変及び の見直しにより、 下表のとおり、18	出来る限り	) 生息環境~	への影響の	回避を図る。	この結果、ス				
			生	息環境		面積(ha)	改変面	ī積(ha)	改	変率(%)		
					1. 12 4-4-4-1		当初計画	見直し後	当初計画			
	土地 又は	地形改変 及び 施設の 存在	落葉・常緑広葉 また下表のとお が減少する可能性 息環境が残される 確認環境:広葉	り、見直し があるが、 ことから、	し後の改変面 残される個 本種の生息	固体数は多	く、対象事業	実施区域外及				
	工作物 の存在		確認環境 . 広楽	面積(ha)	推定個	体数	改変面積(ha)	推定減少個	固体数	推定減少率(%)		
	及び		広葉樹林	102. 43	80. 92	合計	21.65	17. 10	合計	15. 00		
	供用		<u>針葉樹林</u> さらに、「フェン 置を講じることに 以上のことから	より、出来	来る限り本種	重の生息環	境への影響を	低減する。	23.74   林を残存			
		バネル等の樹去・	-	の撤去・原時以上の対様の環境( 発の環境(	廃棄により、 也形の改変に 保全措置を請 の撤去箇所に	工事の実 はされない 構じること は、可能な	施時と同様な こと、作業規 から、その影 限り在来種の	影響が生じる 模が工事の影響は工事の影樹木等による	実施時より 実施時より る緑化を行	も小さいと予測		

#### 表 8-1-4-80(22) 予測結果(鳥類:ヒガラ)

<b></b> 種夕	ヒガラ										
選定											
状況			h地・丘陵帯]W(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))								
一般生態	息し、 【生態】 交林 <sup>を</sup> える(	繁殖する。 低山帯から でブナ林の 也、針葉樹は 状:「埼玉県	票鳥として屋久島以北に分布する。埼玉県では、低山帯から亜高山帯の森林に留鳥または漂鳥として生が、シジュウカラ、ヤマガラより標高の高い山地に多い。 ら亜高山帯の山地の林に生息する。冬は低地のマツやスギ等の針葉樹林に下りてくる。低山帯の針広混上部でも繁殖する。樹木の小枝や葉の多い樹冠部で採食し、隠れている昆虫類等を見つけ出して捕らの種子やブナの種子等も食べる。巣は洞穴借用型で、樹洞やキツツキの古巣等を利用する。 とレッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)								
	<ul><li>冬季調</li></ul>	間査におい	て、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で2例、合計3例が確認された(鳴き声)。確								
確認 状況	認環境は、針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は針葉樹林で 0.07 であった。 ・確認が冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬していると考えられる。										
		工事用 資材等の 搬出入	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
	工事の実施	建設機械の稼働	は上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業 区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能で と想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る防種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
予測			造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改図区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
結果			地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。								
	土地 又工作物 の及供用	地形改変 及び 施設 <i>の</i> 存在	19.37   35.76   29.12   16.90   15.38   また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計 0.52 個体 (8.54%) が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。   確認環境:針葉樹林   面積(ha) 推定個体数 改変面積(ha) 推定減少個体数 推定減少率(%)   86.95   6.09   7.46   0.52   8.54								
			さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
		太陽光 パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の日間にないます。								
			早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。 字は小数占第3位を四換五人した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。								

# 表 8-1-4-80(23) 予測結果(鳥類:ウグイス)

				<b>2</b> ₹ 0−1−2	. 00 (20)	1 1/1/11	>\ \m\ \	貝・プライ			
	ウグイン	ζ									
選定 状況	[全県]R	T(繁) [低	山凊	持]NT2(繁)(埼玉	県レッドテ	ータブック	動物編 20	018(第4版))			
一般生態	【分布】全国的に繁殖する留鳥。埼玉県では、主に台地・丘陵帯から山地帯・亜高山帯にかけて普通に繁殖し、低地帯においては比較的規模の大きい樹林地や荒川、利根川、江戸川等の河川敷に発達したヨシ原等で少数が繁殖する。 【生態】下生えの多い林、ササ藪、草生地、ヨシ原、林縁の茂み等にすみ、市街地や公園や庭の植え込みや生垣にもいる。低木の枝の茂み、ススキの株の中、ササ藪の中等の低い場所に、ササやススキ等のイネ科植物の葉を使って巣をつくる。藪の中を枝渡りしながら、葉の裏面につく昆虫類を捕らえる。冬季は熟したリンゴ、カキ等の果実を食べる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)										
		「原色日	本里	予鳥生態図鑑<陸	鳥編>」(	平成7年、例	杲育社)				
確認 状況	(目撃 ・ライン った。	墜、地鳴き及 ✓センサス注	びに	象事業実施区域ダ 轉り)。確認環境 よる生息密度(個 とから、本種は	は、広葉権  体/ha)は広	対林、針葉樹 、葉樹林で 0.	林、低木材 91、針葉材	木、高茎草地、 樹林で 0.27、f	笹原及び竹林	であった。	列が確認された 草地で 0.48 であ
	工事の実施	工事用 資材等の 搬出入	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林、草地)一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効は運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								財林環境の分断 移動経路の遮 対象事業実施 可能であると想 画的かつ効率的 5」等の措置を
		建設機械	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
		による	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
予測 結果			直	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、22.03%から19.04%まで軽減される(6.73haの改変回避)。							
				生息環境		而结(ha)		面積(ha)		変率 (%)	
		地形改変 及び 施力		生息			面積(ha)	当初計画	見直し後	当初計画	見直し後
				落葉・常緑広葉 林、伐採跡地・			224. 59	49. 48	42. 75	22. 03	19. 04
	土地 又は		また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計 30.71 個体 (21.69%) がネシする可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境を 残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。								
	工作物	存在		確認環境:広葉					<b>朱宁沿小</b> 加	Π/ <del>/</del> **/- 14	*宁冰小枣(n/)
	の存在			確認環境	面積(ha)	推定個	14数	改変面積(ha)	推定減少個	111年数 打	生定減少率(%)
	及び		I -	広葉樹林 針葉樹林	102. 43	93. 21	<b>-</b>	21. 65	19. 70		
	供用			武栗樹外 伐採跡地・竹林	86. 95 7. 20	23. 48	合計     141.58	7. 46 2. 21	2. 01 3. 51	合計 30.71	21.69
				草地 草地	28. 01	13. 44	141.00	11. 43	5. 49	00.71	
			早地   28.01   13.44   11.43   5.49   さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
		-1-7E \//	_	太陽光パネル等の						きえられる。	しかしなが
		太陽光 パネル等		、工事の実施時以							
		ハイル寺の撤去・		施時と同様の環境							
		廃棄	お、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努								
				ることにより、本							
注 · 生	目標倍の	面積空の粉	71	は小数点第3位を	- 加 栓 玉 1 1	た値な記載	コアルスナ	<ul><li>よ</li></ul>	)値が合わわい	地へがなる	

# 表 8-1-4-80(24) 予測結果(鳥類:ヤブサメ)

· ·				衣 0-1-4		1 (1)	>  (11979	Į. Y J J	• ,					
	ヤブサ	ζ												
選定 状況				繁)[台地・丘陽										
				屋久島以北に渡来 自 1 繁殖する		玉県では、」	丘陵帯から	低山帯、山地	也帯に夏鳥と	して渡来し	、下層	層植生が豊		
一般	かな広葉樹林に生息し、繁殖する。 【生態】低山や丘陵の雑木林、スギ林等の林床に藪やササが密に生い茂った暗い林に生息する。灌木の茂みや広葉樹林の													
生態	下草の中を動き回り、植物につく昆虫類を捕らえる。巣は灌木林や落葉広葉樹林の地上につくる。													
	参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)													
				野鳥生態図鑑<										
確認				夏季調査において 雑認された (地間								内で 7		
状況	例)、合計 12 例が確認された(地鳴き及び轉り)。確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及び竹林であった。 ・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で0.04、針葉樹林で0.21、伐採跡地・竹林で0.53 であった。 ・轉りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。													
	• 呼 り /	1年記され	_	_とかり、平性に 工事関係車両が					・・・ノキ植材	木 伐採品	<b>下抽 •</b> 乍	ケ林) の一		
			ı	を通過するが、										
			断	をできる限り小	さくするこ	こと、本種に	は道路上の:	地上の利用は	は少ないと想象	定されるこ	とから	5、移動経		
		工事用	ı	の遮断・阻害の										
		資材等の		工事関係車両の										
		搬出入		施区域外及び改ると想定される。										
				のと思足される。 的かつ効率的な										
				する」等の措置								W-1-1-1-C 1FW		
				以上のことから							- 5			
	工事の 実施			建設機械の稼働	に伴う騒音	音により、 忌	と避行動が かんしん	生じると考え	こられる。した	かしながら	、対象	象事業実施		
	夫旭			区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能である										
		建設機械		と想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率										
		の稼働	ı	りな工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本重の生息環境への影響を低減する。										
				の生息環境への 以上のことから			)影響け小	さいと予測す	-る.					
		造成等	_	造成等の施工に						象事業実施	区域を	ト及び改変		
		の施工		域外に本種の生										
		による		合、段階的に実										
				限り本種の生息										
		影響		以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画										
予測			ı											
結果				見直しにより、 表のとおり、19.						14年17年	∿界児(	ノ以及学は		
,			,   	20 0 0 0 0 0 10.	. 21,000 19	10.01/0 CT	エトシャ (こり 0.9)			J/-	変率(%	1		
				生	E息環境		面積(ha)	当初計画	面積(ha) 見直し後	当初計画				
			1  -	落葉・常緑広葉	樹林、スギ	<ul><li>ヒノキ植</li></ul>	100 ==							
				林、伐採跡地・		, i pia	196. 57	37. 87	31. 33	19. 27		15. 94		
		地形改変		また下表のとお	り、見直し	し後の改変面	請とライ	ンセンサス法	この結果からる	合計 3.61·	固体(	13. 79%)		
	土地	及び		減少する可能性						及び改変区	「域外に	こ本種の生		
	工地 又は	施設の	息	環境が残される	ことから、	本種の生息	は維持さ	れると考えら	っれる。					
	工作物	存在		確認環境:広葉標	樹林、針葉	樹林、伐採路	亦地・竹林							
	の存在			確認環境	面積(ha)	推定個		女変面積(ha)	推定減少個	固体数	推定減	少率(%)		
	及び			広葉樹林	102. 43	4. 10	合計	21.65	0.87	合計				
	供用			針葉樹林	86. 95	18. 26	26. 18	7. 46	1. 57	3. 61	13.79	. 79		
				伐採跡地・竹林	7. 20	3. 82		2. 21	1. 17					
				さらに、「フェン						林を残存	させる	」等の措		
				を講じることに										
			_	以上のことから、						z 1, ±z ≥ >	b フ	1212		
		太陽光		太陽光パネル等ら、工事の実施										
		パネル等		ら、工争の美施 事の実施時と同										
		の撤去・	ı	多の										
		廃棄		期回復に努める										
· . #	自母培の	五種学の粉		は小数点第3位を							7			

#### 表 8-1-4-80(25) 予測結果(鳥類:オオムシクイ)

種名	オオムシ	/クイ									
湿宁			⇒次型 「標序型」、 12月 1 0000 の八字は のして)								
状況	DD(塓項	見 報 担 允 :	表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)								
一般生態	【分布】千島列島の山地の針葉樹林で繁殖し、東南アジアで越冬する。 【生態】日本には北海道知床半島に夏鳥として渡来し、繁殖する他、旅鳥として各地に飛来し、市街地や都市公園で見られることがある。5月中下旬の観察例が多い。 参考文献:「日本と北東アジアの野鳥」(2016年6月、生態科学出版株式会社)										
確認状況	・春季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例(改変区域内で1例)、合計2例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。 ・囀りが確認されたが、春季の1例のみの確認であること、本種は本州において旅鳥に区分されることから、渡り期における一時的な飛来であると考えられる。										
	工事の実施	工事用 資材等の 搬出入	村等の 工事関係車両の走行に伴り騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業 対等の 実施区域外及び改変区域外に木種の生息環境が左在することから、その範囲への移動・利用が可能で								
		建設機械 の稼働	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
予測 結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変 区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う 場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来 る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
	土又工の及供地は作存び用	地形び の で と と と と と と と と と と と と と と ま か か ま か か ま か か ま か か ま か か ま か か ま か	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。  生息環境								
		の撤去・ 廃棄	工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。 字は小数点第3位を四接五人した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。								

#### 表 8-1-4-80(26) 予測結果(鳥類:トラツグミ)

	トラツグ	₹						
選定 状況	[全県・低	:山帯]NT2	(繁) [台地・丘陵帯]WU(繁) (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))					
一般生態	【分布】留鳥または漂鳥として、本州から九州に分布する。埼玉県では、丘陵帯から亜高山帯までの森林で繁殖する。 【生態】低山から亜高山帯の山地の広葉樹林や針広混交林に生息する。両足を交互にしてはね歩いて昆虫類やミミズ類 を捕らえる。木の枝の上にコケ類や枯れ枝で椀型の巣を作る。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)							
確認状況	・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された(囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 ・ラインセンサス法による確認はなかった。 ・囀りが確認されたことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。							
予測結果	工事の建のに一	正事用等の 登出入 き設機働 等工る	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響と低減する。					
	土又工の及供地は作存び用がの廃	b形改 で で で で で で で で で で で で で	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。  生息環境					

# 表 8-1-4-80(27) 予測結果(鳥類:ルリビタキ)

種々	ルリビタ	タキ										
選定												
選足 状況			玉県レッドデータン									
			は漂鳥として北海道			し、冬季に	は本州以南で起	必冬する。埼芸	E県では	、秩父山地の山地		
	帯上部から亜高山帯の樹林地に生息し繁殖する。											
一般	【生態】夏季は亜高山帯の落葉樹林、針広混交林、針葉樹林に生息し、冬季は平地から山地の林等で越冬する。樹林内の											
生態												
	参考文献	扰:「埼玉県	<b>!</b> レッドデータブッ	ク動物編	2018(第4	版)」(20	18年、埼玉県	(,)				
		「原色日	本野鳥生態図鑑<	陸鳥編>.	」(平成7年	、保育社	()					
	<ul> <li>冬季調</li> </ul>	間査におい	て、対象事業実施は	区域外で3	例、対象事	業実施区	域内で5例(	改変区域内で	5例)、	合計8例が確認		
確認	された	こ(目撃及び	ド地鳴き)。確認環境	竟は、広葉	樹林、針葉	樹林及び	その低木林で	あった。				
状況	・ライン	/センサス	法による生息密度(	個体/ha)	は広葉樹林で	© 0.18、	針葉樹林で 0.	12 であった。				
	<ul> <li>確認力</li> </ul>	が秋季及び	冬季のみであること	とから、本	・種は予測地	域で越冬	していると考	えられる。				
			工事関係車両が	本種の生息	息環境(落葉	・常緑原	葉樹林、スキ	・ヒノキ植材	木) の一	部を通過するが、		
			対象事業実施区域									
			さくすること、本	種は道路」	上の地上の利	月は少な	いと想定され	しることから、	移動経	路の遮断・阻害の		
			影響はほとんどな									
		工事用	工事関係車両の	走行に伴	う騒音により	、忌避往	<b>分動が生じると</b>	:考えられる。	しかし	ながら、対象事業		
		資材等の	実施区域外及び改	変区域外に	こ本種の生息	環境が存	存在することか	ら、その範囲	国への移	動・利用が可能で		
		搬出入	あると想定される	。さらに、	「工事用資	材等の運	搬車両による	般出入が一時	的に集中	しないよう、計		
			画的かつ効率的な	運行管理は	こ努める」、	「建設発生	E土を原則場内	可で有効利用し	_、場外	への運搬車両を低		
			減する」等の措置	を講じるこ	ことにより、	出来る例	見り本種の生息	環境への影響	響を低減	する。		
			以上のことから	、本種の生	主息環境への	影響は小	へさいと予測す	-る。				
	工事の		建設機械の稼働	に伴う騒音	音により、忌	避行動が	5生じると考え	られる。した	いしなが	ら、対象事業実施		
	実施		区域外及び改変区	域外に本種	重の生息環境	が存在す	ーることから、	その範囲への	)移動・	利用が可能である		
		建設機械	と想定される。さ									
		の稼働	的な工事計画を検	討し、建調	2機械の集中	稼働を過	達ける」 等の措	<b>肯置を講じる</b> こ	ことによ	り、出来る限り本		
		, , , , , ,	種の生息環境への									
			以上のことから	、本種の生	上息環境へ€	影響は小	いさいと予測す	-る。				
		造成等							東業実	施区域外及び改変		
		の施工										
		による	区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う 場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来									
			る限り本種の生息環境への影響を低減する。									
		影響	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
予測		~ =							のため	当初の事業計画		
結果			地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画 の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は									
			下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。									
			7 50 50 50 70 10		10,00,000	I// C , 0						
			牛	息環境		面積(ha	1	面積(ha)		<b>收変率(%)</b>		
					1-1-11		当初計画	見直し後	当初計			
			落葉・常緑広葉	樹杯、スギ	• ヒ/キ植林	189. 37	35. 78	29. 12	18.90	15.38		
		地形改変	また下表のとお	り、見直し	し後の改変面	i積とライ	インセンサス法	この結果から台	計 4.80	) (16.63)が減少		
	[ , 1:fe	及び	する可能性がある	が、残され	<b>れる個体数</b> に	は多く、対	付象事業実施区	[域外及び改変	医区域外	に本種の生息環境		
	土地	施設の	が残されることか	ら、本種の	の生息は維持	fされると	考えられる。					
	又はエルカ	存在	確認環境:広葉	計林 弘莽	掛林					<del></del>		
	工作物		確認環境	<u>助外、武果</u> 面積(ha)	推定個	<b>木米</b> ケ	改変面積(ha)	推定減少個	日休米	推定減少率(%)		
	の存在		広葉樹林	102. 43	18.44	合計	21.65	3.90	合計	1年足例少平(///		
	及び		針葉樹林	86. 95	10. 43	28.87	7. 46	0.90	4. 80	16. 63		
	供用			四宋何介   00.30   10.40   26.81   1.40   0.90   4.80								
									林を残れ	字させる」等の措		
1			置を講じることに	• • • •								
			以上のことから	、本種の生	±息環境への	影響は小	いさいと予測す	<sup>-</sup> る。				
		太陽光							-	られる。しかしな		
		人陽兀 パネル等	がら、工事の実施	時以上のは	也形の改変に	はされない	いこと、作業規	関模が工事の気	に 施時よ	りも小さいこと、		
		ハイル寺の撤去・	工事の実施時と同	様の環境は	保全措置を請	‡じること	こから、その影	/響は工事の第	に 施時よ	りも小さいと予測		
		4.4	工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測 する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の									
1		廃棄	早期回復に努める	ことにより	り、本種の生	息環境に	は現況程度まて	で回復するとう	予測する	0		
		T 1 = kk ~ ¥1.	字は小数点第3位を									

# 表 8-1-4-80(28) 予測結果(鳥類:キビタキ)

4壬 力	ナルカ	+-								
	キビタ	٢								
選定 状況			h地・丘陵帯]NT1(繁)(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))							
一般生態	【生態】 の萌ラ 境がサッチ派 参考文献	【分布】夏鳥としてほぼ全国に渡来する。埼玉県では、主な繁殖地は低山から山地帯である。 【生態】平地から山地のよく繁った落葉広葉樹林や常緑広葉樹林に生息、繁殖する。1960 年代の燃料革命以後、雑木林の萌芽更新が行われなくなり、林が成熟してきたため、樹の間の空間で昆虫を捕らえる本種の生息にとって好適な環境が増えてきた。また、スギやヒノキが混じった針広混交林等にも生息する。林の中層の枝にとまり、フライングキャッチ法で昆虫類を捕らえる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)								
確認状況	例)、 ・ライン	合計 43 例 /センサス	繁殖期調査において、対象事業実施区域外で 16 例、対象事業実施区域内で 27 例(改変区域内で 13 が確認された(目撃、地鳴き及び囀り)。確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。 法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で 0.27、針葉樹林で 0.20 であった。 たことから、本種は予測地域内で繁殖している可能性がある。							
	工事の	工事用 資材等の 搬出入	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過するが対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限りさくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能あると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実							
	実施	建設機械 の稼働	区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であ と想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率 的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り 種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
			造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変 区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う 場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来 る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
予測 結果			地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。							
		生自環境								
			生息環境     面積(ha)     当初計画     見直し後     当初計画     見直し後							
			落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒ/キ植林 189.37 35.78 29.12 18.90 15.38							
	土地 又は	地形改変 及び 施設の 存在	また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から合計 7.34 個体 (16.29%) が減少する可能性があるが、残される個体数は多く、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の息環境が残されることから、本種の生息は維持されると考えられる。							
	工作物	11717	確認環境:広葉樹林、針葉樹林							
	の存在		確認環境 面積(ha) 推定個体数 改変面積(ha) 推定減少個体数 推定減少率(%)							
	及び 供用		広葉樹林     102.43     27.66     合計 45.05     21.65     5.85     合計 7.34       針葉樹林     86.95     17.39     45.05     7.46     1.49     7.34							
	供用		当来橋林							
		太陽光 パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしがら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。							
)	白煙塔の	工作炊の粉	平朔回復に劣めることにより、平僅の生态泉境は現代性及よで回復すると予測する。   字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。							

# 表 8-1-4-80(29) 予測結果(鳥類:オオルリ)

er 6				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-	***************************************				
	オオル!	)								
選定状況	[全県]R	T(繁) [台	)地・丘陵帯	]CR(繁) (埼玉	E県レッドデー	タブック動	物編 2018	(第4版))		
一般生態	【分布】夏鳥として九州以北に渡来する。埼玉県では、秩父山地では普通に生息する。春夏の渡りの時期には低地帯等でも通過記録が多い。 【生態】繁殖期には低山から山地の主に渓流沿いの森林に生息する。山道に沿った岩の上や木のへこみ、人家のひさしの下等にコケを積み上げて皿型の巣をつくる。オスは突出した枯れ枝や梢に留まりよく囀る。樹木の梢にとまり、フライングキャッチ法で空中の昆虫類を捕らえる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社) ・春季及び繁殖期調査において、対象事業実施区域外で2例が確認された(囀り)。確認環境は、針葉樹林であった。									
確認 状況	・春学及い緊 規 調 管 において、 対 家事 果 夫 施 区 域 外 で と 初 が 確 認 さ れ に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に									
		工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部を通過対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできるくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用あると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないあると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しない調がつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							できる限り小遮断・阻害のら、対象事業利用が可能でよいよう、計運搬車両を低	
	工事の実施	建設機械の稼働	建設機械の 区域外及び と想定される 的な工事計画 種の生息環境	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施 近域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能である。 想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率 切な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本 道の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
<b>之</b> 、初			造成等のが 区域外に本利 場合、段階的 る限り本種の	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
予測 結果			の見直しに。	より、出来る阿	字在により、本 限り生息環境〜 ら 15. 38%まで	の影響の回	避を図る。	この結果、		
			落葉・常	生息環境	* <sup>*</sup> ・ヒ <i>ノ</i> キ植林	面積(ha) 189.37		i積(ha) 見直し後 29.12	改変 <sup>2</sup> 当初計画 18.90	,
	土地又は工作物である。	地形改変 及び 施設の 存在	また下表でする可能性が	のとおり、見i があるが、残る	直し後の改変面される個体数に 重の生息は維持	i積とライン t多く、対象	ゼンサス法 事業実施区	の結果から	0.30 個体(8	. 62%)が減少
	の存在			面積(ha)	推定個体数	改変面積(	(ha) 推定洞	成少個体数   打	推定減少率(%)	_
	及び 供用			86. 95	3. 48	7. 46	(	0. 30	8. 62	]
			さらに、「	フェンス等の	設置範囲は最	小限に留め、	可能な限り	)連続した様	材を残存させ	せる」等の措
					出来る限り本種					- ,
			以上のこ	とから、本種の	の生息環境への	影響は小さ	いと予測す	る。		
		太陽光パネル等の撤去・	がら、工事の 工事の実施	の実施時以上の	・廃棄により、 の地形の改変に 竟保全措置を講 いの撤去箇所に	はされないこ 毒じることか	と、作業規 ら、その影	模が工事の	実施時よりも 実施時よりも	小さいこと、 小さいと予測
		廃棄			より、本種の生					V BUILDET V
沙. 出	自母培の	五種学の粉			入した値を記載					i

# 表 8-1-4-80(30) 予測結果(鳥類:ベニマシコ)

在上			双 0 1 年 00 (00) ア 別 他 木 ( 局 規 . ・							
1	ベニマシ	<i>'</i> コ								
選定状況	[全県]R	(越) [台:	也・丘陵帯]NT2(越)(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))							
		主に北海道	で繁殖し、冬は本州以南に渡る。埼玉県では、冬鳥として低地から台地・丘陵帯、低山帯、山地帯に渡来す							
一般生態	低木の息する	る。 【生態】繁殖期には平地の低木のある草原、川に沿った低木林、林縁、広葉樹の疎林内の藪等にすみ、ハマナス、ニワトコ等の低木の枝に営巣する。越冬季には低地から山地の低木の茂みや林縁、疎林、農耕地、山麓・丘陵地に近い河川のヨシ原等に生息する。昆虫類、果実、種子、木の芽等を食べる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社)								
	<ul> <li>冬季調</li> </ul>	・冬季調査において、対象事業実施区域内で8例(改変区域内で6例)が確認された(目撃及び地鳴き)。確認環境は、広葉樹								
確認 状況	・ライン	センサス法	茎草地であった。  による生息密度(個体/ha)は伐採跡地・竹林で 0.80、草地で 0.30 であった。  -季のみであることから、本種は予測地域で越冬していると考えられる。							
	工事の 実施	雅出人 建設機械	区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を							
		造成等 の施工 による	検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
予測結果		<i>N</i> =	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、24.96%から 23.66%まで軽減される (1.94ha の改変回避)。  生息環境							
	土地 又工作物 で在 で	地形改変 及び 施設の 存在	株、早地、展耕地 また下表のとおり、見直し後の改変面積とラインセンサス法の結果から 5.20 個体(36.72%)が減少する可能性があるが、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残される。また、本種の主要な生息環境である伐採跡地・竹林及び草地について、対象事業実施区域内の伐採跡地・竹林及び草地は過去の他の工事により出現しており、そこでの確認個体は工事後に周辺環境から侵入してきたと想定されることから、元々の本種の生息環境は対象事業実施区域周辺にも存在すると考えられる。これらのことから、本種の生息は維持されると考えられる。							
	及び 供用		確認環境: 広葉樹林、針葉樹林、伐採跡地・竹林、草地 確認環境 面積(ha) 推定個体数 改変面積(ha) 推定減少個体数 推定減少率(%)							
	<del>рх</del> /п		伐採跡地·竹林 7.20 5.76 合計 2.21 1.77 合計 36.72							
			草地							
		<b></b>	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。 字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。							

# 表 8-1-4-80(31) 予測結果(鳥類:ホオジロ)

秝夕	ホオジロ									
選定										
状況	[全県]R		地・丘陵帯]NT2(越)							
	【分布】 布する		*繁殖し、冬季には暖	受地へ移動で	する留鳥ある	いは漂鳥	。埼玉県では、	低地帯から山	地帯まて	:留鳥として広く分
一般生態	【生態】 少して	- 色々なタイ :いる。冬に :「埼玉県	プの樹林の林縁、藪 は河川敷等で草本類の レッドデータブック 本野鳥生態図鑑<陸	つ種子を採 動物編 2	食するのがよ 018(第4版)	く見られ 」(2018年	、雛の餌とし			
	<ul> <li>全調查</li> </ul>		対象事業実施区域外				で 60 例(改変)	区域内で 44 例)	、合計	87 例が確認された
確認		遂、地鳴き及	なび囀り)。確認環境							
状況			による生息密度(個 ことから、本種は手					1.27、草地で 1	. 52 であ	った。
	工事の実施	工資搬 建の 造のに一	工事内 の	種の行用には本代の一生の大学のでは、出本代本のでは、は、出本代本では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	環にはいいないでは、	地・本れ 忌存車場環響行す騒の 響 考で体とと 動るる有のさ生と様を されと	、しかがこりを では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の分断をできる の分断をで・阻害 このもいか。。のもの ののは、ののものでは、ののものでは、ののものでは、ののものでは、ののものでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、い	限り小さい といい といい といい といい といい といい といい といい といい と	なくすること、本 はほとんどないと か、対象事業実施 が可能的かの対置を が計画的等の措置を 対象事ある効理を 対象事ある工事 を かと事業と を で的なで が改定で のよりで で のよりで が な で のよりで が な で の が で が り の り の り の と り の と り の り の と り の り の と り の と り の と り の と り の と り り の と り の と り の と り の と の と
予測結果		影響	以上のことから、 地形の改変及び施 直しにより、出来る おり、29.31%から2	記の存在し い限り生息	こより、本種 環境への影響	- の生息環 の回避を	境の一部が消失 図る。この結り	<b>夫する。このた</b>		
MAZIC			生	息環境		面積(ha)	当初計画	面積(ha)		女変率(%)
			伐採跡地・竹林	古州 単	<b>計</b>	46, 72	13.69	見直し後 13.63	当初計 29.31	
	土地 又は 工作物 の存在	地形改変 及び 施設の 存在	また下表のとおりる可能性があるが、な生息環境である付去の他の工事によりことから、元々の本ち、本種の生息は維確認環境:広葉様	、見直しる 対象事業 対線事地・クロス は現しては は種の生息 は持される	後の改変面積 実施区域外及 竹林及び草地 おり、そこで 環境は対象事 と考えられる	とライン び改変区 について の確認個 業実施区	センサス法の約 域外に本種の5 、対象事業実施 体は工事後に原 域周辺にも存る	吉果から 22.78 生息環境が残さ を区域内の伐採 周辺環境から侵	個体(3 れる。 跡地・作 入してき	5.59%) が減少す また、本種の主要 ケ林及び草地は過 きたと想定される
	の存在及び		確認環境: 広果性 確認環境	町外、町果 面積(ha)	樹外、仅採 推定個·		改変面積(ha)	推定減少個	体数	推定減少率(%)
	供用			102. 43	12. 29		21.65	2.60		11111111111111111111111111111111111111
			伐採跡地・竹林	7. 20	9. 14	合計	2. 21	2. 81	一 合計 —22.78	35. 59
			草地	28. 01	42. 58	64. 01	11. 43	17. 37	22. 18	
			で緑地環境を維持す 以上のことから、	る」等の 本種の生	措置を講じる 息環境への影	ことによ 響は小さ	り、出来る限り いと予測する。	)本種の生息環	境への影	
		太陽光	太陽光パネル等の	*****						
		パネル等	ら、工事の実施時以 実施時と同様の環境							
		の撤去・	実施時と同様の頻頻 お、太陽光パネルの							
		廃棄	めることにより、本						151.1.1.IIE =	
<b>沙</b> . 从	自煙塔の	五種学の粉	字は小数点第3位を					-	担合ぶも	. Z

# 表 8-1-4-80(32) 予測結果(鳥類:アオジ)

毛力	アオジ					3 13 13 11		.,,,,	• •			
	ノスン											
選定	[全県]D	D(繁) (埼∃	と 県	レッドデータブ	ック動物編	2018(第4)	饭))					
1/1/15				、本州中部以北で					や平地に移動する	5。埼玉県	具では、冬鳥とし	
		渡来し、県内各地の林や藪、ヨシ原、公園、人家の庭等に普通に生息する。										
一般	【生態】繁殖期は山地帯から亜高山帯の明るい林、草地等に生息し、冬季は平地から低山の林緑や藪、人家の庭等に生息する。											
生態	藪や草地等の地上で採食し、タデ科、イネ科等の種子、ズミ等の果実を食べる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)											
	参考文献							三、埼玉県)				
	「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保育社) ・秋季及び冬季調査において、対象事業実施区域外で26例、対象事業実施区域内で47例(改変区域内で35例)、合計73例が											
確認				び地鳴き)。確認								
状況	・ラインセンサス法による生息密度(個体/ha)は広葉樹林で 0.61、針葉樹林で 0.19、伐採跡地・竹林で 5.58、草地で 1.50 であった											
	った。 ・確認が秋季及び冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬していると考えられる。											
	• 傩認刀	↑秋学及い?								나는	4444 # Ub) a	
				工事関係車両がオ								
				部を通過するが、								
				できる限り小さく				の利用は少り	よいと想走される	5 5 273 6	つ、移動栓路の遮	
		工事用		・阻害の影響はほ 工事関係車両の起		_ , , , _	0	が仕じてし=	とうこわ エ しょ	1 +2-18 C		
		資材等の		工事関係単両のが 域外及び改変区域								
		搬出入		域が及び改変区場 される。さらに、				-				
				運行管理に努める				- 0000	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	•		
				じることにより、						TENPA	, の] 4.5.11臣で	
				以上のことから、								
	工事の		_							こがら. 女	+象事業実施区域	
	実施			建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域 外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定さ								
		建設機械	れ	れる。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事								
		の稼働		討し、建設機械の								
			響	響を低減する。								
				以上のことから、	本種の生息	息環境への影	響は小さ	いと予測する	5.			
		造成等		造成等の施工によ	こり忌避行動	動が生じると	考えられ	る。しかしフ	ながら、対象事業	<b>美実施区</b> 域	成外及び改変区域	
		の施工	外	に本種の生息環境	気が存在し、	移動が可能	であると	- 想定される。	さらに、「樹木	の伐採等	を行う場合、段階	
		による		的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生								
		一時的な	息	環境への影響を低	私減する。							
		影響 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。										
				地形の改変及び旅	短設の存在に	こより、本種	の生息環	境の一部がネ	肖失する。このカ	こめ、当初	刃の事業計画の見	
予測			1.	しにより、出来る						息環境の改	女変率は下表のと	
結果			お	り、22.03%から1	19.04%まで	軽減される	(6.73ha 0	つ改変回避)。				
74214			l	-				改多	を面積(ha)	5	女変率(%)	
				生	息環境		面積(ha	当初計i		当初計	画見直し後	
				落葉・常緑広葉	樹林、スギ	• ヒ <i>ノ</i> キ植						
				林、伐採跡地·			224. 59	49. 48	42. 75	22. 03	19.04	
			-	ナムエキのしわり	1 日本1 4	ツ の 14 赤 エ 4	El. = /\	- シュルコンナ	か付用ふさ 入割	44 11 /四 /-	F (07 90%) 38%	
		地形改変		また下表のとおり する可能性がある			. – .					
	1. 444	及び	1	9 つり配性がめる されることから、					型外及の収変し	△	・性の生息界現が	
	土地 又は	施設の	グズ	2110 - 2110,	半性の生	公(4)推行で1	ると与ん	りれる。				
	工作物	存在		確認環境:広葉	樹林、針葉							
	の存在			確認環境	面積(ha)	推定個	体数	改変面積(ha	a) 推定減少個	固体数	推定減少率(%)	
	及び			広葉樹林	102. 43	62. 48		21.65	13. 21			
	供用			針葉樹林	86. 95	16. 52	合計	7. 46	1. 42	合計	27. 36	
				伐採跡地・竹林	7. 20	40. 18	161. 20	2. 21	12. 33	44. 11	21.00	
				草地	28. 01	42. 02		11. 43	17. 15			
				さらに、「フェン	ス等の設置	範囲は最小	限に留め	可能な限り	連続した樹林を	残存させ	る」等の措置を記	
				ることにより、出						,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	9, 4, 4,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
				以上のことから、					-			
				太陽光パネル等の						きえられる	5。しかしなが	
		太陽光		、工事の実施時以								
		パネル等の数ます	実	施時と同様の環境	6保全措置	を講じること	から、そ	の影響は工具	事の実施時よりも	ら小さいと	:予測する。な	
		の撤去・	お	、太陽光パネルの	か撤去箇所に	は、可能な限	り在来種	の樹木等に。	よる緑化を行い、	樹林植生	上の早期回復に努	
	<u> </u>	廃棄		ることにより、本								
34 . H	自煙塔の	五年位の粉	· /= 1	は小数点第3位を	加齢エオー	た荷な和掛	1 アルマ	ため 入計句	なのはが合わわれ	担合ぶも	7	

### 表 8-1-4-80(33) 予測結果(鳥類:クロジ)

工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常	、冬季は本州中部以南に移動する。埼玉県では、山地帯から には平地の雑木林等に生息するが、越冬個体数はアオジほと で繁殖し、冬季は平地から山地の林等で越冬する。北海道で 茂って暗い林床でタデ科、イネ科等の種子をついばむ。 (2018年、埼玉県) 保育社) なた(目撃及び地鳴き)。確認環境は、針葉樹林の低木林で (ha であった。 ていると考えられる。									
状況 【全県」RT(越) 【台地・丘陵帯」NT2(越) (埼玉県レッドアータライン (	、冬季は本州中部以南に移動する。埼玉県では、山地帯から には平地の雑木林等に生息するが、越冬個体数はアオジほと で繁殖し、冬季は平地から山地の林等で越冬する。北海道で 茂って暗い林床でタデ科、イネ科等の種子をついばむ。 (2018年、埼玉県) 保育社) なた(目撃及び地鳴き)。確認環境は、針葉樹林の低木林で (ha であった。 ていると考えられる。									
一般 生態 一般 生態 「生態」夏季は亜高山帯のササ等の下層植生の豊かな樹林地では平地林でも繁殖する。ササ藪の下の地上で採食し、よく茂参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保・冬季調査において、対象事業実施区域外で12例が確認されたあった。 状況・ラインセンサス法による生息密度は針葉樹林で0.74個体/ha・確認が冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬して工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常	は平地の雑木林等に生息するが、越冬個体数はアオジほとで繁殖し、冬季は平地から山地の林等で越冬する。北海道で茂って暗い林床でタデ科、イネ科等の種子をついばむ。 (2018 年、埼玉県)保育社) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)									
「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(平成7年、保・冬季調査において、対象事業実施区域外で12例が確認されたあった。 状況・ラインセンサス法による生息密度は針葉樹林で0.74個体/ha・確認が冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬して工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常	保育社) れた(目撃及び地鳴き)。確認環境は、針葉樹林の低木林で ha であった。 ていると考えられる。									
・冬季調査において、対象事業実施区域外で12例が確認された 確認 あった。 状況 ・ラインセンサス法による生息密度は針葉樹林で0.74個体/ha ・確認が冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬して 工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常	れた(目撃及び地鳴き)。確認環境は、針葉樹林の低木林で 'ha であった。 ていると考えられる。									
状況 ・ラインセンサス法による生息密度は針葉樹林で 0.74 個体/ha ・確認が冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬して 工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常	ていると考えられる。									
	・確認が冬季のみであることから、本種は予測地域で越冬していると考えられる。									
田本の連出 あると、本種は道路 おの 連出 をできる限り小さくすること、本種は道路 おの 連出 ・ 阻害の影響はほとんどないと予測	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、伐採跡地・竹林)の一部を通過するが、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくすること、本種は道路上の地上の利用は少ないと想定されることから、移動経路の遮断・阻害の影響はほとんどないと予測する。 工事関係車両の走行に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲への移動・利用が可能であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。  建設機械の移働に伴う騒音により、記跡行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業事施									
実施										
造成等 造成等の施工により忌避行動が生じるとまの施工 区域外に本種の生息環境が存在し、移動が同による 場合、段階的に実施することで周辺環境への一時的な る限り本種の生息環境への影響を低減する。 影響 以上のことから、本種の生息環境への影響										
4- III	重の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画 D影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は 載される(6.55ha の改変回避)。									
生息環境 面和	立									
	当初計画 見直し俊 当初計画 見直し俊									
地形改変 林、伐採跡地・竹林	196. 57 37. 87 31. 33 19. 27 15. 94									
土地 又は て存在     施設の 存在 れることから、本種の生息は維持されるとま	責とラインセンサス法の結果から 5.52 個体(8.58%)が減少 対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が残さ で考えられる。									
の存在 確認環境:針葉樹林 不様() 横宮畑体数 おお	<b>北水五</b> 年(1)									
及び 供用     面積(ha)     推定個体数     改       86.95     64.34	改変面積(ha) 推定減少個体数 推定減少率(%) 7.46 5.52 8.58									
	限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」等の措 ひ生息環境への影響を低減する。									
ス陽光 パネル等 の撤去・ 下変変を表する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、同	工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。 しかしないれないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、ごることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の									
	標底は明知和広土 本国佐土 フリマルニフ									

#### ウ) 爬虫類

重要な種の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-81 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。

重要な種7種の予測結果は、表8-1-4-82に示すとおりである。

表 8-1-4-81 環境影響要因の選定結果(爬虫類)

	環境影響要因							
往女		工事の実施	土地又は工作物の 存在及び供用					
種名	工事用 資材等の 搬出入	建設機械 の稼働	造成等の施工 による 一時的な影響	地形改変 及び 施設の存在	太陽光 パネル等の 撤去・廃棄			
ヒガシニホントカゲ	0	0	0	0	0			
ニホンカナヘビ	0	0	0	0	0			
ジムグリ	0	0	0	0	0			
アオダイショウ	0	0	0	0	0			
シマヘビ	0	0	0	0	0			
ヤマカガシ	0	0	0	0	0			
ニホンマムシ	0	0	0	0	0			

注:表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「一」は、影響はほとんどない又はないと考えられる ことから環境影響要因として選定しない項目である。

#### 表 8-1-4-82(1) 予測結果 (爬虫類:ヒガシニホントカゲ)

種名	ヒガシコ	ニホントカ	ゲ						
選定									
状況	NT2(埼	玉県レッ	ドデータブック動物編 2018(第4版))						
一般生態。	環境があれば、都市部の住宅地でもみられる。ミミス、クモ、ワラジムシ、コオロギを主に食べる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「決定版 日本の両生爬虫類」(2002年、平凡社)  ・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で12例、対象事業実施区域外で3例(改変区域内で3例)、合計15例が確認された。								
/ / / /	・確認環境は、広葉樹林、低茎草地及び人工構造物であった。								
	工事の	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地)の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基準とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
予測結果	実施	一時的な	建設機械の稼働に伴う騒音により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。						
		影響	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
			地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、20.70%から17.71%まで軽減される(6.85haの改変回避)。						
		地形改変	生息環境     面積(ha)     改変面積(ha)     改変率(%)       当初計画     見直し後     当初計画     見直し後						
	土地	及び 施設の	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒ/キ植林、草地、農耕地     228.90     47.39     40.54     20.70     17.71						
	又は 工作物 の存在 及び 供用	存在	さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
		パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。						

### 表 8-1-4-82(2) 予測結果 (爬虫類:ニホンカナヘビ)

ニホン	カナヘビ						
		引ょッドデータブッカ動物類 2019(笠	4 悟))				
				411- 60	·# > > II	10.44. h	211-11-11
る。 【生態】 <i>を好。</i> べる。	低地から み、公園の 献:「埼玉!	山地にかけて広範囲に生息するが、低 緑地、水田の畦、人家の生け垣、畑地 県レッドデータブック動物編 2018(第	地や丘陵地 等、人為的 等 4 版)」(2	で多く見られな環境にも近	れる。草地 適応してい	等の日当た	りのよい場所
確認	された。				改変区域内	内で5例)、	合計 15 例が
工事問係車両が本種の生息環境(草地、農耕地)の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。 立となら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じる							
土地 又工作存 及 び 供用	地形び 改設 を と と で と が の 光 ル 去 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	地形の改変及び施設の存在により、 業計画の見直しにより、出来る限り生境の改変率は下表のとおり、29.36%か 生息環境 草地、農耕地 また、本種の主要な生息環境である 工事により出現しており、そこでの確ることから、元々の本種の生息環境は さらに、「太陽光パネルの設置箇所で 理することで緑地環境を維持する」等 低減する。 以上のことから、本種の生息環境へ 太陽光パネル等の撤去・廃棄により かしながら、工事の実施時以上の地形 小さいこと、工事の実施時と同様の環よりも小さいとと、工事の実施時と同様の環よりも小さいと予測する。なお、太陽 る緑化を行い、樹林植生の早期回復に	本種の生息 を は 28.91% 面積 (ha) 39.53 車 地 個 な 事 含 を は 対 新 部 告 置 を を で の 影 響 事 な は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	思環境のの一回さ 当初 11.60 本語 11.60 本	がをる (0.18h 大る (0.18h 11.43 第環に期り る影作か可 はいする。響業ら能ないです。 がをる (ha) 11.43 変にも的、。響業ら能が見、ない。 が見、ない。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	の結果、本はの結果、本はのおりでは、100 ででである。 では、100 ででである。 100 では、100 では	種の生息環 避)。 率(%) 見直し後 28.91 は過去の他の とと想定 いれる。 しいる。 しいる。 しいる。 しいる。 しいる。 しいる。 しいる。 しい
	全   大全   大全   大全   大字   大字   大字   大字	【【 参 ・・・	[全県]RT (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第	【全県]RT (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)) 【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、台地・丘陵帯を る。 【生態】低地から山地にかけて広範囲に生息するが、低地や丘陵地 を好み、公園の緑地、水田の畦、人家の生け垣、畑地等、人為的 べる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2 「決定版 日本の両生爬虫類」(2002 年、平凡社) ・全調査において、対象事業実施区域外で 9 例、対象事業実施区域外で 9 例、対象事業を抵した。 2 世界(原域)のの際には、十分減速の上・、道路へ進入する。 2 世界(原域)のの際には、十分減速の上、道路へ進入する。 2 世界(原域)を提供が表して、2 世界(原域)をといる。 2 世界(原域)を発生により、中域の大型・等のととから、本種の生息環境への影響との表での変更なが、2 世界の改変と対象を抵験していては、1 は、2 世界の改変と対象をといるとから、本種の生息環境への影響は、2 世界の改変とが、2 世界の改変とが、2 世界の改変とが、2 は、2 は、2 は、2 は、2 は、2 は、2 は、2 は、2 は、2 は	[全県]RT (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)) [分布] 北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、台地・丘陵帯を中心に、低口る。 【生態】低地から山地にかけて広範囲に生息するが、低地や丘陵地で多く見られる。 【生態】低地から山地にかけて広範囲に生息するが、低地や丘陵地で多く見られる。 多考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉である。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉で表立。 ・香玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉で表立。 ・香玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉で表立。 ・海査において、対象事業実施区城外で9例、対象事業実施区城内で6例(6種記された。・確認環境は、広葉樹林、高茎草地、低菱草地及び人工構造物であった。 工事開係車両が本種の生息環境(草地、農耕地)の一部を施区域内の通行中両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹東で行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意であるらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外で連行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意であると想た。 「下されを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、計画的かつ効率的な正行管理に努める」等の措置を講じても過程のの影響を伝域する。以上のことから、本種の生息環境への影響を伝域する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことがら、本種の生息環境への影響を低減する。以上のことがら、本種の生息環境への影響を低減する。ととにより、出来る限り生息環境への影響に対っさいと予測地形の改変変は大きなり、土を種の生息環境への影響に対っさいと予測地形の改変変では施設の存在により、本種の生息環境への影響に破するととといまり、本種の主の影響によいと予測地形の変変では施設の方を含むまり、本種の主の環境に対象事業実施区域周辺な企業と、農耕地、第9.53 11.60 本種の主の環境での改整等に対して対象を含む縁に協所は対象で表により、大陽光パネルの設置値所下部を含むが表に関する。なお、大陽光パネルの設置値所が対ることにより、本種の生息環境への影響を低減である立とにより、本種の主の環境での設響はよいさいと予測地形の存在と、大場が出血性が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表	[全県] NT (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))  【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、台地・丘陵帯を中心に、低山帯から低る。 【生態】低地から山地にかけて広範囲に生息するが、低地や丘陵地で多く見られる。草地を好み、公園の緑地、木田の畦、人家の生け垣、畑地等、人為的な環境にも適応していべる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「決定版 日本の両生爬虫類」(2002年、平凡社) ・全調査において、対象事業実施区域外で9例、対象事業実施区域内で6例(改変区域内確認された、 企業樹林、高茎草地、低茎草地及び人工構造物であった。	[全県]取「梅玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))  【分布】北海道、本州、四国、九州、埼玉県では、台地・丘陵帯を中心は、低山帯から戦地帯まで広る。 「生態】低地から山地にかけて広範囲に生息するが、低地や丘陵地で多く見られる。革地等の目当たを好み、公園の緑地、木田の畦、人家の生け垣、畑地等、人為的な環境にも適応している。主に見を好み、公園の緑地、木田の畦、人家の生け垣、畑地等、人為的な環境にも適応している。主に見を考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「決定版 日本の両生院虫類」(2002年、平凡社) ・全調査において、対象事業実施区域外で9例、対象事業実施区域内で6例(改変区域内で5例)、確認されば、広葉樹林、高茎草地、低茎草地及び人工精造物であった。 ・確認る境位は、広葉樹林、高茎草地、低茎草地及び人工精造物であった。 「本事明係車両が木種の生息環境(草地、農耕地)の一部を通過する。このため、施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる。さらに、「建設を生土を原則場内で有効利用し、場外への選修車両を定域する。このはこれが表しまままままままままままままままままままままままままままままままままままま

# 表 8-1-4-82(3) 予測結果(爬虫類:ジムグリ)

	ジムグリ								
選定 状況	[全県、台地	・丘陵帯]NT1 [低山帯]NT2 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))							
一般生態	め、分布の 【生態】主た の穴によく 温の高い 参考文献:「	【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯から山地帯まで生息しているが、森林環境に依存するため、分布の中心は台地・丘陵帯から山地帯である。 【生態】主な生息地は森林であるが山地であればやや開けた場所や耕作地にも生息し、「地潜り」の名の通り地中の穴によく潜る。冷涼な環境を好み、餌資源をネズミ類に依存しているため、面積の広い森林が必要となる。気温の高い夏季は活動が鈍化し、春と秋は活発に活動する。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「決定版 日本の両生爬虫類」(2002年、平凡社)							
確認状況	合計2例か	・秋季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で1例、対象事業実施区域内で1例(改変区域内で1例)、合計2例が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林及び低茎草地であった。							
工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場がし、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置により、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。し爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、そのであると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的にう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講じることにより、出来生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられ、その影響をと、受け、である場合と考えられ、その影響をと、大変を表えられ、この影響をといると考えられる。しかし類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられる。しかし類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響をといると考えられる。しかし類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響をといると考えられ、その影響をといると考えられ、その影響をといると考えられる。しかし、対しては、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、									
予測結果	造成 の に よ 一 影響	エ び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐							
	世及施存 地及施存 地は作存び用 大パの廃 場ネ撤棄	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ 228.9 47.39 40.54 20.70 17.71							

### 表 8-1-4-82(4) 予測結果 (爬虫類:アオダイショウ)

種名	アオダ	イショウ									
選定				`							
状況	NT2(培	士県レッ	ドデータブック動物編 2018(第4版)	)							
一般生態確認	【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯から山地帯まで広く生息している。 【生態】低地から山地まで広く生息し、森林、水田、住宅地まで様々な環境に適応している。樹上性が強く、鳥類のヒナや卵、ネズミ類を好み、幼蛇はカエルやトカゲを餌とするため、これら餌資源が豊富な里山環境は生息適地といえる。昼行性で人家(特に木造家屋)にもよく棲みつき、人目にふれやすい種である。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) ・全調査において、対象事業実施区域外で3例が確認された。										
状況	・確認環境は、広葉樹林、高茎草地及び低茎草地であった。										
	工事の実施	工事用 資材等の 搬出入	の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り木種の生息環境への影響を低減する								
	<b>大旭</b>	建設機械の稼働に伴り騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかし 類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響 建設機械 ると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努め の稼働 かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じ り、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
予測結果		造成等 の施工 による 一時 影響	び改変区域外に本種の生息環境が存在 採等を行う場合、段階的に実施するご	生し、移動だ ことで周辺5 環境への影響	バ可能である 環境への動物 響を低減する	と想定され 1の移動を仮 。	<b>いる。さら</b> に	こ、「樹木の伐			
			地形の改変及び施設の存在により、 業計画の見直しにより、出来る限り生 境の改変率は下表のとおり、20.70%	生息環境への	り影響の回避	を図る。こ	の結果、本	・種の生息環			
		101. m/ = 1 = 1	生息環境	面積(ha)	改変面		改変				
		地形改変		шля (па)	当初計画	見直し後	当初計画	見直し後			
	土地	及び 施設の	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ 植林、草地、農耕地	228. 9	47. 39	40. 54	20.70	17. 71			
	工 又 工 作 物 及 び 供 用	存在	さらに、「フェンス等の設置範囲は 「太陽光パネルの設置箇所下部を含む とで緑地環境を維持する」等の措置を る。 以上のことから、本種の生息環境へ	つ緑化箇所に を講じること	は定期的に草 とにより、出	I刈りを実施 出来る限り本	直して適切に	ご管理するこ			
			太陽光パネル等の撤去・廃棄によりかしながら、工事の実施時以上の地別小さいこと、工事の実施時と同様の対よりも小さいと予測する。なお、太陽る緑化を行い、樹林植生の早期回復に	)、工事の 形の改変はる 環境保全措置 場光パネルの	実施時と同様 されないこと 置を講じるこ り撤去箇所は	な影響が生 、作業規模 とから、そ 、可能な阿	さが工事の第一の影響はコ この影響はコ 見り在来種の	医施時よりも 二事の実施時 の樹木等によ			
沙. 4	·自傳控	の五種盤の	すると予測する。 の数字は小数点第3位を四捨五入した(	はな記載し、	ているため	△⇒☆のも	古が合わわれ	√担 △ ぶ お フ			

### 表 8-1-4-82(5) 予測結果(爬虫類:シマヘビ)

種名	シマヘ	ビ								
選定状況	[全県]\	/U [低山 <sup>;</sup>	帯、台地・丘陵帯]EN(埼玉県レッドラ	データブック	ク動物編 20	018(第4版	))			
一般生態										
確認状況	合計	2 例が確認	関査において、対象事業実施区域外で 1 Bされた。 I葉樹林及び針葉樹林であった。	1 例、対象	事業実施区域	找内で1例	(改変区域内	7で1例)、		
	工事の実施	工事用 資材等の 搬出入	により、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。							
	<b>大</b> 旭		類に影響が生じるのは発生源が潜伏場ると想定される。さらに、「建設機械かつ効率的な工事計画を検討し、建設り、出来る限り本種の生息環境への景	半う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫は発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的面を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより生息環境への影響を低減する。 本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
予測結果		による	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及 で改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐 で発を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じる とにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
			地形の改変及び施設の存在により、 業計画の見直しにより、出来る限り生 境の改変率は下表のとおり、20.70%が	E息環境への	の影響の回避	を図る。こ	の結果、本	種の生息環		
		地形改変	生息環境	面積(ha)	改変面 当初計画	積(ha) 見直し後	改変 <sup>3</sup> 当初計画	率(%) 見直し後		
	土地	及び 施設の	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ 植林、草地、農耕地	228. 9	47. 39	40. 54	20.70	17. 71		
	又は 工作物 の存在 及び 供用	存在	さらに、「フェンス等の設置範囲は 「太陽光パネルの設置箇所下部を含む とで緑地環境を維持する」等の措置を る。 以上のことから、本種の生息環境へ	□緑化箇所に ・講じること ・の影響はん	は定期的に草とにより、出 とにより、出 いさいと予測	I刈りを実施 出来る限り本   する。	画して適切に ■種への影響	管理するこ 学を低減す		
		パネル等	太陽光パネル等の撤去・廃棄によりかしながら、工事の実施時以上の地所小さいこと、工事の実施時と同様の選よりも小さいと予測する。なお、太陽る緑化を行い、樹林植生の早期回復にすると予測する。	りの改変はる 環境保全措置 場光パネルの	されないこと 置を講じるこ D撤去箇所は	、作業規模 .とから、そ 、可能な限	さが工事の実 この影響はエ まり在来種の	施時よりも 事の実施時 )樹木等によ		
注·生	: 負環培(	 の面積笺σ	)数字は小数点第3位を四捨五入した(f	古を記載して	ていスため	会計築の値	すが合わたい	)提合がある		

### 表 8-1-4-82(6) 予測結果(爬虫類:ヤマカガシ)

種名	ヤマカ	ガシ									
選定状況			「1 [台地・丘陵帯]NT2 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))								
一般生態	【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯から山地帯まで広く生息している。分布の中心は水田や雑木林の多い台地・丘陵帯で、河川敷でもよくみかける。 【生態】低地から山地まで広く生息している。水田、河川敷、林地、畑地、湿地、池沼の周辺等、多様な環境でみられる。昼行性であり、採餌や日光浴等の活動は人目につきやすい。食性はカエル類をよく好み、大型のヒキガエルまでも餌にする。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)										
確認 状況			<ul><li>○ 、対象事業実施区域外で4例、対象事業実施区域内で1例、合計5例が確認された。</li><li>○ 工業樹林、低茎草地及び湿地・たまりであった。</li></ul>								
	工事の実施	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地)の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しない。う、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
	<b>六</b> 爬	建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しか 類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その景 建設機械 ると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努 の稼働 かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を請 り、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
予測 結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及 び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐 採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じる ことにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
			地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、20.70%から17.71%まで軽減される(6.85haの改変回避)。								
	土地	地形改変 及び 施設の	生息環境     面積(ha)     改変面積(ha)     改変率(%)       当初計画     見直し後     当初計画     見直し後       落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地     228.9     47.39     40.54     20.70     17.71								
	又は 工作物 の存在 及び 供用	存在	さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
			太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復								
沙 . 4	- 白四体	の五種学の	すると予測する。  数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。								

### 表 8-1-4-82(7) 予測結果 (爬虫類:ニホンマムシ)

種名	ニホン	マムシ									
選定状況	NT2(培	5玉県レッ	ドデータブック動物編 2018(第4版))								
一般生態	雑木 【生態」 でみ 活動	【分布北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯から山地帯まで広くに生息している。分布の中心は水田や雑木林等、多様な環境が存在する台地・丘陵帯で、河川敷でもよくみかける。 【生態】低地から山地まで広く生息し、森林とその周辺の水田、湿地、池沼、河川敷から人家近くまで多様な環境でみられる。餌はネズミやカエル類をはじめ、小型の脊椎動物を食べる。主に夜行性であるが、日光浴等、昼間活動することもあるため、身近な環境でもみられる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)									
確認状況			いて、対象事業実施区域外で1例が確認された。 工業樹林であった。								
	工事の	工事用 資材等の 搬出入	工事関係車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地)の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
		の稼働	建設機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、爬虫類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
予測結果			造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及 び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐 採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じる ことにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
			地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、20.70%から17.71%まで軽減される(6.85haの改変回避)。								
	土地	地形改変 及び 施設の	生息環境     面積(ha)     改変面積(ha)     改変率(%)       当初計画     見直し後     当初計画     見直し後       落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草地、農耕地     228.9     47.39     40.54     20.70     17.71								
	工 ス に な の 存 在 及 び 供用	存在	さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
		パネル等	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。								
注·壮	: 自 搢 倍.	- の両痔垒σ	D数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。								

#### 1) 両生類

重要な種の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-83 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。なお、重要な両生類として選定されていたアカガエル属の一種は、ニホンアカガエル及びヤマアカガエルの予測と同様とした。

重要な種6種の予測結果は、表8-1-4-84に示すとおりである。

表 8-1-4-83 環境影響要因の選定結果(両生類)

			環境影響要因			
		工事の実施		供用終了後の影響		
種名	工事用 資材等の 搬出入	建設機械 の稼働	造成等の施工 による 一時的な影響	地形改変 及び 施設の存在	太陽光 パネル等の 撤去・廃棄	
トウキョウサンショウウオ	0	0	0	0	0	
アズマヒキガエル	0	0	0	0	0	
ニホンアカガエル	0	0	0	0	0	
ヤマアカガエル	0	0	0	0	0	
トウキョウダルマガエル	0	0	0	0	0	
シュレーゲルアオガエル	0	0	0	0	0	

注:表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「一」は、影響はほとんどない又はないと考えられることから環境影響要因として選定しない項目である。

### 表 8-1-4-84(1) 予測結果(両生類:トウキョウサンショウウオ)

低山帯から台地・丘陵帯 月~4 月ごろ産卵する。 めったに人の目に触れる ご1 例 1 個体)が確認さ (改変区域内で1 例 1 卵									
月~4月ごろ産卵する。 めったに人の目に触れる ご1例1個体)が確認さ									
・確認環境は、細流、湿地・たまり及び水田であった。									
可生類に影響が生じるの さらに、「建設機械に 投機械の集中稼働を避け									
合、段階的に実施する があまり高くないことか で区域外に本種の生息環 立ち入りを制限し、作 或外の本種の生息環境へ 作環境はその多くが改変 弱水の流入が考えられる たのち、上澄み水を対 5 濁水の程度は、現況で									
当初の事業計画の見直 率は下表のとおり、 り1つと考えられる場所									
改変率(%) 初計画 見直し後 8.90 15.38 」、「側溝等を整備する より、出来る限り本種へ で利用されるものの、現 り生息環境の一部には、 きー旦貯留し、土粒子 この結果、地形の改変									
しかしながら、工事の									
を を に に に に に に に に に に に に に									

### 表 8-1-4-84(2) 予測結果(両生類:アズマヒキガエル)

種名	アズマヒ	キガエル						
選定状況	[全県]NT	1 [低山帯]	]NT2 [台地・丘陵帯]VU(埼玉県レッドデータフ	、ック動物線	扁 2018(第4月	饭))		
一般生態	【生態】 環境に 場所で	山地から平り 適応してい も確認され	州(近畿以東)。埼玉県では、亜高山帯から低地 地まで幅広く分布し、主に林床で生息している。 る。産卵は3月~5月頃に水深の浅い池沼等でお る。 ・ッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018	山地の樹林 こなわれ、	帯から都市公  長いひも状の!	園や人家近く	の緑地でも確	
確認状況	【成体・ 体)が 【幼生】 認され 【卵塊・	幼体(死骸含確認された。 対象事業実 た。 卵嚢】対象	以下のとおり確認された。 (む)】対象事業実施区域外で10例11個体及び多。 施区域外で5例多数、対象事業実施区域内で1例 事業実施区域外で2例1卵塊、対象事業実施区域 樹林、針葉樹林、開放水域(止水及び流水)、細	] 20 個体、	4 例多数(改変 1 卵塊(改変区	変区域内で1份 Ξ域内で1例1	列 20 個体、3 f 卵塊)が確認	列多数)が確
予結果	工事のの	工資搬 建の 造のに一影	資材運搬等の車両が本種の生息環境(落葉・過する。このため、対象事業実施区域内の通行限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場際には、十分減速の上、道路へ進入する動物へ等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の工事関係車両による搬出入が一時的に集中じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響は、以上のことから、本種の生息環境への影響は、強き機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行は発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えらい、長生機械の稼働に伴う騒音等により、忌避行は発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えらい、低騒音型の機械の使用に努める」、「る」等の古とから、本種の生息環境への影響は、造成等の施工により忌避行動が生じると考えらい、本種の生息環境への影響は、造成等の施工により忌避行動が生じると考えらい、本種の生息環境への影響は、造が広く存在することから、その影響は軽いできないが、方のの関体が逃避できない可能性がある。また、本種の幼生及び卵は移動ができないら、対が広く存在することから、その影響は極いできないが、造成等の施工に伴う濁水の流入もない。もれず、造成等の施工に伴う濁水の流入もない。もれず、造成等の施工に伴う濁水の流入もない。を事業実施区域外に放流する」等の措置を講じ発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は、	常事内のの壁えしの小動れ計本小ら置しあ置 の 導る 小緑両で注き行らな影さが、画種されをかるを の産きこ な寒走効の環が、よをとじのか生と。じな考じ 現環一の と樹行郊起境生そう低予る影つ息予こるがえる 地境貝結 予	林ル川をへじの、減測と響効環測のもららこ 調の守果 測、一日徹のる影計すす考は率境すたの、れと 査一日、 すいにないです。 はいれいのでは、 はいは、 はいはいいのでは、 はいはいは、 はいはいいのでは、 はいはいは、 はいはいいは、 はいはいはいは、 はいはいはいは、 はいはいはいは、 はいはいはいは、 はいはいはいは、 はいはいはいは、 はいはいはいは、 はいはいはいはい	ノ業のとしている。 大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、	放水域、域、域、域、域、域、域、域、域、域、域、域、域、域、域、域、域、域、域、	の分断をできるの事にできるの事ににいる。 という をできるの はいまれている という という という はいまれている という
注:生	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 地形の改変及び施設の存在により、本種の成体の生息環境の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。また、両生類の主要な産卵環境の1つと考えられる場所への影響が回避・低減される(図 8-1-4-21 参照)。  生息環境							

# 表 8-1-4-84(3) 予測結果(両生類:ニホンアカガエル)

話々	ーナンマ	カガテル									
種名 選定		カガエル	<u> </u>		à						
状況	[全県、1	台地・丘陵帯	JVU(埼玉県)	レッドデータ	ブック動物編	2018(第	4版))				
一般生態	【生態】 敷内の	丘陵地の雑た 湿地のようた	木林の林床、注 な不安定な環境	可川敷内の湿 竟にも適応す	・丘陵帯から( 地等に生息し、 るが、乾燥化 <sup>4</sup> 2018(第4版)	. 2月~4. や産卵場所	月頃湿田 の消失等	、湿地、浅い 等の生息環境の	池沼、小さな	水たまり等に	産卵する。河川
確認状況	【成幼卵・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ り が の か り り り り り り り り り り り り り り り り り り	幼体(死骸含 確認はなから 卵嚢】対象 境は、属の一利 調査において 対象 別類象 別類象 別類象 別類象 別類象 別類象 別類象 別類象 別類象 別類	った。 事業実施区域ダ ・たまりであ- 重の確認状況 て、以下のとこ を区域外で2년 事業実施区域ダ が確認された 樹林及び針葉様	業実施区域外 外で1例1卵 った。 おり確認され 列多数、1例 外で1例10月 こ。 歯林であった	で1例1個体z 塊が確認された た。 50個体、対象 P塊、1例2卵	を。 事業実施区 塊、対象項	区域内で 野業実施	区域内で1例	2 卵塊、1 例	1 卵塊(改変図	区域内で1例2
	資材運搬等の車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、開放水域、農耕地)の過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断に限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防傷の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響をのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の対していることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。										の分断をできる 「車両の運行の 然に防止する」 類に影響が生じ らに、「工事用 」等の措置を講
	工事の 実施	建設機械の稼働	一ついては、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な上事計画を検討し、建設機械の集甲稼働を避る」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。このため、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じるものの、本種の成体は移動能力があまり高くないことら、一部の個体が逃避できない可能性がある。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息境が広く存在することから、その影響は軽微であると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、代業員等による人為的圧力を最小限に留める」措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境の影響を低減する。また、本種の幼生及び卵は移動ができないものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその多くが改まれず、造成等の施工に伴う濁水の流入もない、産卵環境の一部には造成等の施工に生り濁水の流入が表えられ								、「建設機械に
予測結果		造成等 の施よ時 に一影響									高くないことかに本種の生息環)を制限し、作種の生息環境へ をの多くが改変 入が考えられる 上澄み水を対
			しにより、出 18.90%から 1	来る限り生息 5.38%まで軽減	見環境への影響	の回避を 7ha の改変	図る。こ 回避)。	の結果、本種	の生息環境の	改変率は下表	事業計画の見直 のとおり、 考えられる場所
				生息理	環境		面積		積(ha)		率(%)
		地形改変	落葉・堂4		スギ・ヒノキ村	直林	(ha) 189. 37	当初計画 35.78	見直し後 29.12	当初計画 18.90	見直し後 15.38
	土地は工作物を入び、世界の一般の一般の一般の一般の一般の一般の一般の一般の一般の一般の一般の一般の一般の	起形以及 及び 施設の 存在	さらに、「! 場合、落下し の影響を低減変 地調査によら 地調整池かに沈ら と が に い に い に い に い に い に い に い に い に い に	フェンス等の た動物が登り する。 及び施設の存 確認された本 水の流入がま させたのの する濁水の程 から、本種の	設置範囲は最/ 京・脱出可能な 子在により、本 本種の産卵環境 きえられる。こ 上澄み水を対 足度は、現況で ひ生息環境への	小限に留め 構造を一部 種の幼生が はその多い のため、「 象事実」 発生してい 影響は小	、可能な 部で採用 ひが残に 濁水に全 を を る と さ い と い と と と と と と と と り と り と り と り と り	は限り連続したする」等の措生息環境の一れる。一方、ついてはする」 以下になると 別する。と	に樹林を残存さ 置を講じるこ 部は、調整池 改変区域外の 水路にて調整消 等の措置を講 予測する。	させる」、「側溝 とにより、出 として利用さ 本種の生息環 也に導き一旦 じる。この結	書等を整備する 来る限り本種へ れるものの、現 境の一部には、 デ留し、土粒子 果、地形の改変
		太陽光 パネル等 の撤去・ 廃棄	実施時以上の 保全措置を講	地形の改変に じることから り在来種の梅	はされないこと っ、その影響は 対木等による緑	、作業規 工事の実	莫が工事 毎時より	の実施時より も小さいと予	も小さいこと 測する。なお	、工事の実施 、太陽光パネ	ながら、工事の 時と同様の環境 ルの撤去箇所 の生息環境は現
注・生	自環接の記	5種竿の粉字	けル粉占笠り	<b>位な皿換工</b> 1	した値を記載	コアハスラ	- h A	針竿の枯が今	わわい担合が	なる	

# 表 8-1-4-84(4) 予測結果 (両生類:ヤマアカガエル)

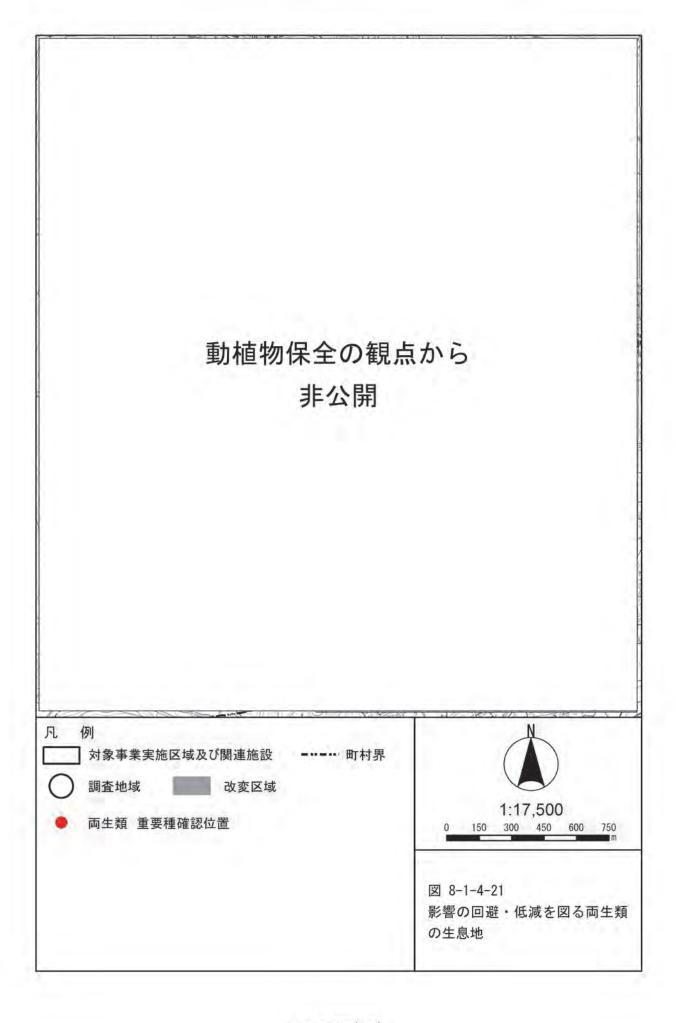
15 h	3	. 18		4 04 (4)	1/例帕木(四							
種名 選定	ヤマアカ	カエル										
状況	[全県・信	氐山帯]NT2	[台地・丘陵	带]NT1(埼玉!	県レッドデータブッ	ク動物編 2	2018(第4版))					
一般生態	【生態】 り、埼	丘陵地の人》 玉埼玉県で	マに近い里山 はだいたい2	から、山地の煮 月~4 月頃であ	也方、入間地方、比: 森林奥深くまで林床や bる。山林に隣接し7 2018(第4版)」(20	P渓流の周り に湿田、湿地	に生息してい 也、浅い池沼、	る。産卵期は	地域や標高等	によって差があ		
	・全調査において、以下のとおり確認された。											
	【成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で7例8個体、対象事業実施区域内で9例9個体(改変区域内で5例5個体)が確認された。											
	【幼生】対象事業実施区域外で1例2個体、対象事業実施区域内で1例8個体(改変区域内で1例8個体)が確認された。 【卵塊・卵嚢】確認はなかった。 ・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、低茎草地、開放水域(止水及び流水)及び湿地・たまりであった。											
確認												
状況			重の確認状況 て 以下のと		t-							
	【幼生】 【卵塊· 卵塊、	・早春季調査において、以下のとおり確認された。 【幼生】対象事業実施区域外で2例多数、1例50個体、対象事業実施区域内で2例多数(改変区域内で2例多数)が確認された。 【卵塊・卵嚢】対象事業実施区域外で1例10卵塊、1例2卵塊、対象事業実施区域内で1例2卵塊、1例1卵塊(改変区域内で1例2 卵塊、1例1卵塊)が確認された。 ・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。										
						常緑広葉樹	林、スギ・ヒ	ノキ植林、開	放水域、農耕	地) の一部を通		
		工事用 資材等の 搬出入	7年 1等の									
	工事の 実施				生息環境への影響は 音等により、忌避行			。しかしなが	ら、両生類に	影響が生じるの		
		建設機械の稼働	は発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機ついては、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働る」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。									
予測結果		造成等 の施工 のによ時 の に一 影響	ことで周辺の作業ののでは、一点になった。一点になった。 一点になった 一点に	環境への動物の 固体が逃避でき Eすることから る人為的圧力を 或する。 重の幼生及び卵 支等の施工に伴 水については、 区域外に放流す 3程度以下にな	行動が生じると考え 移動を促す」等の指 ない可能性がある。 、その影響は軽める」 最小限に留める」 推 は移動ができない ・ ・ ・ ・ ・ は移動がで流入もない ・ ・ 排水路にて調整池 ・ る」等の措置を講じると予測する。 ・ 生息環境への影響は	置を講じる しかしなが あると考え 置を講じる のの、現地境 。こ尊き一旦 。この結	ものの、本種 ら、対象事業 られる。さら ことにより、 調査により確 の一部には造 庁留し、土粒- 果、造成等の	の成体は移動 実施区域外及 に、「非改変域 出来る限り改 認された本種 成等の施工に 子を十分に沈属	能力があまり び改変区域外 成への立ち入り 変区域外の本 の産卵環境は より濁水の流 设させたのち、	高くないことかに本種の生息環を制限し、作種の生息環境へ その多くが改変 入が考えられる 上澄み水を対		
					在により、本種の成			失する。この	ため、当初の	事業計画の見直		
			18. 90%から	15.38%まで軽減	環境への影響の回避 域される(6.67ha のi る(図 8-1-4-21 参	收変回避)。						
				生息環	遺境	面積		i積(ha)	改変	, ,,,		
		排形み亦	<b>游</b>			(ha)	当初計画	見直し後	当初計画	見直し後		
	1.1%	地形改変 及び			スギ・ヒノキ植林	189. 37	35. 78	29. 12	18. 90	15. 38		
	土地 又工作物 の存び 及供用	施設の存在	場合、落下しる。 整響を低級 地形のより 地調整池から という はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた いっこう はいまた いっこう はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた	した動物が登坂 支する。 変及び施設の存 の確認された本 聞水の流入が考 なさせたのち、 くする濁水の程	受置範囲は最小限に・脱出可能な構造を ・脱出可能な構造を 在により、本種の好種の産卵環境はその えられる。このため 上澄み水を対象事業 度は、現況で発生し 生息環境への影響は	一部で採用 ウ生及び卵の 多くが残さ 、「濁水にな 実施区域外 ている程度	する」等の措 生息環境の一 れる。一方、 ついては、排 に放流する」 以下になると	置を講じるこ 部は、調整池 改変区域外の k路にて調整消 等の措置を講	とにより、出 として利用さ 本種の生息環 也に導き一旦則	来る限り本種へれるものの、現境の一部には、 で留し、土粒子		
		太陽光			廃棄により、工事の			-	-			
		パネル等			:されないこと、作業 、その影響は工事の			_				
		の撤去・ 廃棄	は、可能な別		木等による緑化を行							
汝. 4	自母培の記	5種竿の粉字	け小粉占笠。	位を開始する	した値を記載してい	スため △	計築の値が今	わない担合が	なる			

### 表 8-1-4-84(5) 予測結果(両生類:トウキョウダルマガエル)

種夕	トウキ	ョウダルマ	アガエル							
			※表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)							
		VT1 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))								
一般生態	【分布】本州(東北の太平洋側(岩手県・宮城県・福島県)、関東地方、新潟県と長野県の一部)。埼玉県では、低山帯から低地帯にまで広く分布しているが、分布の中心は低地帯に広がる水田である。 【生態】丘陵地から平地の水田と、周辺の水路や浅い池沼、河川敷の湿地等に生息し、水辺からほとんど離れない。産卵は水田の湛水期である5月~7月頃におこなわれ、産卵場所は水田にほぼ依存している。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)									
確認状況	【成体 【幼生】 【卵塊	・幼体(死体)   確認はな ・卵嚢】確	いて、以下のとおり確認された。 骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 なかった。 値認はなかった。 く田であった。							
		工事用 資材等の 搬出入	工事関係車両が本種の生息環境(農耕地)周辺を通過しないことから、移動経路の遮断・阻害、騒音等の影響はほとんどないと予測する。							
	工事の 実施	建設機械 の稼働	建設機械の稼働に伴う騒音等により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、本種の 生息環境は改変区域内には存在せず離れていることから、本種の生息環境への影響はほとんど ないと予測する。							
予測結果		による 一時的な	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、本種の成体の生息環境 は改変区域内には存在せず離れていることから、本種の生息環境への影響はほとんどないと予 測する。 改変区域外の本種の幼生及び卵の生息環境には濁水の流入は想定されないことから、本種の 幼生及び卵の生息環境への影響はないと予測する。							
	十抽	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の成体の生息環境は改変されないこと、本種の幼生 及び卵の生息環境には濁水の流入は想定されないことから、本種の生息環境への影響はないと 予測する。							
	の存在及び供用		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去後は本種への影響はないと予測する。							

### 表 8-1-4-84(6) 予測結果(両生類:シュレーゲルアオガエル)

種名	シュレー	ゲルアオガ	エル							
選定状況	NT2(埼玉	E県 レッドテ	ータブック動物編 2018(第4版))							
1)L		本州、四国、	九州。埼玉県では、低山帯から低地帯にまで広	く分布して	いるが、分布の	の中心は谷戸	田が散在する	台地・丘陵帯で		
一般生態	産む。	主たる産卵	竣地にかけて雑木林等に生息している。3月~5ヶ場所である水田と雑木林等の生息地双方の場所が ッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018	必要であり	、里山環境に			こ泡状の卵塊を		
確認状況	【成体・ された 【幼生】 【卵塊・	早春季及び春季調査において、以下のとおり確認された。 成体・幼体(死骸含む)】対象事業実施区域外で4例6個体、対象事業実施区域内で6例13個体(改変区域内で5例11個体)が確認された。 幼生】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された。 卵塊・卵嚢】対象事業実施区域外で9例1卵塊、対象事業実施区域内で4例1卵塊、1例2卵塊(改変区域内で3例1卵塊、1例2卵塊)が確認された。								
			と。 樹林、高茎草地、低茎草地、開放水域(止水)、泡	显地・たま	り及び水田でる	あった。				
		資材運搬等の車両が本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、開放水域、農耕地)の一部を通過する。このため、対象事業実施区域内の通行車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。さらに、「建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講ずることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。工事関係車両の走行に伴う騒音等により、忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、両生類に影響が生じるのは発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響を低減する。								
	工事の実施	建設機械の稼働	は発生源が潜伏場所の近くにある場合と考えられ、その影響は限定的であると想定される。さらに、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。							
予測結果		造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。このため、「樹木の伐採等を行う場合、段階的ことで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じるものの、本種の成体は移動能力があまり高くら、一部の個体が逃避できない可能性がある。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本境が広く存在することから、その影響は軽微であると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを境が広く存在することから、その影響は軽微であると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを機関等を低減する。」と、本種の幼生及び卵は移動ができないものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその影響を低減する。また、本種の幼生及び卵は移動ができないものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその影響を低減する。また、本種の幼生及び卵は移動ができないものの、現地調査により確認された本種の産卵環境はその影響を低減する。この、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上に象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。								
			地形の改変及び施設の存在により、本種の成しにより、出来る限り生息環境への影響の回避 18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改への影響が回避・低減される(図 8-1-4-21 参照	を図る。こ 変回避)。	の結果、本種の	の生息環境のは	<b>火変率は下表</b> の	のとおり、		
			生息環境	面積	改変面		改変			
		地形改変	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	(ha) 189. 37	当初計画 35.78	見直し後 29.12	当初計画 18.90	見直し後 15.38		
	土地 又は 工作物 の存在 及び 供用	及が設の存在	さらに、「フェンス等の設置範囲は最小限に留場合、落下した動物が登坂・脱出可能な構造をの影響を低減する。 地形の改変及び施設の存在により、本種の幼児地調査により確認された本種の産卵環境はその認整池から濁水の流入が考えられる。このため、を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業等により流入する濁水の程度は、現況で発生し、以上のことから、本種の生息環境への影響は	め、可能な 一部で採用 主及び卵の 多くが残なに 「濁水は域外 実施区程度	は限り連続したする」等の措施 生息環境の一部である。一方である。 いては、排水に放流する」	樹林を残存さ 置を講じるこ。 部は、調整池。 改変区域外の2 路にて調整池 等の措置を講	せる」、「側溝とにより、出きとして利用された種の生息環場に導き一旦貯	算等を整備する 来る限り本種へ れるものの、現 竟の一部には、 記し、土粒子		
		太陽光 パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の第 実施時以上の地形の改変はされないこと、作業 保全措置を講じることから、その影響は工事の第 は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い 況程度まで回復すると予測する。	規模が工事 実施時より	の実施時より* も小さいと予?	も小さいこと、 則する。なお、	工事の実施 太陽光パネル	時と同様の環境 ルの撤去箇所		
注・生	息環境の前	<b>新精築の数字</b>	・ は小数点第3位を四捨五入した値を記載している。	ろため. 合	計等の値が合え	わない場合がる	<b>ある</b> 。			



#### オ) 昆虫類

重要な昆虫類の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-85 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。環境影響要因として選定しなかった理由は、表 8-1-4-86 に示すとおりである。

重要な種33種の予測結果は、表8-1-4-87に示すとおりである。

表 8-1-4-85 環境影響要因の選定結果(昆虫類)

			環境影響要因		
		工事の実施	7117077 [17(17	供用終了	後の影響
種名	工事用 資材等の 搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工 による 一時的な影響	地形改変 及び 施設の存在	太陽光 パネル等の 撤去・廃棄
サラサヤンマ	_	_	0	0	0
ヤマサナエ	_	_	0	0	0
ハラビロトンボ	_	_	0	0	0
ヒメツユムシ	_	_	0	0	0
ササキリモドキ	_	_	0	0	0
ヒガシキリギリス	_	_	0	0	0
ヒサゴクサキリ	_	_	0	0	0
ナキイナゴ	_	_	0	0	0
ヒナバッタ	_	_	0	0	0
アオフキバッタ	_	_	0	0	0
ハネナガイナゴ	_	_	0	0	0
ハルゼミ	_	_	0	0	0
キスシ゛ハネヒ゛ロウンカ	_	_	0	0	0
オオアメンボ	_	_	0	0	0
ヒメトケ゛ヘリカメムシ	_	_	0	0	0
アス゛キヘリカメムシ	_	_	0	0	0
キハ゛ネツノトンホ゛	_	_	0	0	0
ヒトツメアオコ゛ミムシ	_	_	0	0	0
ケシゲンゴロウ	_	_	0	0	0
コガムシ	_	_	0	0	0
ゲンジボタル	_	_	0	0	0
ヘイケボタル	_	_	0	0	0
トウキョウムネヒ゛ロオオキノコムシ	_	_	0	0	0
モンスズメバチ	_	_	0	0	0
アシホ゛ソミケハラフ゛トハナアフ゛	_		0	0	0
コバントビケラ	_	_	0	0	0
ミヤマセセリ	_	_	0	0	0
キ゛ンイチモンシ゛セセリ	_	_	0	0	0
ウラコ゛マタ゛ラシシ゛ミ	_		0	0	0
クモカ゛タヒョウモン	_		0	0	0
アサマイチモンシ゛	_	_	0	0	0
ミスジチョウ	_	_	0	0	0
オオムラサキ	_	- - - -	0		0

注:表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「一」は、影響はほとんどない又はないと考えられることから環境影響要因として選定しない項目である。

表 8-1-4-86 環境影響要因として選定しなかった理由(昆虫類)

選定しなかった環境影響要因	理由
工事用資材等の搬出入	工事用車両の搬出入に伴う影響として、騒音・振動による生息環境の悪化及び移動経路の遮断・阻害が考えられる。一方、騒音・振動については、既存文献によれば「哺乳類・鳥類等の大型動物では影響が認められるが、小動物の場合、特記するほどの影響はないと考えられる」とされている。また、移動経路の遮断・阻害については、昆虫類で特に重要な影響として、走光性昆虫が車のヘッドライトや夜間照明に多く誘引されることによるロードキルの発生が考えられるが、本事業において夜間工事は実施しないことから、その影響はほとんどないと考えられる。さらに、他の環境影響評価事例においても当該要因は選定されていないこと、工事用資材等の搬出入においては、「工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める」、「車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する」等の措置を講じることから、影響はほとんどないと考えられたため、環境影響要因として選定しなかった。
建設機械の稼働	建設機械の稼働に伴う影響として、騒音・振動による生息環境の悪化及び移動経路の遮断・阻害が考えられる。一方、騒音・振動については、既存文献によれば「哺乳類・鳥類等の大型動物では影響が認められるが、小動物の場合、特記するほどの影響はないと考えられる」とされている。さらに、他の環境影響評価事例においても当該要因は選定されていないこと、建設機械の稼働においては、「建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める」、「計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける」等の措置を講じることから、影響はほとんどないと考えられたため、環境影響要因として選定しなかった。

注:参考文献:「自然環境アセスメント指針」(1990年、朝倉書店)

「第1回 道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会 議事録」

(北海道空知総合振興局ホームページ)

#### 表 8-1-4-87(1) 予測結果(昆虫類:サラサヤンマ)

種名	サラサー	ヤンマ							
選定	「全県、	台地・日	陵帯]NT2(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))						
状況 一般 生態	【分布】 がら見 【生まり サート 本考文 を考文	【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、分布の中心は台地・丘陵帯で、低地帯にもわずかながら産地が残されている。 【生態】樹林に囲まれた平地〜丘陵地の低湿地に生息する。幼虫は落ち葉等に覆われた湿った地面の窪みの水たまりで、水面近くに重なっている落ち葉の間にはりつくように潜んでいる。産卵は湿地の縁に近い茂みの下のササ等の枯れ葉が堆積した湿った土やコケの間、半ば腐った柔らかい倒木等に行う。未熟個体はやや薄暗い樹林に移って生活する。 参考文献:「原色 日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」(1999 年、北海道大学図書刊行会) 「ネイチャーガイド 日本のトンボ」(2012 年、文一総合出版)							
確認 状況	【成虫 個体)	(死骸含む)	>て、以下のとおり確認された。 )】対象事業実施区域外で1例1個体、対象事業実施区域内で1例1個体(改変区域内で1例1 ≤れた。 <x td="" 黄樹林であった。<=""></x>						
		工事用 資材等の 搬出入	_						
	工事の実施	建設機械 の稼働							
予測		造成等の施工による一時のお影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及 び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐 採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じる ことにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難 であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が 存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への 立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることによ り、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
結果	土又工の及供地は作存び用	の撤去・	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。  生息環境						

### 表 8-1-4-87(2) 予測結果(昆虫類:ヤマサナエ)

種々	ヤマサ	ナエ	及 0 1 1 07 (Z)						
選完									
状況	NT2(培	<b>予玉県レッ</b>	ドデータブック動物編 2018(第4版))						
一般生態	- 1 光積物がある増やエとみで砂泥甲に焦く巻ったり 植物性光積物の下に質れて生法している 未製間体は無大し								
		<u>版. 原色</u> 類調査】	日本トン 小幼虫・灰虫八因嫗」(1999)	上、 4日4年7	巨八子囚音!!	111111			
	_		って、以下のとおり確認された。						
確認			<ul><li>】対象事業実施区域内で1例1個体が確</li></ul>	認された	-				
			葉樹林であった。		•				
	【底生	動物調査】							
	・早春	季及び夏季	調査において、対象事業実施区域外の開	放水域で	: 27 個体が確	催認された。			
		工事用 資材等の 搬出入							
	工事の	建設機械 の稼働	_						
	実施	の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生じる び改変区域外に本種の生息環境が存在し 採等を行う場合、段階的に実施すること ことにより、出来る限り本種の生息環境 本種の幼虫の生息環境(開放水域:流 えられる。このため、「濁水については、 沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実 造成等の施工により流入する濁水の程度 以上のことから、本種の生息環境への	、移動が で周辺環 への影響 水)の一 排水路 施区域外 は、現況	可能である 境への動物を低減する。 部には、造いには、造いには、造いに放流する。 こて調整池にた放流する	と想定され の移動を促 。 成等の施工 ご導き一旦! 」等の措置 いる程度り	る。さらに とす」等の措 により濁水 貯留し、土料 せを講じる。	、「樹木の伐 置を講じる の流入が考 立子を十分に この結果、	
予測			地形の改変及び施設の存在により、本	種の成虫	の生息環境	(落葉・常	禄広葉樹林	、スギ・ヒ	
結果			ノキ植林)の一部が消失する。このため						
			境への影響の回避を図る。この結果、本		、環境の改変	率は下表の	)とおり、18	3.90%から	
			15.38%まで軽減される(6.67ha の改変回						
			生息環境	面積	改変面和		改変		
		地形改変	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	(ha) 189. 37	当初計画 35.78	見直し後 29.12	当初計画 18.90	見直し後 15.38	
	土地 又は 工作物	13 1-1-	さらに、「低反射型太陽光パネルを採用による局地的な温度の上昇や光害等の影限り本種への影響を低減する。	用するこ	とや周辺に縁	最地を配置~	することに。	より、反射光	
	の存在		改変区域外の本種の生息環境の一部に	は、調整	※池から濁水	の流入が考	えられる。	このため、	
	及び		「濁水については、排水路にて調整池に					-	
	供用		澄み水を対象事業実施区域外に放流する					変等により	
							00		
							: ドスレ老ぅ	られる 1	
		太陽光						-	
			小さいこと、工事の実施時と同様の環境						
			よりも小さいと予測する。なお、太陽光						
			る緑化を行い、樹林植生の早期回復に努	めること	により、本	種の生息環	境は現況程	:度まで回復	
)4- n	白细环		すると予測する。	÷1.±\\\\\	-1、マエ ロ	<b>∧</b> ⇒1 kk ~	±.2> ∧ 1 1	(加入 パチョ	
) <del>)</del>	工作物の存在及び供用	太陽光パネル等の撤去・廃棄	改変区域外の本種の生息環境の一部に「濁水については、排水路にて調整池に 澄み水を対象事業実施区域外に放流する 流入する濁水の程度は、現況で発生して 以上のことから、本種の生息環境への 太陽光パネル等の撤去・廃棄により、 かしながら、工事の実施時以上の地形の 小さいこと、工事の実施時と同様の環境 よりも小さいと予測する。なお、太陽光 る緑化を行い、樹林植生の早期回復に努	導き一旦 」等の推 いる程度 影響は小 工事の実 改変は は 保全措置 かること	貯留を講なりでである。 一覧をはいいではいいででである。 一覧をはいいででできるができますが、 ではないではできますが、 ではないできまが、 ではないではないできまが、 ではないできまが、 ではないではないできまが、 ではないできまが、 ではないできまが、 ではないできまが、 ではないできまが、 ではないできまが、 ではないではないできまが、 ではないではないできまが、 ではないできまが、 ではないできまが、 ではないできまが、 ではないではないできまが、 ではないできまが、 ではないできまが、 ではないできまが、 ではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	粒子を十分ます。とするとする影響業にいる。というのというでは、というのとは、ないのとは、ないののとは、ないののとは、ないののののでは、これののののでは、これののののでは、これのでは	に沈殿させた。地形の改会、地形の改会、地形の改会を考えまが工事のようの影響は正のと考えまない。	たのち、より られより 心 心 心 に に に に に に に に に に に に に	

### 表 8-1-4-87(3) 予測結果(昆虫類:ハラビロトンボ)

種名	ハラビ	ロトンボ						
選定 状況	[全県、	台地・丘	陵帯]NT2(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))					
一般生態	【分布】北海道(南部)、本州、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、低地帯から低山帯にかけて分布は広い。 【生態】主に平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する腐食栄養型の沼沢地や湿地に生息する。休耕田でもみられる。幼田は斑水植物の根際や、植物性は積物の下等に隠れたり柔らかい泥の中に浅く洗ったりして生活する。未熟個							
確認状況	【成虫 13 個	(死骸含む) 体) が確認	)】対象事業実施区域外で 6 例 28 個体、対象事業実施区域内で 5 例 13 個体(改変区域内で 5 例					
	4年 中心 5	工事用 資材等の 搬出入						
	工事の 実施	の稼働						
		造成等 の施工 に一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:止水、水田)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
予測 結果			地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、86.73%存在することから、本種の生息環境は広く残される。					
	又は 工作物 の存在 及び	地形改変 及び 施設の 存在	生息環境 面積(ha) 改変面積(ha) 改変率(%) 開放水域:止水、水田 3.39 0.45 13.27 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
	供用	太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。					

#### 表 8-1-4-87(4) 予測結果(昆虫類:ヒメツユムシ)

種名	ヒメツ	ユムシ				•		1		
選定			And the state of t							
状況	NT1(培	士県レッ	ドデータブック動物編 2018(第4版))							
一般生態										
確認状況	- 1 1 by H (水水) 4 1 1 2 2 2 3 4 4 5 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1									
		工事用 資材等の 搬出入	_							
		建設機械 の稼働	_							
予測結果	工事の実施	造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じると び改変区域外に本種の生息環境が存在し、 採等を行う場合、段階的に実施することで ことにより、出来る限り本種の生息環境へ であると考えられる。しかしながら、対象 存在することから、その範囲で幼虫の生息 立ち入りを制限し、作業員等による人為的 下部を含む造成箇所について、地域の生態 める」等の措置を講じることにより、出来 する。 以上のことから、本種の生息環境への影	移周の事が圧系る動災響実持を配り	可能である。 環境の動物のででである。 で低減する。 施区域外及ででである。 たれると考え 最小限に関係したと関係でである。 は、これである。 は、これである。 は、これである。 は、これである。 は、これである。 は、これである。 は、これである。 は、これである。 は、これである。 は、これである。 は、これである。 は、これでは、これである。 は、これでは、これである。 は、これでは、これでは、これである。 は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	と想かの と想か と 想象 一次 で と の で で で で で ら る 」、 で で の る 、 な に 本 種 の と な に 本 種 の と か と か と か と か と か と か と か と か と か と	る。 さらに す」等の 種の かな かな がな がな がな がな がな がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい	、「樹木の伐 置を講じる 逃避が困難 生息環域への 設置置が 財回復に努		
			地形の改変及び施設の存在により、本種 失する。このため、当初の事業計画の見直し この結果、本種の生息環境の改変率は下表 の改変回避)。	により	)、出来る限り、26.93%か	の生息環境いら 25.36%	への影響の まで軽減さ	回避を図る。 れる (2.05ha		
		地形改変	生息環境	面積	改変面積		改変型			
	土地	及び 施設の		(ha) 30. 44	当初計画 35.13	見直し後 33.08	当初計画 26.93	見直し後 25.36		
	工 ス 工 作 物 の 及 び 供用	存在	さらに、「低反射型太陽光パネルを採用でよる局地的な温度の上昇や光害等の影響緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切講じることにより、出来る限り本種への影以上のことから、本種の生息環境への影	するこ。 を抑制 に管理 響を低	とや周辺に緑  する」、「太    することで紅  減する。	地を配置で 湯光パネル 禄地環境を	することに 』 の設置箇所	、 り、反射光 下部を含む		
		の撤去・	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工 しながら、工事の実施時以上の地形の改変 いこと、工事の実施時と同様の環境保全措 小さいと予測する。なお、太陽光パネルの 行い、樹林植生の早期回復に努めることに する。	はされ 置を講 散去箇	ないこと、作 じることから 所は、可能な	業規模が っ、その影響 限り在来程	工事の実施問	きよりも小さ 実施時よりも こよる緑化を		
注· 出	:自帶倍/	の而積空の	) 数字は小数点第3位を四捨五入した値を記		「いろため	合計等の値	が合わない	堪合がある		

### 表 8-1-4-87(5) 予測結果(昆虫類:ササキリモドキ)

毛力	11.11.1-	ロナ トナ	及 0 1 4 07 (J)	-,,,,,		,		
湿定		リモドキ						
	NT1(培	玉県レッ	ドデータブック動物編 2018(第4版))					
7100	【分布】	本州、四	国、九州。埼玉県では、主に台地・丘陵	帯、低山:	帯の広葉樹木	木の林縁や	クズ群落等に	こ生息してい
一般	る。							
生態			<b>見るい林縁の低木や草地に生息する。夜行</b>				<b>ミ</b> する。	
	参考文	献:「埼玉」	県レッドデータブック動物編 2018(第 4	版)」(2	018 年、埼크	5県)		
確認			って、以下のとおり確認された。					
状況			)】対象事業実施区域内で1例1個体(ご	て変区域 内	7で1例1個	体)が確認	尽された。	
	• 確認	環境は、四	<b>工葉樹林であった。</b>					
		<b>工</b> 本 田						
		工事用 資材等の						
		製出入						
		J/IX LLI / C						
		建設機械						
		の稼働	_					
	工事の		造成等の施工により忌避行動が生じる	と考えら	れる。しか	しながら、	対象事業実	施区域外及
	実施		び改変区域外に本種の生息環境が存在し					· ·
			採等を行う場合、段階的に実施すること	で周辺環	環境への動物	の移動を促	2す」等の措	置を講じる
		造成等	ことにより、出来る限り本種の生息環境					
		の施工	であると考えられる。しかしながら、対					
			存在することから、その範囲で幼虫の生					
		一時的な 影響	立ち入りを制限し、作業員等による人為					
		<b>永</b> 晉	下部を含む造成箇所について、地域の生める」等の措置を講じることにより、出					
→ 20ml			する。	1/1 0 12 /	50000000000000000000000000000000000000	*ン/十八王*ノユ	-1000K90 V2	70 E C 101/00
予測 結果			以上のことから、本種の生息環境への	影響は小	、さいと予測	する。		
加入			地形の改変及び施設の存在により、本					
			失する。このため、当初の事業計画の見画					-
			この結果、本種の生息環境の改変率は下 の改変回避)。	表のとお	9、27.04%	から 25.64%	まで軽減さ	れる (1.94ha
				1			1	
		地形改変	生息環境	面積 (ha)	改変面		改変	
		及び				見直し後	当初計画	見直し後
	土地	施設の	草地	137. 64	37. 22	35. 29	27. 04	25. 64
	又は 工作物	存在	さらに、「低反射型太陽光パネルを採	用するこ	とや周辺に約	录地を配置	することに。	より、反射光
	の存在		による局地的な温度の上昇や光害等の影	, –	,		,	
	及び		緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適	i切に管理	里することで	緑地環境を	維持する」	等の措置を
	供用		講じることにより、出来る限り本種への					
			以上のことから、本種の生息環境への				ع سار از سر د - سار از سر د	
		-L78 V	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、					-
		太陽光パネル等	しながら、工事の実施時以上の地形の改いこと、工事の実施時と同様の環境保全					
			いこと、工事の美施時と同様の環境休室 小さいと予測する。なお、太陽光パネル					
			行い、樹林植生の早期回復に努めること					
			する。	/ <b>\</b> ′	:			
注:生	息環境	の面積等の	) 数字は小数点第3位を四捨五入した値を	・記載して	ているため、	合計等の値	すが合わない	場合がある。

### 表 8-1-4-87(6) 予測結果(昆虫類:ヒガシキリギリス)

種名	ヒガシ	キリギリス	ζ						
選定				8 2 THE		11=>>			
状況	[全県]	WI1 L低口	」帯、台地・丘陵帯]NT2(埼玉県レッドデータフ	プック動物編	2018(第 4)	放))			
一般生態									
確認状況									
		工事用 資材等の 搬出入	_						
		建設機械 の稼働	_						
予測結果	実施	造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じると考え び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動 採等を行う場合、段階的に実施することで周辺 ことにより、出来る限り本種の生息環境への累 であると考えられる。しかしながら、対象事事 存在することから、その範囲で幼虫の生息が終 立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力 下部を含む造成箇所について、地域の生態系に める」等の措置を講じることにより、出来る限 する。 以上のことから、本種の生息環境への影響に	が可能である 環境への動物 と響を低減外及 実施区域外及 時さ最小限と で で で で で で で の で の が で の が で の が で の が り で の が り で の が り の り の り の り に り に り り に り り の り の り の	と想定されのの のではいる。 の改らのではいる。 となる。 となる。 となる。 はなる。 はない。 とれている。 はない。 はない。 とれている。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない	いる。さらに とす」等のは を を が な外に本種の ないなでいる で は ないなでいる に は は ないなでいる に は ないなでいる に は は な に に に に に に に に に に に に に	、「樹木の伐 置を講じる 逃避が困難 生息環域への お設置している。 が が が で が が が が が が が が が が り の 設 の 設 の の の の の の の の の の の の の の の		
	土地は 大型工の 大工の 大工の 大工の 大工の 大工の 大工の 大工の 大	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生ため、当初の事業計画の見直しにより、出来る本種の生息環境の改変率は下表のとおり、29. 避)。  生息環境  草地、農耕地  さらに、「低反射型太陽光パネルを採用するによる局地的な温度の上昇や光害等の影響をお緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管講じることにより、出来る限り本種への影響を以上のことから、本種の生息環境への影響に太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の	息環境(草地、 原り生息環境 36%から 28.919 改変面を 当初計画 3 11.60 ことや周辺に終 がは大でで で低減することで で低減いと予測 実施時と同様の	農耕地) への影響の まで軽減さ 直し後 11.43 計・43 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	回避を図るされる (0.18 改変 <sup>3</sup> 当初計画 29.36 することによ の設置箇所 と維持する」 じると考え	。この結果、 Bha の改変回 <sup>を(%)</sup> 見直し後 28.91 より、反射光 下部を含む 等の措置を		
<b>注,</b> 件	- 自 缙   连	の撤去・ 廃棄	しながら、工事の実施時以上の地形の改変はさいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去行い、樹林植生の早期回復に努めることによりする。 ②数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載	講じることかり 箇所は、可能な 、本種の生息球	ら、その影 は限り在来 環境は現況	響は工事の写 種の樹木等に 程度まで回復	に施時よりもこよる緑化を 复すると予測		

# 表 8-1-4-87(7) 予測結果(昆虫類:ヒサゴクサキリ)

種名	ヒサゴ	クサキリ							
强定			11 12 万元 万元 五元 4元 (17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 1						
状況	[[全県]I	ル(埼玉児	トレッドデータブック動物編 2018(第 4 版))						
一般生態									
確認状況									
		工事用 資材等の 搬出入							
		建設機械の稼働							
予測結果	工事の実施	造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
		太陽光パネル等	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(アズマネザサ群落、竹林)の一部が消失する。本種の生息環境は当初の事業計画の見直しによって回避は図られないものの、その改変率は下表のとおり、24.39%と小さい。また、アズマネザサは各植物群落の低木層や草本層にも広く分布していることから、本種の生息環境は広く残される。  生息環境 面積(ha) 改変面積(ha) 改変率(%) アズマネザサ群落、竹林 5.74 1.40 24.39  さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。また、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を						
)\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	白细块		行うが、本種の生息環境は創出されないと想定されることから、本種の生息環境は地形の改変及び施設の存在時と同様になると予測する。 )数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。						

### 表 8-1-4-87(8) 予測結果(昆虫類:ナキイナゴ)

ナキイフ	,			1
			`	
[全県・	佐川帯 JN	WT1 [台地・丘陵帯]WU(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))	)	
くで <i>[</i> 【生態】	生息環境へ   日当たり	への圧迫が見られる。 りのよい、乾燥した草地に生息する。ススキのような丈の高い草の群落を好		也帯区分の多
【成虫(	(死骸含む)	p)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区域内で1例1個体)が確認さ	られた。	
	資材等の	) —		
	建設機械 の稼働	₹ _		
工事の実施	造成等 の施工 による	び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される 採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す ことにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種 であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外 存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さ 立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽 下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、 める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息 する。	。。さらに 「」等の描 ばの幼稚種の らに、「 り も に れ い れ い れ に れ い れ れ に れ れ い れ れ い れ れ い れ い	、「樹木の伐 置を講じる 逃避が困難 生息環境が は改変域への の設置箇所 期回復に努
土 又 工 の 及 供 用	地及施存 太パの と 大パの と 大水の と と と と から と から と から と から ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(草地)の一部が消初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る息環境の改変率は下表のとおり、41.42%から 40.78%まで軽減される(0.18 生息環境 面積 改変面積(ha) 当初計画 見直し後 第 中華 28.01 11.60 11.43 本種の生息環境の改変率はやや大きいものの、対象事業実施区域内の草により出現しており、そこでの確認個体は工事後に周辺環境から侵入してとから、元々の本種の生息環境は対象事業実施区域周辺にも存在すると考さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置するによる局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」、「太陽光パネルの緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事により、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響に小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種のから、では、大阪では、大阪では、大阪では、大阪では、大阪では、大阪では、大阪では、大	。この結 8ha の 改画 41.42 当初14.42 当地たらと置す 考実事本 をのより を変しています。 はあるよう はあるよう はあるよう にきるのは はあるよう にいる。 はい。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はい。 はいる。 はい。 はいる。 はいる。 はいる。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	果、本種の生 (%) 見直し後 40.78 の定。 い部の では、 いのでは、 いのでは、 いのでは、 いのでは、 いのでは、 いのでは、 いのでは、 いのでは、 いのでは、 いのでは、 いのでは、 いのでは、 いった。 いった。 いった。 いった。 いった。 いった。 いった。 いった。
	【参・【・ 工実 土又工の及供 く生考 春成確 事施 地は作存び用 の 物在	T実	【生態】日当たりのよい、乾燥した草地に生息する。ススキのような丈の高い草の群落を好参考文献:「日本産直翅類標準図鑑」(2016 年、学研プラス) ・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区域内で1例1個体)が確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区域内で1例1個体)が確認されて。 「遊成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、太保等を行う場合、段階的に実施することを周辺環境への動物の移動を促すったあると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外をですった。とによる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外をですった。とから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。とから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。というなら、対象事業を関すたとは、対したながら、対象事業を実施区域外及び改変区域が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。というなら、対象事業を実施区域外及び改変区域が存在することがら、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。というなのを制度し、作業負等により、組来る限り改変区域外ので変化が変を回ります。以上のことから、本種の生息環境への影響の回避を図る。以上のことから、本種の生息環境への影響の回避を図る思境の改変率は下変のとおり、41、42%から 40、78%まで軽減される (0.1 世界の改変を変が施設の存在により、土壌の影を重視が全の影響の回避を図る思境の改変率は下変のとおり、41、42%から 40、78%まで軽減される (0.1 世界の文を変が上で軽減される (0.1 世界の文を変が上で軽減される (0.1 世界の文を変が上で軽減される (0.1 世界の文を変が上で軽減される(0.1 世界の文を変が上で軽減される(0.1 世界の文を変が上で軽減される(0.1 世界の文を変が上で軽減される(0.1 世界の文を変が上で軽減が上で軽減が上で軽減が上で軽減が上で変が上では、11、14、14、14、14、14、15、14、14、14、15、15、14、14、14、15、15、14、15、15、15、15、15、15、15、15、15、15、15、15、15、	【生態】目当たりのよい、乾燥した草地に生息する。ススキのような丈の高い草の群落を好む。参考文献:「日本産産遺類振讐和図鑑」(2016年、学研プラス) ・ 奉季調査において、以下のとおり確認された。 ・ 確認環境は、低茎草地であった。  工事用

# 表 8-1-4-87(9) 予測結果(昆虫類:ヒナバッタ)

	ヒナバ	ッタ							
選定	「夕間。	任山井JN	T1(埼玉県レッドデータブック動物編 2	010(営	4 뉴트//				
状況	上土乐	心口用。 心口用	11(埼玉県レット)―タノック動物編 2	010(新台	± //X//				
一般生態	【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、県北部に偏った分布域を持ち、造成地や河川敷の乾燥した低茎草地で多く見られるが、南部で局地的。 【生能】日当たりのよい草地に生息する。乾燥した裸地に近い低茎草地を好わが、より発達した草地でも生息して								
確認状況	【成虫	(死骸含む)	ヽて、以下のとおり確認された。 )】対象事業実施区域外で1例1個体が確 5茎草地であった。	認された	÷.				
		工事用 資材等の 搬出入	_						
		建設機械 の稼働	_						
予測	工事の実施	造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じる び改変区域外に本種の生息環境が存在し 採等を行う場合、段階的に実施すること ことにより、出来る限り本種の生息環境 であると考えられる。しかしながら、対 存在することから、その範囲で幼虫の生 立ち入りを制限し、作業員等による人為 下部を含む造成箇所について、地域の生 める」等の措置を講じることにより、出 する。 以上のことから、本種の生息環境への	、でへ象息的環想の事が思います。 象息的 野業維力 に飛い こうれい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっ	ぶ可能での動物の 環境へ減する。 関係ででででででいまする。 関係ではないででできた。 関係ではないでででできる。 ではないできる。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	と想のできるとと思いませんである。できるのできる。これではいいできる。これでは、これで生のできる。ないとなった。	る。す」のないでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、まままでは、まままでは、まままでは、まままでは、まままでは、まままが、まままでは、まままが、まままが	、「樹木の伐 置逃 書 選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 で 設 で で で で で で で で で で で で で	
結果	土又工の及供地は作存び用	地形び 放設在 陽ネネ 大パの 巻・	地形の改変及び施設の存在により、本初の事業計画の見直しにより、出来る限息環境の改変率は下表のとおり、41.42% 生息環境 草地 本種の生息環境の改変率はやや大きいにより出現しており、そこでの確認個体とから、元々の本種の生息環境は対象事さらに、「低反射型太陽光パネルを採用による局地的な温度の上昇や光害等の影縁化箇所は定期的に草刈りを実施して適講じることにより、出来る限り本種への以上のことから、本種の生息環境への大陽光パネル等の撤去・廃棄により、大陽光パネル等の撤去・廃棄により、しながら、工事の実施時と同様の環境保全対いさいと予測する。なお、太陽光パネルの行い、樹林植生の早期回復に努めることにあり、本種の生息環境への大場光パネル等の撤去・廃棄により、こながら、工事の実施時と同様の環境保全対かさいと予測する。なお、太陽光パネルの行い、樹林植生の早期回復に努めることに	重りか (28.01) をは業計響切影影に変措のの生ら 面(ba.01) の工実すをに響響すのさを払いるでは置数のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	環境(草地) 環境への影響減 78%まで変画 当11.60 対象周周周」、 対象周周周」、こると同と、 がにないるは、 がにないるは、 がにないるは、 がにないるは、 がにないるは、 がにないるは、 がにないるは、 がにないるは、 がにないるは、 がにないるは、 がにないるは、 がにないるは、 がにないる。 がにないるは、 がにないる。 がにない。 がにないる。 がにないる。 がにないる。 がにないる。 がにないる。 がにないる。 がにないる。 がにないる。 がにない。 がにないる。 がにないる。 がにないる。 がにない。 がに、 がにない。 がに、 がに、 がに、 がに、 がに、 がに、 がに、 がに、 がに、 がに、	の一部が図の 回避れる (0. 長11.43 施1	る。この結 18ha の改変 当初計画 41. 42 草地きえこ置する はたれと簡る はあるよ である。 世本きえこ間である。 世本されと簡の は本される。 世本される。 世本される。 世本される。 は本される。 は本される。 は本される。 は本される。 は本される。 は本される。 は本される。 は本である。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	果、本種の生 整回避)。 見し後 40.78 の定。 り部の である の定。 の定。 り部の である もより による しいり のより である にいり にいり にいり にいり にいり にいり にいり にいり	
			する。						
注· 4	:息環境(	の面積等の	) 数字は小数点第3位を四捨五入した値を	記載して	ていろため	合計等の値	が合わたい	場合がある	

### 表 8-1-4-87(10) 予測結果(昆虫類:アオフキバッタ)

種名	アオフ	キバッタ						
選定			・丘陵帯]NT2(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))					
状況	[王県][	(1 [	・丘陵帝JN12(埼玉県レットアータノック 動物編 2018(弟 4 版))					
一般生態	1. 生能,唯日期70万世就基本经过生自主人。 7.多方或女相/0.416亿度过用人10倍度多压力。 工厂自当多几份自1799.							
確認状況								
		工事用 資材等の 搬出入						
		建設機械 の稼働	_					
予測結果	工事の実施	造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
	土又工の及供地は作存び用	地形改変 及び 施設の 存在 太陽光	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、草地)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、26.93%から25.36%まで軽減される(2.05haの改変回避)。					
<b>注</b> . #	: 自帶控	パネル等 の撤去・ 廃棄	いこと、工事の実施時以上の起形の収象はされないこと、作業成候が工事の実施時よりもいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。  ②数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。					

### 表 8-1-4-87(11) 予測結果(昆虫類:ハネナガイナゴ)

秳々	ハウナ	ガイナゴ	24 - 1 - 2 - (1 - 2)   7   7   7   7   7   7   7   7   7						
選定									
状況	[全県]!	VT1 [台地	也・丘陵帯]NT2(埼玉県レッドデータブッ	・ク動物線	扁 2018(第 ·	4版))			
一般生態	【分布】本州(北限は秋田県・岩手県南部)、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、古くは各地に広く分布していたものが1960年ごろを境に急速に減少した。近年になり各地で生息地及び生息個体数が増加している状況である。								
確認状況									
		工事用 資材等の 搬出入	_						
		建設機械 の稼働	_						
予測	工事の実施	造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じる び改変区域外に本種の生息環境が存在し 採等を行う場合、段階的に実施すること ことにより、出来る限り本種の生息環境 であると考えられる。しかしながら、対 存在することから、その範囲で幼虫の生 立ち入りを制限し、作業員等による人為 下部を含む造成箇所について、地域の生 める」等の措置を講じることにより、出 する。 以上のことから、本種の生息環境への	、移動かりでの事業は 急い での ままま かい での ままま かい にい かい	でである物である物での動する人間での動する (本) では (本) では (本) できる	と想定されの移動を のの一次では と想動を とのでない。 といるのでは といるでは といるでは といるでも といる とっと といるでも といるでも といるでも といるでも といるでも といるでも といるでも といるでも といるでも とっと と と と と と と と と と と と と と と と と と	る。さらに 全す」等の措 種の幼虫は な外に本種の さらに、「ほ に陽光ペネル 、植生の早	、「樹木の伐 置を講じる 逃避が困難 生息環境が †改変域への の設置箇所 期回復に努	
			地形の改変及び施設の存在により、本ため、当初の事業計画の見直しにより、本種の生息環境の改変率は下表のとおり避)。	出来る限	見り生息環境	への影響の はまで軽減さ	回避を図る	。この結果、 Bha の改変回	
		及び	生息環境	(ha)	当初計画	見直し後	当初計画	見直し後	
	土地	施設の	草地、農耕地	39. 53	11.60	11. 43	29. 36	28. 91	
	又は 工作物 の存在 及び 供用	存在	さらに、「低反射型太陽光パネルを採りによる局地的な温度の上昇や光害等の影緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適講じることにより、出来る限り本種への以上のことから、本種の生息環境への	響を抑制 切に管理 影響を促	する」、「太   することで  {減する。	陽光パネル 緑地環境を	の設置箇所	下部を含む	
注.#	:自得控	の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、しながら、工事の実施時以上の地形の改いこと、工事の実施時と同様の環境保全・小さいと予測する。なお、太陽光パネル行い、樹林植生の早期回復に努めることする。	変はされ 措置を講 の撤去箇 により、	ないこと、作じることから所は、可能な本種の生息野	作業規模が ら、その影響 は限り在来 環境は現況	工事の実施印響は工事の第 種の樹木等は 程度まで回行	寺よりも小さ 実施時よりも こよる緑化を 复すると予測	
注:生	息環境	の面積等の	)数字は小数点第3位を四捨五入した値を	記載して	ているため、	合計等の値	直が合わない	場合がある。	

# 表 8-1-4-87(12) 予測結果(昆虫類:ハルゼミ)

種名	ハルゼ	3.							
選定	NT1 (培	玉県レッ	ドデータブック動物編 2018(第 4 版))						
状況									
一般生態	・1 では最も見く思想する。 会唱性があるか樹上の梢にいて園眼での確認は難しい。 粉抹の外に思ることはたく局し								
~4.3T	<ul><li>春季</li></ul>	調査におい	って、以下のとおり確認された。						
確認状況			】対象事業実施区域外で2例2個体が確認された。 棄樹林及び針葉樹林であった。						
		工事用 資材等の 搬出入							
		建設機械 の稼働							
予測結果	工事の実施	造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
		地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(アカマツ亜高木、アカマツ植林)の一部が消失する。本種の生息環境は当初の事業計画の見直しによって回避は図られないものの、その改変率は下表のとおり、16.38%と小さく、本種の生息環境は広く残される。  生息環境 面積(ha) 改変面積(ha) 改変率(%) アカマツ亜高木、アカマツ植林 0.78 0.13 16.38  さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。						
) <u>}</u>	及び供用	の撤去・ 廃棄	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。また、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行うが、本種の生息環境は創出されないと想定されることから、本種の生息環境は地形の改変及び施設の存在時と同様になると予測する。 数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。						

### 表 8-1-4-87(13) 予測結果(昆虫類:キズジハネビロウンカ)

秳夕	キマジ	ハネビロロ	シンカ	-						
選定	イ キスジハネビロウンカ									
状況	NT1(培	玉県レッ	ドデータブック動物編 2018(第4版))							
一般生態	【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、台地・丘陵帯から山地にかけて生息が確認されている。 【生態】山地に生息するが寄主植物等、詳しい生態は不明である。成虫は7月から10月にかけて現れる。林縁の 植物に見ることもあるが、個体変度は低い、植物体に静止する個体上りむしる灯水に飛来した木種の縄察例の									
確認	・夏季調査において、以下のとおり確認された。 「成内(死駄会な)」対象事業実施区域内で1個1個体が確認された (ラストトラップ)									
状況			7 バダザ朱突旭区域 パイド 内下 個体が開 5茎草地であった。		_ (//11/1	7 7 7 7 10				
		工事用 資材等の 搬出入	_							
		建設機械 の稼働	_							
予測	工事の実施	造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じるび改変区域外に本種の生息環境が存在し採等を行う場合、段階的に実施することことにより、出来る限り本種の生息環境であると考えられる。しかしながら、文存在することから、その範囲で幼虫の生立ち入りを制限し、作業員等による人為下部を含む造成箇所について、地域の生める」等の措置を講じることにより、出する。 以上のことから、本種の生息環境への	、移動が環 での事業 急が 急が は り に り に い の に の り に の り に の り に り り り り り に り り に り に	可能である 関境への動物 厚を低減する 医施区域外及 受けされる限に 基 一歳 と は の で の の の の の の の の の の の の の の の の の	と想定され の移動を促 。一方、本 び改変区域 えられる。 がある」、「太 がなし、「太 がなれを行い の本種の生	る。さらに す」等のは 種の幼年種の さらに、「す 、 といれれ といれ は といれ に は り は り は り は り は り は り は り は り は り れ に し に し れ い れ い れ い れ い れ れ い れ れ い れ 、 れ れ れ 、 れ れ れ れ	、「樹木の伐 置を講じる 逃避球困難 生息変域への 設置置で 期回復に努		
結果			地形の改変及び施設の存在により、本草地)の一部が消失する。このため、当影響の回避を図る。この結果、本種の生で軽減される(6.55haの改変回避)。	種の生息 初の事業 息環境の	環境 (落葉 計画の見直	・常緑広葉村 しにより、I 表のとおり	出来る限り生	<b>上息環境への</b> ら 18.65%ま		
		地形改変	生息環境	面積 (ha)	当初計画	惧(na) 見直し後	当初計画	見直し後		
	土地 又は	及び 施設の 存在	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒ/キ植林、草 地	217. 39	47. 39	40. 54	21. 80	18. 65		
	工作物 の存在 及び 供用	17 14	さらに、「低反射型太陽光パネルを採 による局地的な温度の上昇や光害等の 緑化箇所は定期的に草刈りを実施して 講じることにより、出来る限り本種への 以上のことから、本種の生息環境への	響を抑制 切に管理 影響を但 影響は小	川する」、「太 閏することで €減する。 いさいと予測	:陽光パネル :緑地環境を  する。	の設置箇所 維持する」	下部を含む等の措置を		
			太陽光パネル等の撤去・廃棄により、							
		太陽光	しながら、工事の実施時以上の地形の改							
			いこと、工事の実施時と同様の環境保全 小さいと予測する。なお、太陽光パネル							
			行い、樹林植生の早期回復に努めること する。							
注 · 生	: 負價倍/	 カ面積笔σ	^ ~。  数字は小数点第3位を四捨五入した値を	- 記載して	ていろため	合計等の値	が合わたい	場合がある		

## 表 8-1-4-87(14) 予測結果(昆虫類:オオアメンボ)

種名	オオア	メンボ						
選定	NT9 (塔	玉単レッ	ドデータブック動物編 2018(第 4 版))					
状況								
	【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、大宮台地から低山帯にかけて広く分布するが低標高地の生息地は少な							
一般	. 0	い。 【生態】池沼等の止水域や河川の緩流に生息し、日陰となる水面を好む。生息環境として、直射日光が当たらない						
生態		は面の存在が重要である。						
	参考文	献:「埼玉」	県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県)					
		頃調査】						
			査において、以下のとおり確認された。					
確認			)】対象事業実施区域外で4例13個体及び多数、対象事業実施区域内で4例13個体及び多数(改 13個体及び多数)が確認された。					
状況			別が水域(止水及び流水)であった。					
		動物調査】	10011 of (111100 o pill) (100 - 120					
	・夏季	調査におい	って、対象事業実施区域外の開放水域で5個体が確認された。					
		~ <del> </del>						
		工事用 資材等の						
		搬出入						
	工事の	建設機械 の稼働						
	実施							
		造成等	本種の生息環境(開放水域、水田)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられ					
		の施工	る。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿さ					
		による一時的な	せたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等 の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。					
		影響	以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
→ 20m		AV E	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。し					
予測 結果			かしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、63.57%存在する。さらに、これ以外に					
WI /			面積として示していない飯田川等の開放水域(流水)が広く存在し、本種の発生も対象事業実					
		地形改変	施区域外で確認されていることから、本種の生息環境は広く残される。					
		地が以及	生息環境 面積(ha) 改変面積(ha) 改変率(%)					
	土地	施設の	開放水域 1.25 0.45 36.43					
	又は	存在	改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、					
	工作物		「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上					
	の存在		澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。					
	及び 供用		以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
	וויאו		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。し					
		太陽光	かしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも					
			小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時					
			よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による。					
		廃棄	る緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現 況程度になると予測する。					
)->- 4L	. 白 四 坛		优性度になると『側りる。    数字は小数占筆3位を加換五入」を値を記載しているため、会計等の値が合わたい場合がある。					

## 表 8-1-4-87(15) 予測結果(昆虫類:ヒメトゲへリカメムシ)

ヒメト	ゲヘリカメ	(ムシ					
NT1 (块		ビデータブック動物類 2010(第 4 円))					
【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、平地から山地帯にかけての地表や雑草間根際に生息環境をもつ。 【生態】海岸から山地まで生息範囲は広い。比較的乾燥した草原の地表や雑草間の根際等の環境を好む習性がある。分布範囲は広いが個体密度は決して高くなく、ヘリカメムシ科の中でも採集例は少ないと種と言える。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)							
【成虫	(死骸含む)	)】対象事業実施区域内で1例1個体(改	変区域区	内で1例1個個	体)が確認	された。	
	工事用 資材等の 搬出入	_					
	建設機械 の稼働	_					
工事の実施	造成等 の施工 による	び改変区域外に本種の生息環境が存在し 採等を行う場合、段階的に実施すること ことにより、出来る限り本種の生息環境 であると考えられる。しかしながら、対 存在することから、その範囲で幼虫の生 立ち入りを制限し、作業員等による人為 下部を含む造成箇所について、地域の生 める」等の措置を講じることにより、出 する。	、でへ象息的態来動の影響は大きの事が圧系る限を変える。	び可能である。 環境への動物の 響を低減する。 尾施区域外及で 時されると考さ と最小限に留め と最いた早期料の は変区域外の	と想定され の移動大変を が改らないで でいる。 でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	る。」ないないないないないないないないないないないないないないないではいいないないないな	、「樹木の伐 置を講じる 逃避が困難 生息環境が は改変域への の設置箇所 期回復に努
土又工の及供地は作存び用	地及施存とは、大パの廃るでは、大パの廃るでは、ののののでは、大学のののでは、大学のでは、	地形の改変及び施設の存在により、本初の事業計画の見直しにより、出来る限息環境の改変率は下表のとおり、41.42% 生息環境 草地 本種の生息環境の改変率はやや大きいにより出現しており、そこでの確認個体とから、元々の本種の生息環境は対象事さらに、「低反射型太陽光パネルを採用による局地的な温度の上昇や光害等の影縁化箇所は定期的に草刈りを実施して適講じることにより、出来る限り本種の生息環境への以上のことから、本種の生息環境への以上のことから、本種の生息環境への以上のことから、本種の生息環境への以上のことがら、工事の東施時以上の地形の改変いこと、工事の実施時と同様の環境保全対かさいと予測する。なお、太陽光パネルの行い、樹林植生の早期回復に努めることに	種りか	環境(草地) 環境へのでででである。 でででである。 当初1.60 対象周周周」、このででである。 当初1.60 対象周周周」、このとのでである。 対象のででである。 対象のでである。 対象のでである。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 が	の一部が の回避を図った。 同回避を図った。 見直しる (0. 見直し後 11.43 を 11.	る。この 18ha の 改画 当初計42 単 1. 42 単 2. 3 本 3 本 3 本 3 本 3 本 3 本 3 本 3 本	果、本種の生 (%) 見直し後 40.78 の他され、反含置 のいまれ、反含置 のいまれ、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない
	NT 【【 参 ・【・ 土又工の及1 分生る考 春成確 事施 地は作存び地は作存びの 本典認 の おおお か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま	NT1 (	【生態】海岸から山地まで生息範囲は広い。比較的乾燥しる。分布範囲は広いが個体密度は決して高くなく、ペリ参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域内で1例1個体(改・確認環境は、低茎草地であった。  工事の 接破	NT1 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))   日本   2018(第4版)   日本   2018(第4 K)   2018(14)   1018(14)   1018(14)   1018(14)   1018(14)   1018(14)   1018(14)   1018(14)   1018(14)   1018(14)   1018(14)   1018(1	TT (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))	Time	YT1 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))   【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、平地から山地帯にかけての地表や雑草間板際に生息を含る。分布範囲は広いが個体密度は決して高くなく、ヘリカメムシ科の中でも採集例は少ないと程と参考文献: 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)] (2018年、埼玉県)   ・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(外核含む)】対象事業実施区域内で1例1個体)が確認された。 ・確認環境は、低茎草地であった。

## 表 8-1-4-87(16) 予測結果(昆虫類:アズキヘリカメムシ)

種名	アズキ・	ヘリカメム	シ		<u> </u>		
强定							
状況	NII(項	玉県レツ	ドデータブック動物編 2018(第4版))				
一般生態							
			て、以下のとおり確認された。				
確認			)】対象事業実施区域内で1例1個体(改	変区域	内で1例1個体)が	<b>催認された。</b>	
状況		┃確認はな	「茎草地であった。				
	中田中山	ROLLAN III	1至平地(め)た。				
		工事用 資材等の 搬出入	_				
		建設機械の稼働	_				
予測	工事の実施	造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じる び改変区域外に本種の生息環境が存在し 採等を行う場合、段階的に実施すること ことにより、出来る限り本種の生息環境 であると考えられる。しかしながら、対 存在することから、その範囲で幼虫の生 立ち入りを制限し、作業員等による人為 下部を含む造成箇所について、地域の生 める」等の措置を講じることにより、出 する。 以上のことから、本種の生息環境への	、でへ象息的態来動が環響まれる。	3可能であると想定。 環境への動物の移動を 響を低減する。一方、 尾施区域外及び改変し 持されると考えられる と最小限に留める」、 己慮した早期緑化を行 の改変区域外の本種の	される。さらに を促す」等の措 本種の幼虫は 区域外に本種の る。さらに、「す 「太陽光パネル 行い、植生の早	、「樹木の伐 置を講じる 逃避が困難 生息環域への で設置で 期回復に努
			地形の改変及び施設の存在により、本ため、当初の事業計画の見直しにより、本種の生息環境の改変率は下表のとおり避)。	出来る隙	艮り生息環境への影響	響の回避を図る	。この結果、
		地形改変	生息環境	面積	改変面積(ha)	改変	
	I tit.	及び		(ha)	当初計画 見直し		
		施設の	草地、農耕地	39. 53	11. 60 11. 43		28. 91
	又は 工作物	存在	さらに、「低反射型太陽光パネルを採用				
	の存在		による局地的な温度の上昇や光害等の影響ル第三は大力を				
	及び		緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適講じることにより、出来る限り本種への			見ど維持する」	寺の疳直を
	供用						
			太陽光パネル等の撤去・廃棄により、			生じると考え	られる。しか
		太陽光	しながら、工事の実施時以上の地形の改				
		パネル等	いこと、工事の実施時と同様の環境保全				
			小さいと予測する。なお、太陽光パネルの				
			行い、樹林植生の早期回復に努めること	こより、	本種の生息環境は現	況程度まで回行	复すると予測
No. 11	白细块		する。 )数字は小数点第3位を四捨五入した値を	- 1 (4)	ているため   △到倅	7.はぶ合わわい	4日 △ ぶぇ ァ

### 表 8-1-4-87(17) 予測結果(昆虫類: キバネツノトンボ)

禾夕	キバマ	ツノトンボ						
湿定								
状況	CR (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))							
一般生態	【分布】本州、九州。埼玉県では、熊谷市、深谷市、上里町、滑川町、鳩山町、長瀞町、秩父市、小鹿野町で記録がある。 【生態】県内における自然状態での主な生息環境は大きく 2 つに分けられる。一つは「河川沿いの河原及びその周辺部の背の低い草地」で、もう一つは「森林内が土砂崩れ等で崩壊し、一時的に生じた背の低い草地~ススキ							
	原」である。成虫は5~6月に発生する。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)							
確認状況	<ul><li>春季</li><li>【成虫</li></ul>	調査におい (死骸含む)	いて、以下のとおり確認された。 )】対象事業実施区域内で2例4個体(改 所茎草地であった。			忍された。		
		工事用 資材等の 搬出入	_					
		建設機械 の稼働	_					
予測	工事の実施	造成等 の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在することから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。					
<b>予結果</b>	土又工の及供地は作存び用	地形び 放設 を で で で で で で で で で で で で が が が が が が が が が が が が が	以上のことから、本種の生息環境への地形の改変及び施設の存在により、本初の事業計画の見直しにより、出来る限息環境の改変率は下表のとおり、41.42%生息環境 草地 本種の生息環境の改変率はやや大きいにより出現しており、そこでの確認個体とから、元々の本種の生息環境は水を採りによる局地的な温度の上昇や光害等の影緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適講じることにより、出来る限り本種への以上のことから、本種の生息環境への大陽光パネル等の撤去・廃棄により、しながら、工事の実施時以上の地形の改善ないと、工事の実施時と同様の環境保全対さいと予測する。なお、太陽光パネルで行い、樹林植生の早期回復に努めることにする。	種りか 28.01 もは業目響切影影工変帯の生息 4 積) の工実すをに響響事は置撤生息 4 積) の事施る抑管をはのさを去していまれ講箇	環境(草地)の一部が 境への影響の回避を図 78%まで軽減される(の 改変面積(ha) 当初計画 見直し後 11.60 11.43 対象事業実施区域内の 後に周辺にも存在する。 とや周辺に緑地を配置 引する」、「太陽光パネパ とすることで緑地環境を 気減する。 、さいと予測する。 施時と同様な影響が生ないこと、作業規模が にることから、その影 所は、可能な限り在来	A		

## 表 8-1-4-87(18) 予測結果(昆虫類:ヒトツメアオゴミムシ)

ヒトツメアオゴミムシ  NT (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)					
[全県、台地・丘陵帯]NT2 (埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))					
【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、古くは旧浦和市(現さいたま市)、寄居町、皆野町で記録され、嵐山町、美里町、鳩山町と現在でも記録がある。 【生態】丘陵地〜低山帯の森林内の開けた林床、裸地、畑等に生息する。特に水路が近い桑畑等の環境を好む。主に夜行性で地表面を素早く走り回り、越冬は崖の土中で行われる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「レッドデータブックあいち 2020」(愛知県ホームページ)					
<b>いた。</b>					
事業実施区域外及 さらに、「樹木の伐 等の措置を講じる か幼虫は逃避が困難 本種の生息環境が に、「非改変域への せを講じることによ					
スギ・ヒノキ植林、 来る限り生息環境へ 18.00%から 14.65%					
改変率(%) 初計画 見直し後					
8.00 14.65					
ことにより、反射光 とにより、出来る					
と考えられる。しかの実施時よりも小さ 工事の実施時よりも 樹木等による緑化を まで回復すると予測					
1   初 8.   こ   との工樹					

### 表 8-1-4-87(19) 予測結果(昆虫類:ケシゲンゴロウ)

L > . 18.						
		A LONG LOLD STORY AND A LONG LONG LONG LONG LONG LONG LONG LONG				
		終表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)				
	(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))					
【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、低山帯から台地・丘陵帯にかけて古い記録が見られ、かつては比較的広範囲に分布していたものと考えられる。 【生態】止水性であり、低山帯から低地帯までの水生植物の豊富な湖沼やため池、水田、休耕田、湿地等に生息する。特に浅瀬で多く、水田や休耕田等では個体数も多い。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)						
<ul><li>夏季</li></ul>	調査におい	いて、以下のとおり確認された。				
【成虫	(死骸含む)	)】対象事業実施区域内で1例1個体(改変区域内で1例1個体)が確認された(ライトトラッ				
	環境は、高	N 本草地であった。				
r parte y	100000	12 13 13 13				
	工事用 資材等の 搬出入					
工事の 実施	の稼働 造成等 の施工 による 一時的な					
		本種の生息環境(開放水域:止水、水田)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
		地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、86.73%存在することから、本種の生息環境は広く残される。				
	地形改変	生息環境 面積(ha) 改変面積(ha) 改変率(%)				
	及び	開放水域:止水、水田 3.39 0.45 13.27				
又は 工作物 の存在 及び	施設の 存在	改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
供用	パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。				
	NT EN	EN(分か生る考夏成プ確 ・【・・ 工実				

## 表 8-1-4-87(20) 予測結果(昆虫類:コガムシ)

種名	コガムシ				
選定 状況	DD(環均	竟省報道発	表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)		
一般生態	【分布】北海道、本州、四国、九州。 【生態】止水性でため池、水田、湿地等に生息し、不安定な水域に突発的に出現する。繁殖は水田で行われ、6月~7月頃には多数の幼虫が見られる。7月中旬頃には新成虫が出現し、成虫は灯火にも飛来する。 参考文献:「愛媛県レッドデータブック 2014」(愛媛県ホームページ)				
確認状況	【成虫( プ)。	(死骸含む)	いて、以下のとおり確認された。 別 対象事業実施区域内で1例1個体(改変区域内で1例1個体)が確認された(ライトトラッ G茎草地であった。		
		工事用 資材等の 搬出入			
	工事の 実施	建設機械 の稼働			
		造成等 の施工 による 一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:止水、水田)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に 沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、 造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。		
予測 結果		は 存在 C作物 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、86.73%存在することから、本種の生息環境は広く残される。		
	土地 は 大 大 大 で 大 の 及 供 用		生息環境 面積(ha) 改変面積(ha) 改変率(%) 開放水域:止水、水田 3.39 0.45 13.27 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。		
		パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。		

# 表 8-1-4-87(21) 予測結果(昆虫類:ゲンジボタル)

種名	ゲンジオ	ドタル						
選定 状況	VU(埼王	E県レッド	データブック動物編 2018(第 4 版))					
一般生態	市) や 【生態】 中旬に はほと る。	【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、県内各所に数えきれないほどの記録があり、昔は旧大宮市(現さいたま市)や川越市にも生息していたようである。 【生態】山地帯から低地帯にかけて、河川や水田の用水路等の流水環境周辺に生息し、成虫は5月下旬から7月中旬にかけて出現するが地域ごとの発生期間は比較的短期で、夜間に水路周辺を発光しながら飛翔する。メスはほとんど動かず、水辺でじっとしている。幼虫は流水中に生息し、カワニナやタニシ等の水生巻貝類を捕食する。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)						
確認状況	【昆虫類調査】 ・夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で17例73個体が確認された。							
	; ;	工事用 資材等の 搬出入 建設機械						
予測結果	実施	の稼働 造成等 の施工 による	本種の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
	土地	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
	及び 供用	パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。					

## 表 8-1-4-87(22) 予測結果(昆虫類: ヘイケボタル)

種名	ヘイケ	ボタル					
選定	NT1 (45	まま 目 レム	ドデータブック動物編 2018(第 4 版))				
状況	NII (म्	「玉泉レツ	トノータノック 劉初柵 2016 (男 4 版))				
一般生態							
	【昆虫类	類調査】					
	・夏季	調査におい	って、以下のとおり確認された。				
確認			】対象事業実施区域外で12例90個体が確認された。				
状況			芝草地、開放水域(流水)及び耕作地であった。				
	_	動物調査】	リンプ 社会事業事状には別の間サルゼス1個は必然を設された				
	• 早春	学調宜によ	いて、対象事業実施区域外の開放水域で1個体が確認された。				
		工事用 資材等の 搬出入					
	工事の 実施	建設機械 の稼働					
		造成等	本種の生息環境(開放水域、水田)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられ				
		の施工	る。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿さ				
		による	せたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等				
		一時的な 影響	の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
予測結果		地形改変	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用される。しかしながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、86.73%存在する。さらに、これ以外に面積として示していない飯田川等の開放水域(流水)が広く存在し、本種の発生も対象事業実施区域外で確認されていることから、本種の生息環境は広く残される。				
		及び	生息環境     面積(ha)     改変面積(ha)     改変率(%)       開放水域、水田     3.39     0.45     13.27				
		施設の					
	又はエルサ	存在	改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上				
	工作物の存在		「個水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、工利士を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により				
	及び		流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。				
	供用		以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
	N 37 14		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。し				
		1/247 -	かしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも				
			小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時				
		の撤去・よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹					
		廃棄	る緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現 況程度になると予測する。				
<u></u>		L	DZT工人(でする) C   1 内 7 つ。				

## 表 8-1-4-87(23) 予測結果(昆虫類:トウキョウムネビロオオキノコムシ)

種名	トウキ	ョウムネヒ	゛ロオオキノコムシ					
選定					10 (な 1 吐))			
状況	[ 全県、	台地・丘	凌帯]NT1(埼玉県レッドデータブック動物	勿編 20	18(第4版)			
一般生態	- 1【生態】性川豊かに性地帯にかけて 州川林約畑は小管内に係る略貫樹林筆に生目し ネンドタケを食べることでし							
確認状況								
		工事用 資材等の 搬出入	_					
	工事の	建設機械 の稼働	_					
予測	実施	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外で改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の大学を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じるととにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困じまる。一時的な影響を低減する。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境存在し、本種の食草・食樹であり広葉樹の枯木に発生するネンドタケも一様に分布している考えられることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。さらに、「非改変状の立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
結果	土工工の及供地は作存び用	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本このため、当初の事業計画の見直しによ果、本種の生息環境の改変率は下表のと変回避)。また、本種の幼虫の食草・食材ると考えられる。  生息環境 落葉・常緑広葉樹林 さらに、「低反射型太陽光パネルを採りによる局地的な温度の上昇や光害等の影限り本種への影響を低減する。	重の生息 り、おり、2: 対である 面積 (ha) 102.43 目する 11 手を抑制	環境 (落葉 る限り生息: 2.97%から2 ネンドタケッ 改変面 当初計画 23.53 とや周辺に約	・常緑広葉林 環境への影 1.14%まで車 も残される値 見直し後 21.65 录地を配置で 措置を講じ	響の回避を  経滅される 範囲に一様に 改変 <sup>3</sup> 当初計画 22.97 することに。	図る。この結 (1.88haの改 こ分布してい 率(%) 見直し後 21.14 より、反射光
<b>沪</b> ,4		の撤去・ 廃棄	以上のことから、本種の生息環境への 太陽光パネル等の撤去・廃棄により、 しながら、工事の実施時以上の地形の改 いこと、工事の実施時と同様の環境保全 小さいと予測する。なお、太陽光パネルの 行い、樹林植生の早期回復に努めること する。 数字は小数点第3位を四捨五入した値を	L事の実 変はされ 措置を講 の撤去箇 こより、	施時と同様 ないこと、( じることか 所は、可能。 本種の生息ほ	な影響が生 作業規模が ら、その影響 な限り在来る 環境は現況を	工事の実施問 響は工事の 種の樹木等は 程度まで回行	寺よりも小さ 実施時よりも こよる緑化を 复すると予測

## 表 8-1-4-87(24) 予測結果(昆虫類:モンスズメバチ)

種名	モンスズメバチ						
選定 状況	DD(環	竟省報道発	き表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)				
一般生態	【生態】 本種の 虫も	【分布】北海道、本州、四国、九州。 【生態】平地、低山地の夏緑広葉樹林等に生息し、樹洞、屋根裏や戸袋内部、鳥の巣箱等、閉鎖空間に営巣する。 本種の獲物の大部分は各種のセミ類によって占められている。セミの少ない時期にはトンボ類等、各種大型昆 虫も捕らえる。 参考文献:「群馬県レッドデータブック 2012」(群馬県ホームページ)					
確認状況	【成虫	(死骸含む)	いて、以下のとおり確認された。 )】対象事業実施区域内で1例1個体が確認された(ベイトトラップ)。 十葉樹林であった。				
		工事用 資材等の 搬出入					
	工事の 実施	建設機械 の稼働					
		造成等 の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及 び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐 採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じる ことにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
予測 結果		地形改変	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される (6.67ha の改変回避)。				
	土地 又は	及び 施設の 存在	生息環境     出情(ha)     当初計画     見直し後     当初計画     見直し後       落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林     189.37     35.78     29.12     18.90     15.38				
	工作物 の存在 及び 供用	17 122	さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
		の撤去・	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。				
注·生	: 息環境(		)数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。				

## 表 8-1-4-87(25) 予測結果(昆虫類:アシボソミケハラブトハナアブ)

秝夂	衣 6-1-4-87(25)						
選定							
状況	NT1(培	玉県レッ	ドデータブック動物編 2018(第 4 版))				
一般生態確認状況	【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、秩父市と嵐山町で記録されている。 【生態】夏に台地・丘陵帯、低山帯、山地帯で発生する。明るい林縁等で各種植物に訪花する。森林に生息する種で、幼虫は朽木で育つと思われる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) ・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 ・確認環境は、低茎草地であった。						
	4年中心	※売13、 E	全手地 ( め) りた。				
		工事用 資材等の 搬出入	_				
	工事の	建設機械 の稼働	_				
予測	実施	造成等 の施よる によら的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避が困難であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、本種の幼虫の生息場所である朽木も一様に分布していると考えられることから、その範囲で幼虫の生息が維持されると考えられる。その影響は小さいと考えられる。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
結果	又は 工作を 及び 供用	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から 15.38%まで軽減される(6.67ha の改変回避)。また、本種の幼虫の生息場所である朽木も一様に分布していると考えられる。  生息環境 面積 改変面積(ha) 改変率(%) 当初計画 見直し後 当初計画 見直し後 落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒ/キ植林 189.37 35.78 29.12 18.90 15.38  さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。 太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しか				
<b>沪</b> . Д		の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。 )数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。				

# 表 8-1-4-87(26) 予測結果(昆虫類:コバントビケラ)

種名	コバン	トビケラ					
選定 状況	[全県]N	IT [低山 <sup>7</sup>	帯、台地・丘陵帯]NT2(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))				
一般生態	【分布】北海道、本州、四国、九州、与那国島。埼玉県では、は低山帯の秩父地方から台地・丘陵帯の狭山付近までの荒川水系中流域から比較的まとまった数の産地が知られている。 【生態】幼虫は主に流水性であり、水質の良い河川中・下流域の緩流部や流水の流れ込む湖沼に生息し、落ち葉が堆積した部分や抽水植物の根際、石の陰等から得られる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)						
確認状況							
		工事用 資材等の 搬出入					
		建設機械 の稼働					
予測結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
747	土地 又は 工作物	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
	の存在 及び 供用		太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。				

# 表 8-1-4-87(27) 予測結果(昆虫類:ミヤマセセリ)

4壬 夕	3 2000	h <del>나</del> 11						
選定	ミヤマ	227						
状況	[全県、	台地・丘	陵帯]NT1(埼玉県レッドデータブック	動物編 20	18(第4版)	)		
一般生態	【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、丘陵や低山帯〜山地帯にやや普通に生息している。 【生態】平地〜山地の落葉広葉樹林に生息する。丘陵地〜低山地の手入れのされた日当たりのより雑木林でよく 見られる。食草・食樹はコナラ、クヌギ、ミズナラ等のブナ科。 参考文献:「フィールドガイド 日本のチョウ」(2012 年、誠文堂新光社)							
確認 状況	・春季調査において、以下のとおり確認された。 【成虫(死骸含む)】対象事業実施区域外で1例1個体が確認された。 ・確認環境は、低茎草地であった。							
		工事用 資材等の 搬出入	_					
	工事の	建設機械の稼働	_					
予測	実施	造成等 の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生りび改変区域外に本種の生息環境が存る 採等を行う場合、段階的に実施することにより、出来る限り本種の生息野であると考えられる。しかしながら、存在し、本種の食草・食樹も確認され考えられる。さらに、「非改変域への留める」等の措置を講じることにより減する。 以上のことから、本種の生息環境	Eし、移動が ことでの影響 対象の事業 対ているりる いなも は 対 が は 対 が は が は り は り り り り り り り り り り り り り り	い可能である。 環境への動物 響を低減する 医施区域外及 とから、その 制限し、作り もり改変区域	と想定され の移動を促 。一方、本 び改変区域 の範囲で幼虫 業員等によっ な外の本種の	る。さらに 全す」等の措 種の幼虫は な外に本種の はの生息が維 る人為的圧	、「樹木の伐 置を講じる 逃避が困難 生息環境が 持されると 力を最小限に
結果	土 地 は 作存 び 用	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、ため、当初の事業計画の見直しにより、ため、当初の事業計画の見直しにより本種の生息環境の改変率は下表のとな避)。また、本種の食草・食樹は対象虫の生息環境も残される。  生息環境 落葉広葉樹林 さらに、「低反射型太陽光パネルをによる局地的な温度の上昇や光害等の限り本種への影響を低減する。以上のことから、本種の生息環境を	本種の生息の、出来る例のの、出来る例ののでは、24.38 事業実施区 面積 (ha) 96.09 採用するこの影響な力能	環境(落葉 まり生息環境 %から22.41 域外及び改善 当初計画 23.43 とや周辺に対する」等の いさいと予測	広葉樹林) たへの影響の %まで軽減さ 変区域外に 積(ha) 見直し後 21.53 緑地を配置 緑地を配置 対措置を講じ	P回避を図るされる(1.9)も存在する。 改変: 当初計画 24.38 することによ	。この結果、 Oha の改変回 ことから、幼 <u>率(%)</u> 見直し後 22.41 より、反射光 り、出来る
		の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄によりしながら、工事の実施時以上の地形のいこと、工事の実施時と同様の環境係小さいと予測する。なお、太陽光パネ行い、樹林植生の早期回復に努めるこする。	)改変はされ 民全措置を講 いの撤去箇 とにより、	ないこと、 じることか 所は、可能 本種の生息	作業規模が ら、その影響な限り在来を 環境は現況を	工事の実施印響は工事の 響は工事の 種の樹木等に 程度まで回行	寺よりも小さ 実施時よりも こよる緑化を 复すると予測

## 表 8-1-4-87(28) 予測結果(昆虫類:ギンイチモンジセセリ)

秳々	ゼンノ		· 中 II					
1-44 1-7			. ビリ 経表資料 環境省レッドリスト 2020 の公割	生たへい	<b>ナ</b> )			
選定						010/笠 / 5	7))	
1/1/L								こいて が立山
一般生態	は局 【生態】 草・1	【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、河川流域の草地、休耕田跡等、草原に広く分布しているが産地は局地的である。 【生態】平地〜山地の乾性草原や、河川堤防や農地周辺の草地、採草地、山地の稜線沿いの草原に生息する。食草・食樹はススキ、チガヤ、オオアブラススキ、ヨシ等のイネ科。 参考文献:「フィールドガイド 日本のチョウ」(2012 年、誠文堂新光社)						
	<ul> <li>春季</li> </ul>	調査におい	・					
確認 状況	【成虫	(死骸含む)	】対象事業実施区域内で1例1個体(改 5茎草地であった。	変区域内	可で1例1個	体)が確認	引された。 -	
		工事用 資材等の 搬出入	-					
		建設機械 の稼働	_					
	工事の実施	造成等 の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生じる び改変区域外に本種の生息環境が存在し 採等を行う場合、段階的に実施すること ことにより、出来る限り本種の生息環境 であると考えられる。しかしながら、対 存在し、本種の食草・食樹も確認されて 考えられる。さらに、「非改変域への立ち 留める」、「太陽光パネルの設置箇所下部 期緑化を行い、植生の早期回復に努める 外の本種の生息環境への影響を低減する 以上のことから、本種の生息環境への	、移動の選挙を の事るりなる の事るりむの を等のが のを のを のが、 のを のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、	での記である物質を低減する 関係の対する 関を低減外を がいる、 制限し、作う がはでする がはない。 にいる がはない。 にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる	とのの一次でである。び範囲では一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次ででに、といった。といった。といった。といった。といった。といった。といった。	る。さらに きす」等の 種の幼年 が に本種の の生息が は る 人 為 的 に な た に な れ に 本 れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ い が れ に れ い が れ に れ ら が れ に る ら が れ ら る り ら る る ら る に る に る に る に る に る に る の と る に る に る に る に る に る に る に る に る の と る の と る の と の と の と の と の と の と の	、「樹木の伐 置を講じる 逃避が困難 生息環境が 持される りを最小限に 配慮した早
予測 結果	土又工の及供地は作存び用物在	地形改変 及び 施設の	地形の改変及び施設の存在により、本初の事業計画の見直しにより、出来る限息環境の改変率は下表のとおり、41.42%た、本種の食草・食樹は対象事業実施区境環境も残される。  生息環境  草地	種の生息 り生息環 から 40 或外及び 面積 (ha) 28.01	環境(草地) 境への影響。 78%まで軽減 改変区域外に 改変区域外に 当初計画 11.60	の一部が の回避を図 或される(C こも存在す 漬(ha) 見直し後 11.43	る。この結り 0.18ha の改 ることから、 改変 <sup>率</sup> 当初計画 41.42	果、本種の生 変回避)。ま 幼虫の生息 <sup>を(%)</sup> 見直し後 40.78
		存在	本種の生息環境の改変率はやや大きいにより出現しており、そこでの確認個体とから、元々の本種の生息環境は対象事さらに、「低反射型太陽光パネルを採用による局地的な温度の上昇や光害等の影緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適講じることにより、出来る限り本種への以上のことから、本種の生息環境への	は 工事を 関するこ 響を抑制 切に管理 影響を仮	後に周辺環境 区域周辺にも とや周辺に総 引する」、「太 関することで 低減する。	から侵入し存在すると 存在すると 录地を配置で 陽光パネル 緑地環境を	てきたと想 考えられる することに の設置箇所	定されるこ。 。 、り、反射光 下部を含む
20. 4		の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、こしながら、工事の実施時以上の地形の改えいこと、工事の実施時と同様の環境保全対小さいと予測する。なお、太陽光パネルの行い、樹林植生の早期回復に努めることはする。	変はされ 昔置を講 り撤去箇 こより、	ないこと、作じることから 所は、可能な 本種の生息野	手業規模が る、その影響 は限り在来程 環境は現況程	工事の実施師 響は工事の領 重の樹木等に 程度まで回復	寺よりも小さ 医施時よりも こよる緑化を 复すると予測
注:生	息環境	の面積等の	数字は小数点第3位を四捨五入した値を	記載して	ているため、	合計等の値	が合わない	場合があ

## 表 8-1-4-87(29) 予測結果(昆虫類:ウラゴマダラシジミ)

種名	ウラゴー	マダラシシ	? ミ					
選定	「全県]	/U 「台地	・丘陵帯]NT1(埼玉県レッドデータブッ:	ク動物編	2018(第 4	版))		
状況			本州、四国、九州。埼玉県では、低地と				布していた	が、現在は大
一般生態	宮台 <sup>1</sup> 【生態】 はイ <sup>2</sup>	地で絶滅し   平地〜丘 ボタノキ、	た。山地ではやや普通に見られる。 陵地では谷戸や湿地周辺、低山地〜山地 ミヤマイボタ、オオバイボタ、ムラサキ ールドガイド 日本のチョウ」(2012 年、	では河川 ・ハシドィ	や渓谷沿い   等のモクセ	の広葉樹林		
確認状況	【成虫	(死骸含む)	て、以下のとおり確認された。 】対象事業実施区域外で1例1個体が確 業樹林であった。	認された	<del>.</del>			
		工事用 資材等の 搬出入	_					
	工事の	建設機械 の稼働	_					
予測.	実施	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区で改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「検探等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を設定とにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。一方、本種の幼虫は逃避であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息であると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息が維持されていることから、その範囲で幼虫の生息が維持されている。さらに、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最留める」等の措置を講じることにより、出来る限り改変区域外の本種の生息環境への影響はある。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
結果	土地	地形改変 及び 施設の	地形の改変及び施設の存在により、本 このため、当初の事業計画の見直しによ 果、本種の生息環境の改変率は下表のと 変回避)。また、本種の食草・食樹は対象 幼虫の生息環境も残される。 生息環境	種の生息 り、出来 おり、22	環境 (落葉 る限り生息 2.97%から 2	・常緑広葉樹 環境への影 1.14%まで轉 で数変区域外	響の回避を  軽減される	図る。この結 (1.88ha の改 つることから、
	又は	存在	落葉・常緑広葉樹林	102. 43	23. 53	21. 65	22. 97	21. 14
	工作物 の存在 及び 供用		さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
		の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、しながら、工事の実施時以上の地形の改いこと、工事の実施時と同様の環境保全いさいと予測する。なお、太陽光パネルでい、樹林植生の早期回復に努めることする。	変はされ 措置を講 の撤去箇 により、	ないこと、( じることか 所は、可能; 本種の生息!	作業規模がら、その影響な限り在来を な限り在来を 環境は現況を	工事の実施問 響は工事の 種の樹木等は 程度まで回行	時よりも小さ 実施時よりも こよる緑化を 复すると予測

## 表 8-1-4-87(30) 予測結果(昆虫類:クモガタヒョウモン)

種名	クモガ	タヒョウモ	- · · ·					
强宁								
状況	NT2(埼	·玉県レッ	ドデータブック動物編 2018(第4版))					
一般生態確認	【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、低山帯を中心に分布する種で、低地での記録は少ない。大宮台地でも絶滅したと考えられる。丘陵部から低山帯には産地がある。 【生態】丘陵地〜山地の森林及びその周辺の草地。渓流や林道に沿った林縁部、疎林等でよく見られる。食草・食樹はタチツボスミレ、オオタチツボスミレ、ミヤマスミレ等のスミレ科。参考文献:「フィールドガイド 日本のチョウ」(2012年、誠文堂新光社) ・春季調査において、以下のとおり確認された。							
状況			)】対象事業実施区域内で 2 例 2 個体(改 5茎草地であった。	、及 凸 域 r	1 C 2 D12 P	「一十八八十年」	3 C 4 U/Co	
	- 北田市(2)	<b>米児/よ、□</b>	至平地でありた。					
		工事用 資材等の 搬出入	_					
	<b>下書</b> の	建設機械 の稼働	_					
予測	工事の実施	・ -   「						
結果			地形の改変及び施設の存在により、本草地)の一部が消失する。このため、当家との回避を図る。この結果、本種の生で軽減される(6.55haの改変回避)。また域外にも存在することから、幼虫の生息生息環境	勿の事業 息環境⊄ た、本種	計画の見直 )改変率は下 の食草・食材	しにより、! 表のとおり 歯は対象事	出来る限り 、21.80%か	生息環境への いら 18.65%ま 外及び改変区
	土地	施設の	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、草	217. 39	47. 39	40. 54	21.80	18. 65
	又は 工作物 のび 供用		地 さらに、「低反射型太陽光パネルを採用による局地的な温度の上昇や光害等の影緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適講じることにより、出来る限り本種への以上のことから、本種の生息環境への太陽光パネル等の撤去・廃棄により、しながら、工事の実施時以上の地形の改いこと、工事の実施時と同様の環境保全	用するこ 響を抑制を管理を受いる。 影響は小 となっている。 となっている。 となっている。 というでは、 というでは、 というでは、 はいる。 というでは、 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。	とや周辺に終   する」、「太 ! することで	录地を配置 <sup>*</sup> 陽光パネル 緑地環境を する。 な影響が生 作業規模が ら、その影響	ト することに、 の設置箇所 ・維持する」 じると考え 工事の実施に 響は工事の。	より、反射光 下部を含む 等の措置を られる。しか 時よりも小さ 実施時よりも
<b>分</b> . #	- 自堙控	廃棄	小さいと予測する。なお、太陽光パネル 行い、樹林植生の早期回復に努めること する。 )数字は小数点第3位を四捨五入した値を	により、	本種の生息理	環境は現況	程度まで回行	復すると予測

### 表 8-1-4-87(31) 予測結果(昆虫類:アサマイチモンジ)

種名	アサマ	イチモンシ							
選定状況			凌帯]NT2 [低山帯]VU(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))						
一般生態確認況	【生態】平地~低田地の明るい樹林環境に生息する。維木林や農地の林稼部、低木林の他、河川堤防の數でよく見られる。食草・食樹はスイカズラ、タニウツギ等のスイカズラ科。参考文献:「フィールドガイド 日本のチョウ」(2012 年、誠文堂新光社) ・夏季調査において、以下のとおり確認された。 【成也(死験会表)】社会事業実施区域外で1例1個体が確認された。								
		工事用 資材等の 搬出入	_						
	工事の	建設機械 の稼働	_						
予測	実施								
結果	土地 又 工 の 及 供 用	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、 伐採跡地・竹林)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生 息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、19.27%から 15.94%まで軽減される(6.55haの改変回避)。また、本種の食草・食樹は対象事業実施区域外及 び改変区域外にも存在することから、幼虫の生息環境も残される。 生息環境 面積 改変面積(ha) 改変率(%) 当初計画 見直し後 当初計画 見直し後 落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒ/キ植林、伐 196.57 37.87 31.33 19.27 15.94 さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光 による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、以射光 による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る 限り本種への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
注:生	, E1 7PP 1.4**	の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復すると予測する。 数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。						

# 表 8-1-4-87(32) 予測結果(昆虫類:ミスジチョウ)

種々	ミズジ	チョウ						
選定								
	[全県]	NT2 [台地	2・丘陵帯]W∪(埼玉県レッドデータブック	か動物編	2018(第4	版))		
一般生態	【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、現在は丘陵地から低山帯にかけて広い範囲で見られるが、分布はやや局地的。 【生態】関東以北では平地〜山地、中部以西では主に山地の渓谷の落葉広葉樹林に生息する。渓谷沿いには食草の							
確認状況	【成虫	(死骸含む)	↑て、以下のとおり確認された。 ♪】対象事業実施区域内で1例1個体(改 、工構造物であった。	変区域内	内で1例1個	体)が確認	思された。	
		工事用 資材等の 搬出入	_					
	工事の	建設機械 の稼働	_					
予測	実施	造成等 の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生じる び改変区域外に本種の生息環境が存在し 採等を行う場合、段階的に実施すること ことにより、出来る限り本種の生息環境 であると考えられる。しかしながら、対 存在し、本種の食草・食樹も確認されて 考えられる。さらに、「非改変域への立ち 留める」等の措置を講じることにより、 減する。 以上のことから、本種の生息環境への	、移動が でへ事での事業を いるりを いるりを いるりを のと のと のと のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの	ぶ可能である 環境への動物 いを低減する に施区域外及 から、その 制限し、作 、 は り改変区域	と想定され の移動を仮 。一方、本 び改変区域 範囲で幼虫 業員等による 外の本種の	る。さらに 全す」等の措 種の幼虫は な外に本種の なの生息が維 る人為的圧	、「樹木の伐 置を講じる 逃避が困難 生息環境が 持されると 力を最小限に
結果	土又工の及供地は作存び用		地形の改変及び施設の存在により、本ため、当初の事業計画の見直しにより、本種の生息環境の改変率は下表のとおり避)。また、本種の食草・食樹は対象事業虫の生息環境も残される。  生息環境 落葉広葉樹林 さらに、「低反射型太陽光パネルを採用による局地的な温度の上昇や光害等の影限り本種への影響を低減する。 以上のことから、本種の生息環境への	種の生息 出来る別 、24.38 美実施区 面積 (ha) 96.09 目する抑制	環境(落葉 り生息環境 がら22.41 域外及び改多 改変面 当初計画 23.43 とや周辺に約 りする」等の	広葉樹林)	D回避を図る される(1.90 も存在する) 改変 <sup>3</sup> 当初計画 24.38 することに。	。この結果、 Oha の改変回 ことから、幼 <sup>率(%)</sup> 見直し後 22.41 より、反射光
沿, 4	- 自堙淬.	の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、しながら、工事の実施時以上の地形の改立と、工事の実施時と同様の環境保全がさいと予測する。なお、太陽光パネルで行い、樹林植生の早期回復に努めることはする。	工事の実 変はを講 を講しまり、	施時と同様 ないこと、( :じることか 所は、可能 <sup>1</sup> 本種の生息5	な影響が生 作業規模が ら、その影響 な限り在来を 環境は現況を	工事の実施印響は工事の第 種の樹木等は 程度まで回行	寺よりも小さ 実施時よりも こよる緑化を 复すると予測

# 表 8-1-4-87(33) 予測結果(昆虫類:オオムラサキ)

				例和不(比五块				
種名	オオム	ラサキ						
選定	NT(環境	竟省報道発	巻表資料 環境省レッドリス	ト 2020 の公表につい	(て)			
状況	[全県]	/U [台地	・丘陵帯]NT1 (埼玉県レット	ドデータブック動物線	扁 2018(第4	1版))		
一般生態								
確認状況	1 (a) (A							
			(英徳区域)下で17月36日本が 「葉樹林であった。					
		工事用 資材等の 搬出入						
	工事の	建設機械の稼働	_					
予測	実施	造成等 の施よる に い に 時響	はる。さらに ○ 等の措 ※種の幼虫は 成外に本種の は外に本種の はの生息が維 る人為的圧	逃避が困難 生息環境が				
結果			以上のことから、本種の2 地形の改変及び施設の存在 ため、当初の事業計画の見 本種の生息環境の改変率は 避)。また、本種の食草・食 虫の生息環境も残される。	在により、本種の生. 直しにより、出来る 下表のとおり、24.3	息環境(落葉 限り生息環境 8%から 22.41 区域外及び改	広葉樹林) を の影響の  ※まで軽減る	)回避を図る される(1.9	。この結果、 Oha の改変回 ことから、幼
	又は	存在	落葉広葉樹林	96. 09	23. 43	21. 53	24. 38	22. 41
	工作物 の存在 及び 供用		さらに、「低反射型太陽光による局地的な温度の上昇・限り本種への影響を低減する以上のことから、本種の	や光害等の影響を抑 る。 生息環境への影響は	制する」等の 小さいと予測	)措置を講じ	じることによ	り、出来る
			太陽光パネル等の撤去・原					
		太陽光	しながら、工事の実施時以」	上の地形の改変はされ	1ないこと、	作業規模が	工事の実施	寺よりも小さ
		パネル等	いこと、工事の実施時と同様	<b>兼の環境保全措置を</b>	構じることが	ら、その影	響は工事の	実施時よりも
			小さいと予測する。なお、太					
			行い、樹林植生の早期回復に する。					
注: 生	息環境(	otn 面積 $ otng$ $ otng$	)数字は小数点第3位を四捨	五人した値を記載し	ていスため	会計築の値	すが合わわし	は合がある

#### カ)魚類

重要な種の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-88 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。環境影響要因として選定しなかった理由は、表 8-1-4-89 に示すとおりである。

重要な種4種の予測結果は、表8-1-4-90に示すとおりである。

表 8-1-4-88 環境影響要因の選定結果(魚類)

		***************************************	環境影響要因		
<b>在</b> 4		工事の実施	土地又は工作物の 存在及び供用		
種名	工事用 資材等の 搬出入	建設機械 の稼働	造成等の施工 による 一時的な影響	地形改変 及び 施設の存在	太陽光 パネル等の 撤去・廃棄
ドジョウ	_	_	0	0	0
ホトケドジョウ	_	_	0	0	0
ギバチ	_	_	0	0	0
ムサシノジュズカケハゼ	_	_	0	0	0

注:表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「-」は、影響はほとんどない又はないと考えられることから環境影響要因として選定しない項目である。

表 8-1-4-89 環境影響要因として選定しなかった理由(魚類)

選定しなかった環境影響要因	理由
工事用資材等の搬出入	工事用資材等の搬出入及び建設機械の稼働に伴う影響として は、騒音・振動による生息環境の悪化が考えられる。一方、水生 動物への騒音等による逃避・減少の影響については、既存文献に
建設機械の稼働	よれば「空気と水中のインピーダンス(抵抗)の差が極めて大きいため、空中から到来した音波のエネルギーの大部分が反射され、空中の音が水中に伝わることはほとんどない」とされており、影響はほとんどないと考えられたため、環境影響要因として選定しなかった。

注:参考文献「水生動物の音の世界」(平成17年、竹村暘)

# 表 8-1-4-90(1) 予測結果(魚類:ドジョウ)

	ドジョ	ウ				
選定 状況	NT(環境	竟省報道発	表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)			
一般生態						
確認状況						
		工事用 資材等の 搬出入				
	工事の実施	建設機械 の稼働				
予測結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:流水、農耕地)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が 考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分 に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結 果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測す る。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。			
	土 地 は な で存 び 田	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。			
			太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。			

# 表 8-1-4-90(2) 予測結果 (魚類:ホトケドジョウ)

種名	ホトケ	ドジョウ				
選定	EN(環	竟省報道発	表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)			
状況			ドデータブック動物編 2018(第 4 版))			
一般生態	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •					
確認状況	<ul><li>春季。</li></ul>	及び秋季調	B査において、対象事業実施区域外の開放水域で 27 個体が確認された。			
		工事用 資材等の 搬出入	_			
	工事の実施	建設機械 の稼働				
予測結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。			
	土地	地形改変 及び 地 施設の は 存在 作物	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。			
		パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。			

## 表 8-1-4-90(3) 予測結果(魚類:ギバチ)

	ギバチ						
選定 状況	VU(環境	竟省報道発	表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)				
一般生態	【分布】関東・東北地方に分布する。 【生態】河川の中粒から上流下部域で、砂礫底で抽水植物のある、水の清涼な流水域に生息する。幼魚は農業用水の水路を生息場所として利用していることもある。夜間に活動して小型魚類、水生昆虫、エビ等を捕食する。産卵期は6月~8月。石の下面や、抽水植物の根元等の間隙に卵を産む。定住性が強く、移動範囲は大きくない。参考文献:「レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・湛水魚類」(2015 年、環境省)						
確認状況	· 春季	及び秋季調	閉査において、対象事業実施区域外の開放水域で 10 個体が確認された。				
	工事の実施	工事用 資材等の 搬出入					
		建設機械の稼働					
予測結果		造成等 の施工 に一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
THE ACTION AND ADDRESS OF THE ACTION AND ADD	土地 又は 工作物 の存在	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
			太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。				

# 表 8-1-4-90(4) 予測結果 (魚類: ムサシノジュズカケハゼ)

	ムサシ	ノジュズカ	1ケハゼ					
選定 状況	EN(環	竟省報道発	表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について)					
一般生態	【分布】関東地方の那珂川、利根川、荒川、多摩川の4水系の中流域に分布する。 【生態】河川中流域の流れの緩い淵や、湧水のある河川敷のたまりに生息する。湧水のあるワンドやたまり、流れの緩い淵の泥底に穴を掘って産卵する。仔稚魚から幼魚は抽水植物の周り等で浮遊していることが多く、成長とともに底生生活に移行する。動物食性でユスリカ幼虫等を食べる。 参考文献:「レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・湛水魚類」(2015 年、環境省) 「山渓ハンディ図鑑 15 増補改訂 日本の淡水魚」(2019 年、山と渓谷社)							
確認状況	・秋季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で1個体が確認された。							
		工事用 資材等の 搬出入						
		建設機械の稼働						
予測結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
	土地	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
			太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。					

#### キ) 底生動物

重要な種の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-4-91 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。環境影響要因として選定しなかった理由は、表 8-1-4-92 に示すとおりである。

重要な種 8 種の予測結果は、表 8-1-4-93 に示すとおりである。なお、昆虫類の現地調査で確認されたヤマサナエ、オオアメンボ、コバントビケラ、ゲンジボタル及びヘイケボタルの予測結果は、昆虫類で示したとおりである。

表 8-1-4-91 環境影響要因の選定結果(底生動物)

	201101	***************************************	環境影響要因		
EF 67		工事の実施	土地又は工作物の 存在及び供用		
種名	工事用 資材等の 搬出入	建設機械 の稼働	造成等の施工 による 一時的な影響	地形改変 及び 施設の存在	太陽光 パネル等の 撤去・廃棄
ナミウズムシ	_	_	0	0	0
ヌカエビ	_	_	0	0	0
サワガニ	_	_	0	0	0
コシボソヤンマ	_	_	0	0	0
アオサナエ	_	_	0	0	0
ヒメサナエ	_	_	0	0	0
ムナグロナガレトビケラ	_	_	0	0	0
ホソバトビケラ	_	_	0	0	0

注:表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目、「一」は、影響はほとんどない又はないと考えられること から環境影響要因として選定しない項目である。

表 8-1-4-92 環境影響要因として選定しなかった理由(底生動物)

選定しなかった環境影響要因	理由
工事用資材等の搬出入	水生動物への騒音による逃避・減少の影響については、既存文献によれば、「空気と水中のインピーダンス(抵抗)の差が極めて大きいため、空中から到来した音波のエネルギーの大部分が反
建設機械の稼働	射され、空中の音が水中に伝わることはほとんどない」とされており、影響はほとんどない又はないと考えられたため、環境影響要因として選定しなかった。 なお、昆虫類(コシボソヤンマ、アオサナエ、ヒメサナエ、ムナグロナガレトビケラ、ホソバトビケラ)の成虫において、環境影響要因として選定しなかった理由は、表 8-1-4-86 に示したとおりである。

注:参考文献「水生動物の音の世界」(平成17年、竹村場)

# 表 8-1-4-93(1) 予測結果(底生動物:ナミウズムシ)

種名	ナミウズムシ						
選定 状況	[全県、	台地・丘	凌帯]LP(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))				
一般生態	- 1 【生能】 作物農から川地農にかけてルく 分布! - 水質(/) ROD 値か 3nnm U ト(/)浸水管度トに生目! - 畑水や畑川(/)!						
確認状況							
		工事用 資材等の 搬出入					
		建設機械の稼働					
予測結果		造成等 の施工 に一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
THE ACTION OF TH	土地 又は 工作物 の存在	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
		パネル等 の撤去・ 廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。				

## 表 8-1-4-93(2) 予測結果(底生動物:ヌカエビ)

種名	ヌカエビ								
選定 状況	[全県]N	NT2(埼玉)	県レッドデータブック動物編 2018(第4版))						
一般生態	その 【生態】 ともる 豊かる 空間。	【分布】本州(伊勢湾東部から新潟県村上を結ぶ線から以東および以北)。埼玉県では、荒川水系、利根川水系とその支派川及び用水や池沼等に生息する。 【生態】河川中下流域、農業用水、池沼に生息する。汽水域には生息していない。スジエビより上流に生息することもあり、上限は標高 200m以上のヤマメ生息域に達することもある。繁殖力が強く、河川では水際帯の植生が豊かな場所に多く生息している。護岸改修された水路では泥が堆積し、水際植生帯が復元すると二次的な生息空間として定着することも多い。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)							
確認状況	• 早春 <sup>2</sup>	季及び夏季	ご調査において、対象事業実施区域外の開放水域で2個体が確認された。						
		工事用 資材等の 搬出入							
	-	建設機械 の稼働							
		造成等 の施工 による 一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
予測結果	世形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境の一部は、調整池として利用された。   加しながら、調整池以外の生息環境は、下表のとおり、63.57%存在する。さらに、これでは、   加付として示していない飯田川等の開放水域(流水)が広く存在し、繁殖も流水環境でれていることから、本種の生息環境は広く残される。  生息環境								
30. "	ماده الاواد الأم		況程度になると予測する。 ) 数字は小数点質3位を開始ますした値を記載しているため、全計等の値が合わない提合がある。						

# 表 8-1-4-93(3) 予測結果(底生動物:サワガニ)

種名	サワガニ						
選定 状況	[全県]	NT2(埼玉	県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))				
一般生態	【分布】本州、四国、九州(南部)、南西諸島。埼玉県では、荒川水系、利根川水系とその流域の支派川等に分布している。 【生態】河川の中下流域で湧泉がある場所や河川やその支川等に分布している。雑食性で歩行力があり、河川から細流や湧泉、さらに水辺から離れた湿り気のある場所にも生息する。餌の種類は成長段階によって異なるが、基本的には雑食性で、ミミズ、ヨコエビ類、貝類等の他、水生昆虫やガの幼虫、魚の死体、落葉等も食べる。参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「川の生物図典」(1996年、山海堂)						
確認状況	• 早春 <sup>2</sup>	季及び夏季	►調査において、対象事業実施区域外の開放水域で11個体が確認された。				
		工事用 資材等の 搬出入					
	工事の 実施	建設機械の稼働					
予測		造成等 の施工 による 一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
結果	土 地は な作存 で の 及供 の の の の の の の の の の の の の	地形改変 及び 施設の 存在	本種の主な生息環境は開放水域(流水)であるが、水量が少ない湿地に近いような沢にも生息しており、地形の改変及び施設の存在によりそれらの環境の一部が消失する。一方、本種については、「生態系」においてタヌキの餌資源調査としてその密度を調査しており、その分布をみると改変の程度は小さく、本種の生息環境は広く残される(生態系 図8-1-6-24参照)。改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。				
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。				

## 表 8-1-4-93(4) 予測結果 (底生動物:コシボソヤンマ)

	コシボ	ソヤンマ							
選定状況	NT1(埼	5玉県レッ	ドデータブック動物編 2018(第 4 版))						
一般生態	【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島。埼玉県では、これまでに低地帯からの記録はない。丘陵帯から低山帯の清流にやや局地的に生息する。 【生態】主に平地や丘陵地の木陰の多い流れに生息する。幼虫は水中に露出した植物の細い根束や挺水植物の根際等につかまって生活している。未熟個体は近くの林に移って生活する。 参考文献:「原色 日本トンボ幼虫・成虫 大図鑑」(1999年、北海道大学図書刊行会)								
確認 状況	<ul><li>早春</li></ul>	季及び夏季	調査において、対象事業実施区域外の開放水域で 14 個体が確認された。						
		工事用 資材等の 搬出入	_						
	工事の実施	建設機械 の稼働							
		の施工 による	造成等の施工により忌避行動が生じると考えられる。しかしながら、対象事業実施区域外及び改変区域外に本種の生息環境が存在し、移動が可能であると想定される。さらに、「樹木の伐採等を行う場合、段階的に実施することで周辺環境への動物の移動を促す」等の措置を講じることにより、出来る限り本種の生息環境への影響を低減する。本種の幼虫の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
予測 結果			地形の改変及び施設の存在により、本種の成虫の生息環境(落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林)の一部が消失する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生息環境への影響の回避を図る。この結果、本種の生息環境の改変率は下表のとおり、18.90%から15.38%まで軽減される(6.67haの改変回避)。						
			生息環境 面積 改変面積(ha) 改変率(%)						
		地形改変	大学(ha)当初計画見直し後当初計画見直し後落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林189.3735.7829.1218.9015.38						
	土地		さらに、「低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する」等の措置を講じることにより、出来る限り本種への影響を低減する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。						
			太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境は現況程度まで回復						
注,生	自得倍		すると予測する。 数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。						

## 表 8-1-4-93(5) 予測結果(底生動物:アオサナエ)

			アオサナエ						
[全県、台地・丘陵帯]NT1(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))									
		国、九州。埼玉県では、これまで低地帯からは未記録。分布の中心は丘陵帯から低山帯を流れ	いる						
7.7.1.0-2.0									
		TARRIAN AND AND AND AND AND AND AND AND AND A							
参考文献	献:「原色	日本トンボ幼虫・成虫 大図鑑」(1999 年、北海道大学図書刊行会)							
・夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で12個体が確認された。									
		_							
工事の									
	の施工 による 一時的な 影響	沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、 造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。	)伐る 考に、						
世形改変 世形改変 世形改変 大									
	【 【 参 ・ 工実 土又工の及供 分河生的活考 夏 事施 地は作存び用布川態流す文 季 の 地は作存び用	【 「 参 ・工実土又工の及供分河生的活考 夏事施歩のに一影地及施存太パの廃本流主の。: 査工資搬建の造のに一影地及施存太パの廃財場に速 原 に事材出設稼成施よ時響地及施存大パの廃水の廃形び設在場へ撤棄水の廃等工る的で光ル去水の廃等工る的で光ル去	【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、これまで低地帯からは未記録、分布の中心は丘陵帯から低山帯を設む						

### 表 8-1-4-93(6) 予測結果 (底生動物:ヒメサナエ)

頹夕	ヒメサ	ナー	表 0 1 4 95 (0)					
强定	2							
状況								
一般生態	【分布】本州、四国、九州。埼玉県では、低地帯や大宮台地からはこれまで未記録である。 【生態】主に山間の渓流や河川の上・中流域に生息する。幼虫は比較的流れの速い瀬の石下や隙間にひそんで生活 している。未熟個体は樹林で生活する。 参考文献:「原色 日本トンボ幼虫・成虫 大図鑑」(1999年、北海道大学図書刊行会)							
確認状況	・早春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外の開放水域で3個体が確認された。							
		工事用 資材等の 搬出入	_					
	工事の	建設機械 の稼働						
	実施	造成等 の施工 による 一時的な 影響	造成等の施工により忌避行動が生じる。 び改変区域外に本種の生息環境が存在し、 採等を行う場合、段階的に実施すること ことにより、出来る限り本種の生息環境、 本種の幼虫の生息環境(開放水域:流 えられる。このため、「濁水については、 沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実が 造成等の施工により流入する濁水の程度に 以上のことから、本種の生息環境への	移動がでした。 移動が でんの のの のの のの のの のの のの のの のの の の の いれ 域 現 が 域 見 が で いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう	び可能である 環境への動物 な低減する でいまで調整池に でので発生して で発生して	と想定され の移動を促 。 成等の施工 二導き一旦則 」等の措置 いる程度以	る。さらに す」等の措 により濁水 宇留し、土* を講じる。	、「樹木の伐 置を講じる の流入が考 立子を十分に この結果、
予測結果			地形の改変及び施設の存在により、本利ノキ植林)の一部が消失する。このため、境への影響の回避を図る。この結果、本利15.38%まで軽減される(6.67haの改変回:	当初の 重の生息	事業計画の	見直しによ 率は下表の	り、出来る	限り生息環.90%から
		地形改変	生息環境	(ha)	当初計画	見直し後	当初計画	見直し後
		地形以及及び	落葉・常緑広葉樹林、スギ・ヒノキ植林	189. 37	35. 78	29. 12	18. 90	15. 38
	1	施設の 存在	さらに、「低反射型太陽光パネルを採用による局地的な温度の上昇や光害等の影響を低減する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には 「濁水については、排水路にて調整池に基 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」 流入する濁水の程度は、現況で発生してい 以上のことから、本種の生息環境への影響	響を抑制 は、 き、 調・ は き等 の 程 は り き に り き り き り き り き は り き り き し り も り も り も り も り も り も り も り も り も り	する」等の を を を に に に に と に に と に に と に に に に に に に に に に に に に	措置を講じ の流入が考 粒子を十分 。こう測する する。	ることによ えられる。 に沈殿させ 、地形の改 。	り、出来る このため、 たのち、上 変等により
		パネル等	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、こかしながら、工事の実施時以上の地形のは小さいこと、工事の実施時と同様の環境化よりも小さいと予測する。なお、太陽光々る緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めすると予測する。	改変はさ 呆全措置 パネルσ	れないこと 【を講じるこ か撤去箇所は	、作業規模 とから、そ 、可能な限	が工事の実 の影響は工 り在来種の	施時よりも 事の実施時 樹木等によ
注·壮	: 自 缙 倍 /	L カ西痔営σ	)数字は小数点第 3 位を四捨五入した値を	記載して	コンスため	<b>今卦竿の</b> は	が合わわい	担合がなる

# 表 8-1-4-93(7) 予測結果(底生動物:ムナグロナガレトビケラ)

1	ムナグロナガレトビケラ							
選定 状況	[全県]	NT [低山	帯、台地・丘陵帯]NT2(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版))					
一般生態	【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、山地帯から台地・丘陵帯にかけて記録されている。 【生態】幼虫は流水性であり、主に水質の良い河川中流域を中心に生息し、瀬の河床の礫間や砂中から得られる。 生息に際して河床が有機物で覆われていないことが重要となる。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)							
確認状況								
		工事用 資材等の 搬出入	_					
		建設機械 の稼働						
予測結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
	土地	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
		パネル等	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。					

# 表 8-1-4-93(8) 予測結果(底生動物:ホソバトビケラ)

種名	ホソバトビケラ							
選定 状況	[全県]N	NT [低山	帯、台地・丘陵帯]NT1(埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版))					
一般生態	【分布】北海道、本州、四国、九州。埼玉県では、は低山帯から台地・丘陵帯にかけて記録されている。 【生態】主に流水性であり、水質の良い河川上・中流域の流れが緩やかで河床に砂が溜まった場所に生息する。流 水が流れ込む湖沼にも生息することがある。 参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)							
確認状況								
		工事用 資材等の 搬出入						
	-	建設機械 の稼働						
予測結果		造成等 の施工 による 一時的な 影響	本種の生息環境(開放水域:流水)の一部には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
	土地 は な な な で 存 び 供 用	地形改変 及び 施設の 存在	地形の改変及び施設の存在により、本種の生息環境は改変されないことから、本種の生息環境への直接的な影響はないと予測する。 改変区域外の本種の生息環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、 「濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上 澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、地形の改変等により 流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。 以上のことから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。					
		パネル等	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種の生息環境への濁水の影響は現況程度になると予測する。					

#### (オ) 評価の結果

#### 7) 環境影響の回避、低減に係る評価

工事用資材等の搬出入、建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響、地形改変 及び施設の存在、太陽光パネル等の撤去・廃棄における重要な種への影響を回避・低減す るための環境保全措置は、表 8-1-4-94 に示すとおりである。

これらの環境保全措置を講じることにより、工事用資材等の搬出入、建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在、太陽光パネル等の撤去・廃棄における重要な種への影響は小さいものと考えられること、ハチクマについては人工代替巣の設置により非改変区域へ営巣地の誘導する代償措置を講ずることで出来る限り本種への影響を軽減することから、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているものと評価する。

なお、猛禽類であるハチクマ、サシバ及びノスリについては、予測に不確実性があると 考えられることから、事後調査を実施して環境保全措置や予測・評価の妥当性を検証する とともに、必要に応じて追加の環境保全措置を検討することとする。また、本事業による 影響は小さいと予測するものの、本事業の類似事例等を踏まえた上で、以下の観点から予 測評価の妥当性を検証する事後調査を実施することとする。

・保全措置として消滅した分のどの程度までを緑化や植樹で代償できるのか、生態的に どこまで代償効果があるのかについて確認する事後調査。

#### 表 8-1-4-94(1) 動物に係る環境保全措置

環境影響要因		環境保全措置の内容
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	械の	・工事関係車両の走行ルートは旧作業道を基本とし、樹林環境の分断をできる限り小さくする。 ・工事用資材等の運搬車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める。 ・工事用資材等の運搬車両の整備、点検を適切に実施する。 ・工事用資材等の運搬車両の整備、点検を適切に実施する。 ・工事用資材等の運搬車両のアイドリングストップを徹底する。 ・建設発生土を原則場内で有効利用し、場外への運搬車両を低減する。 ・造成計画を見直し、搬入する土量を低減する。 ・車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する。 ・建設機械については、低騒音型の機械の使用に努める。 ・建設機械のアイドリングストップを徹底する。 ・計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械の集中稼働を避ける。 ・建設機械の整備、点検を徹底する。 ・非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。 ・樹木の伐採等を行う場合、段階的な実施により周辺環境への動物の移動を促す。 ・工事工程を調整し、猛禽類であるサシバ、ノスリ、ハチクマの繁殖への影響に配慮する。 ・太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める。 ・濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。 ・調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。・造成箇所は、速やかに転圧等を施す。

## 表 8-1-4-94(2) 動物に係る環境保全措置

環境影響要因		環境保全措置の内容
土地又は工作物の存在及び供用	<ul><li>・地形の改変 及び施設 の存在</li></ul>	<ul> <li>・事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させることにより、重要な種をはじめとした動物種の生息環境を保全する。</li> <li>・フェンス等の設置範囲は最小限に留め、可能な限り連続した樹林を残存させる。</li> <li>・低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する。</li> <li>・太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する。</li> <li>・緑地環境周辺に止まり木等を設置し、猛禽類等の採食環境としての利用を促す。</li> <li>・側溝等を整備する場合、落下した動物が登坂・脱出可能な構造を一部で採用する。</li> <li>・濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。</li> <li>・調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。</li> <li>・ハチクマを対象として非改変区域に人工代替巣を設置し、非改変区域へ営巣地を誘導する。</li> </ul>
	• 太陽光	・撤去・廃棄関係車両による搬出入が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める。 ・撤去・廃棄関係車両の整備、点検を適切に実施する。 ・撤去・廃棄関係車両のアイドリングストップを徹底する。 ・車両の運行の際には、十分減速の上、道路へ進入する動物への注意喚起を徹底することにより、ロードキルを未然に防止する。 ・解体機械については、低騒音型の機械の使用に努める。 ・解体機械のアイドリングストップを徹底する。 ・計画的かつ効率的な工事計画を検討し、解体機械の集中稼働を避ける。 ・解体機械の整備、点検を徹底する。 ・非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。 ・那改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。 ・週水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。 ・調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。 ・太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努める。